

三木市障がい者施策に関する アンケート調査

【結果報告書】

令和8年5月

三 木 市

目 次

I アンケート調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査の概要	2
3. 報告書の見方について	3
II 市民アンケート調査の結果	4
障がいがある方に対する意識について	8
障がいなどに関することについて	14
災害時の対応について	19
今後の行政について	21
III 障がいのある方に関する アンケート調査の結果	22
あて名の方（障がいのある方など）のことについて	24
あなたの生活について	34
住まいや暮らしについて	41
相談相手について	43
障がい者に対する差別や偏見について	45
障害福祉サービスの利用について	48
障がい者施策について	53
IV 支援の必要な子どもに関するアンケート調査の結果	60
あなたとご家族について	61
気づきや困ったときの相談などについて	68
福祉サービスや支援について	73
就労・地域生活について	79
行政に対する意見について	83
V 事業所アンケート調査の結果	84
貴事業所について	85
貴事業所のサービス提供の状況について	88
貴事業所の経営について	94
災害時の対応について	98
行政への要望について	99
VI 調査結果からみた本市の課題について	102
1. 市民における障がい福祉への理解について	103
2. 障がい当事者の意識について	103
3. 障がい福祉サービスの利用について	104

I アンケート調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、三木市に居住する市民の共生社会に関する意識、障がいのある人や支援を必要とする子どもの生活状況やニーズ、障害福祉サービス事業を行う事業所や障がい者団体の障害福祉に関する考えなどをおうかがいし、「第6期障害者基本計画・第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画」策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. 調査の概要

調査の目的に基づき、以下の4種のアンケート調査を実施しました。

(1) 市民アンケート調査

◇調査期間：令和8年1月28日～2月20日

◇調査対象：三木市に居住する19歳以上で「障がいのある方に関するアンケート調査」及び「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を送付していない方

◇調査方法：郵送によって調査票を配付し、回収は郵送またはインターネットを通じた回答のいずれかを回答者が選択する方式で実施

(2) 障がいのある方に関するアンケート調査

◇調査期間：令和8年1月28日～2月20日

◇調査対象：三木市に居住する19歳以上の障害者手帳などをお持ちの方

◇調査方法：郵送によって調査票を配付し、回収は郵送またはインターネットを通じた回答のいずれかを回答者が選択する方式で実施

(3) 支援の必要な子どもに関するアンケート調査

◇調査期間：令和8年1月28日～2月20日

◇調査対象：三木市に居住する障害者手帳などをお持ちであったり、障害福祉サービスを利用されている18歳以下（平成20年4月2日以降生まれ）の方

◇調査方法：郵送によって調査票を配付し、回収は郵送またはインターネットを通じた回答のいずれかを回答者が選択する方式で実施

(4) 事業所アンケート調査

◇調査期間：令和8年1月28日～2月20日

◇調査対象：三木市で障害福祉サービス事業を行う事業所

◇調査方法：郵送によって調査票を配付・回収する方式で実施

※各アンケート共通で「障がいのある方」とは「障害者手帳所持者」もしくは「障害福祉サービスを利用されている方（難病の方含む）」を指します。

（５）各調査の回収数・回収率

各調査の回収数・回収率は下表のとおりです。

	配付数	回収数	回収率
市民アンケート調査	1,500 件	668 件	44.5%
障がいのある方に関するアンケート調査	1,100 件	545 件	49.5%
支援の必要な子どもに関するアンケート調査	300 件	140 件	46.7%
事業所アンケート調査	132 件	97 件	73.5%

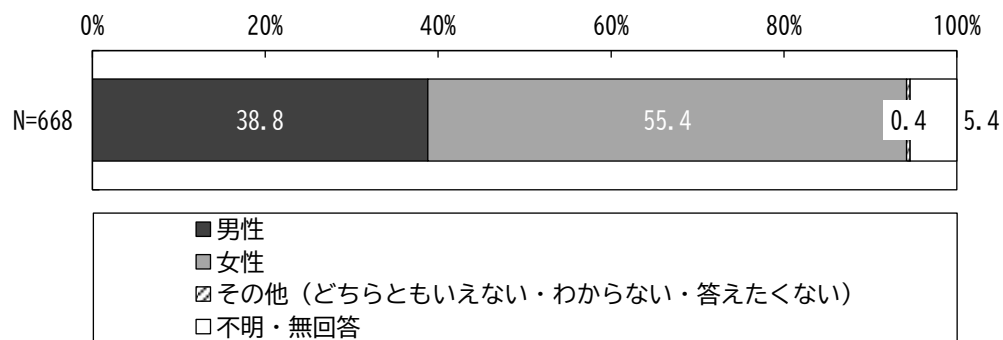
3. 報告書の見方について

- 回答結果の割合「％」は有効回答数に対して、それぞれの選択肢の回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式の質問であっても、表記のパーセント値の合計が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表のいずれにおいても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢からあてはまるすべての選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答者の総数に対する、選択肢ごとの回答者数の割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難だったものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者を限定する質問の場合は限定条件に該当する人の総数）を表しています。
- 本文・図表中の設問の選択肢は簡略化した表記にしている場合があります。
- 障がいのある方に関するアンケートの結果については、障がい種別による状況やニーズの違いを確認するために、基本的に所持手帳別の集計を示しています。その際、身体障害者手帳を所持する人のことを〔身体〕、療育手帳を所持する人のことを〔療育〕、精神障害者保健福祉手帳を所持する人のことを〔精神〕と表記します。
- 障害者手帳はひとりの障がいのある方が複数の手帳を所持している場合があるため、各手帳所持者の総数（N＝〇〇）と、全体の合計は一致しません。
- 帯グラフ上では、視認性の確保のため、「0.0」の値ラベルを省略している場合があります。

Ⅱ 市民アンケート調査の結果

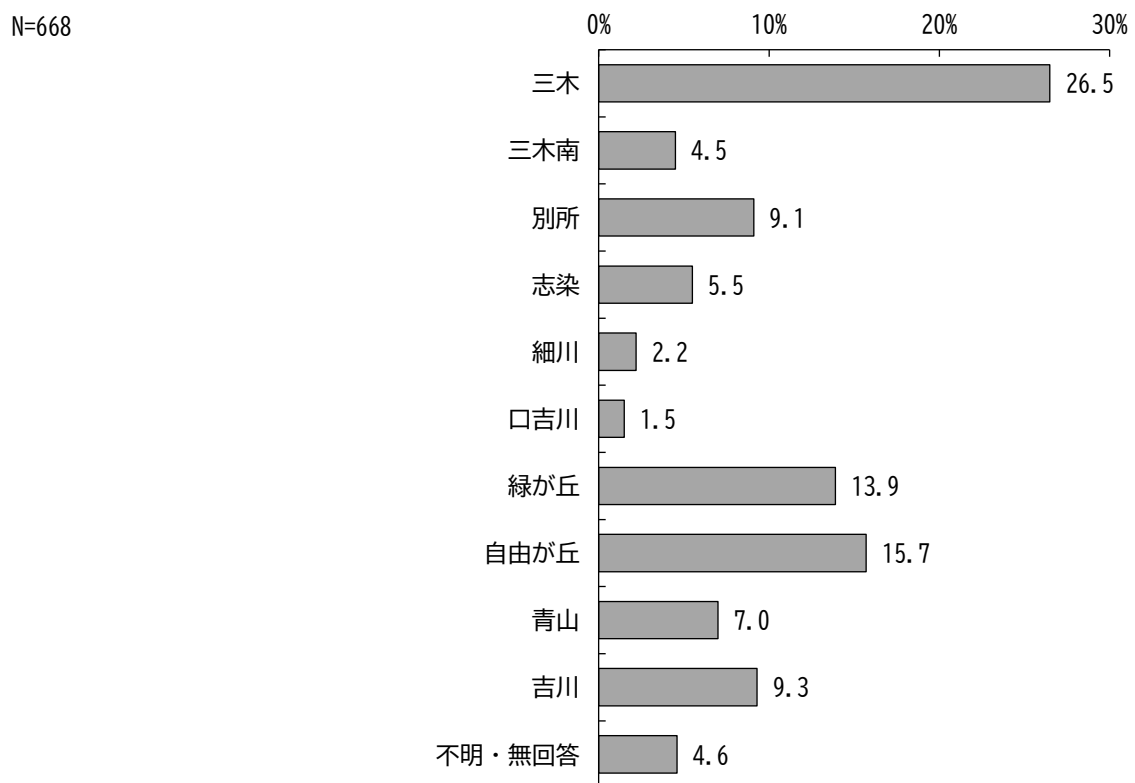
F 1 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

「男性」が38.8%、「女性」が55.4%となっています。



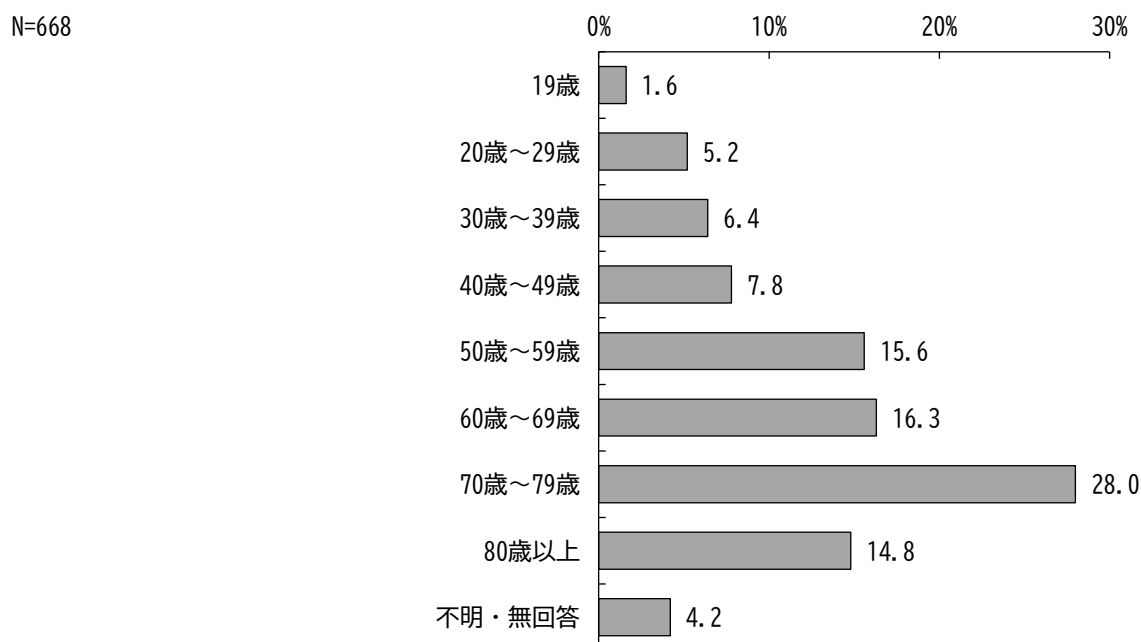
F 2 あなたのお住まいはどちらの地区ですか。(1つに○)

「三木」が26.5%と最も多く、次いで「自由が丘」が15.7%、「緑が丘」が13.9%となっています。



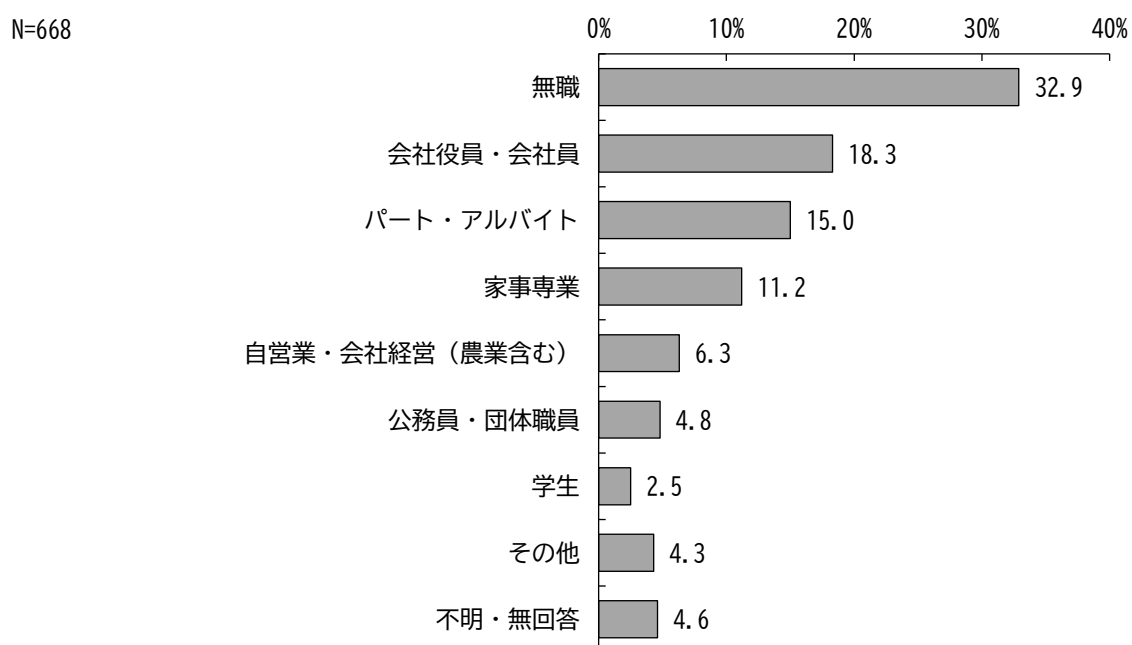
F 3 あなたの年齢はおいくつですか。(1つに○)

「70歳～79歳」が28.0%と最も多く、次いで「60歳～69歳」が16.3%、「50歳～59歳」が15.6%となっています。



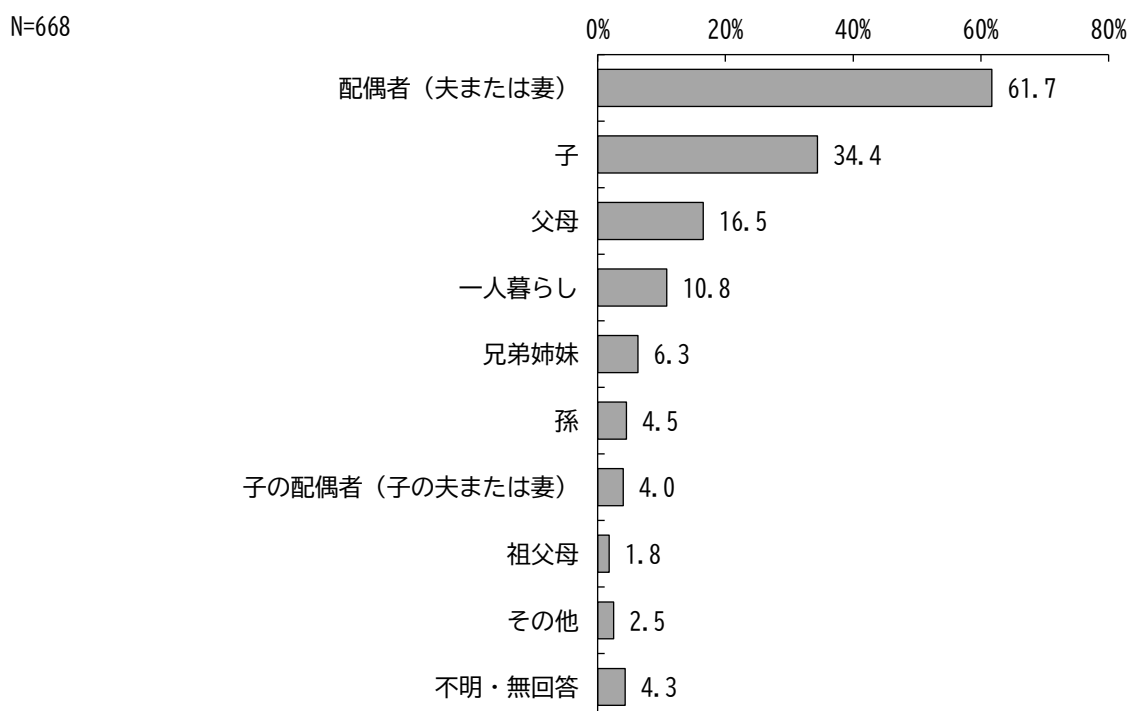
F 4 あなたの仕事についてお伺いします。主な収入源の仕事を選んでください。(1つに○)

「無職」が32.9%と最も多く、次いで「会社役員・会社員」が18.3%、「パート・アルバイト」が15.0%となっています。



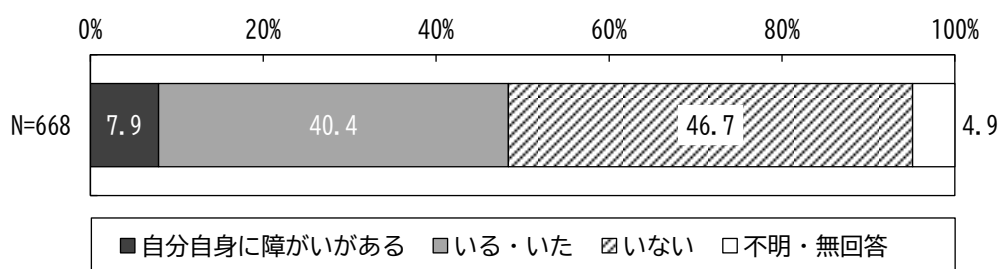
F 5 あなたと同居している家族はどなたですか。（当てはまるものすべてに○）

「配偶者（夫または妻）」が61.7%、次いで「子」が34.4%、「父母」が16.5%となっています。



F 6 あなたの身近に障がいのある方はおられますか。またはこれまでにいたことはありますか。（1つに○）

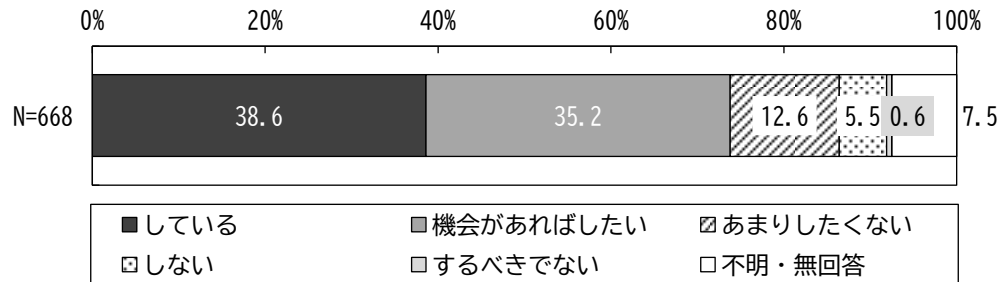
「いない」が46.7%と最も多く、次いで「いる・いた」が40.4%、「自分自身に障がいがある」が7.9%となっています。



障がいがある方に対する意識について

問1 あなたは障がいのある方と気軽に話したり、手助けをしたことがありますか。
または機会があればしますか。(1つに○)

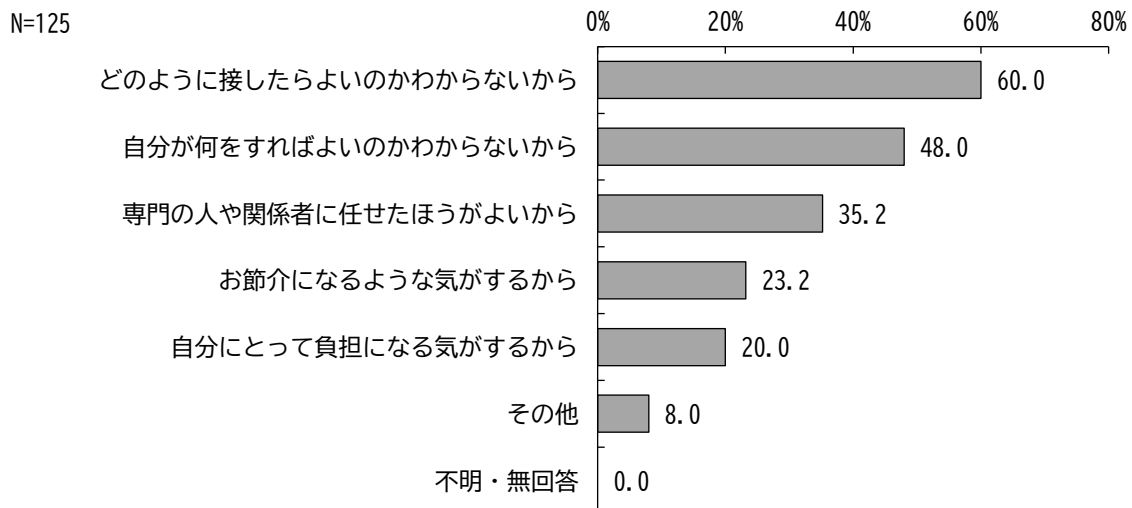
「している」が38.6%と最も多く、次いで「機会があればしたい」が35.2%、「あまりしたくない」が12.6%となっています。



問1で「あまりしたくない」「しない」「すべきでない」のいずれかを選んだ方

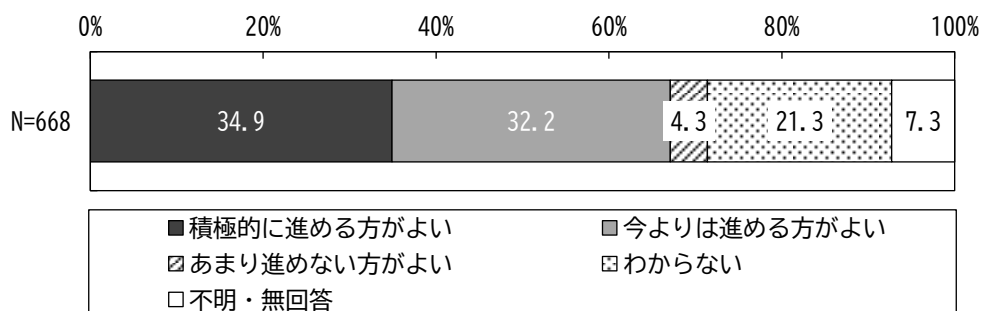
問1-1 「あまりしたくない」、「しない」、「すべきでない」の理由は何ですか。
(当てはまるものすべてに○)

「どのように接したらよいかわからないから」が60.0%と最も多く、次いで「自分が何をすればよいかわからないから」が48.0%、「専門の人や関係者に任せたほうがよいから」が35.2%となっています。



問2 国では、障がいのある方が入所施設や病院の中で生活するのではなく、自宅やグループホームなどの地域の住まいで暮らすことを進めています。あなたは、お住まいの地域において、こうした取り組みを推進したり、支援したりすることについてどう思いますか。（1つに○）

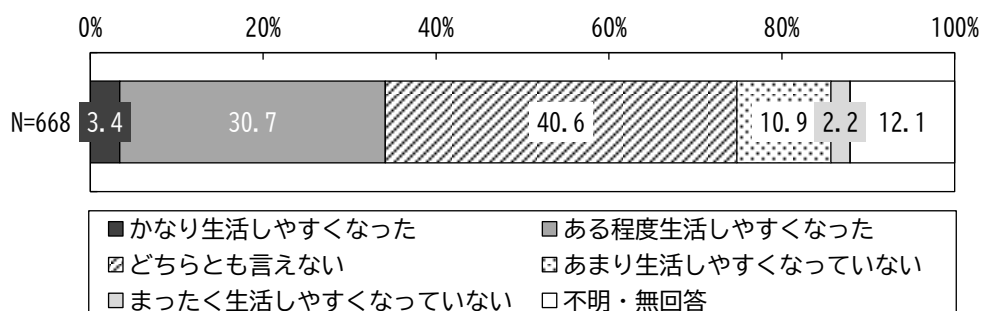
「積極的に進める方がよい」が34.9%と最も多く、次いで「今よりは進める方がよい」が32.2%、「わからない」が21.3%となっています。



問3 あなたは最近5年くらいの社会の変化として、障がいのある方が、地域で生活しやすくなったと思いますか。①～③のそれぞれについて回答してください。（それぞれ1つに○）

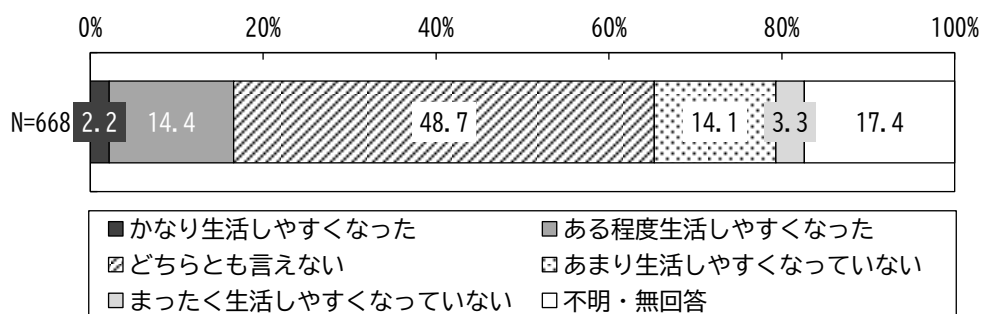
① 身体障がいのある方

「どちらとも言えない」が40.6%と最も多く、次いで「ある程度生活しやすくなった」が30.7%、「あまり生活しやすくなっていない」が10.9%となっています。



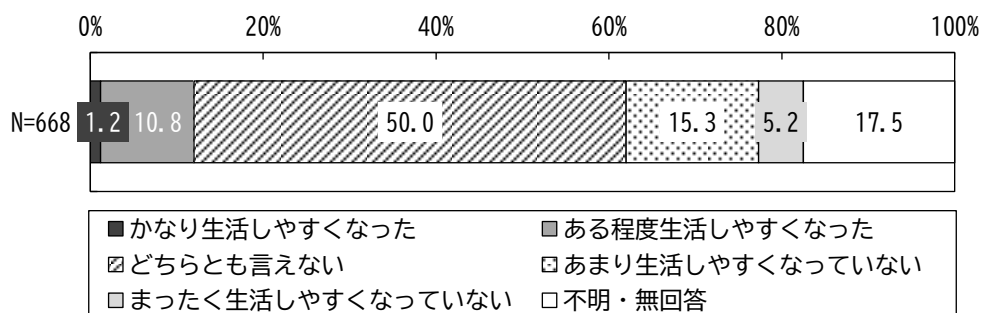
② 知的障がいのある方

「どちらとも言えない」が48.7%と最も多く、次いで「ある程度生活しやすくなった」が14.4%、「あまり生活しやすくなっていない」が14.1%となっています。



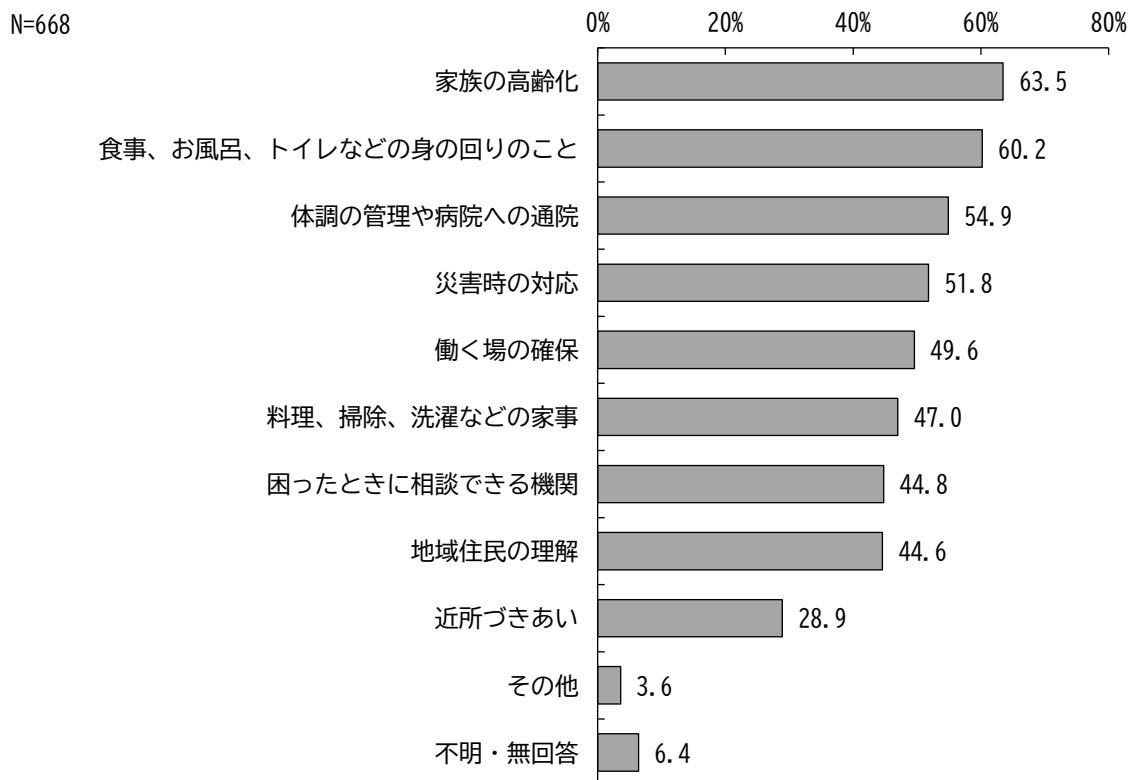
③ 精神障がいのある方

「どちらとも言えない」が50.0%と最も多く、次いで「あまり生活しやすくなっていない」が15.3%、「ある程度生活しやすくなった」が10.8%となっています。



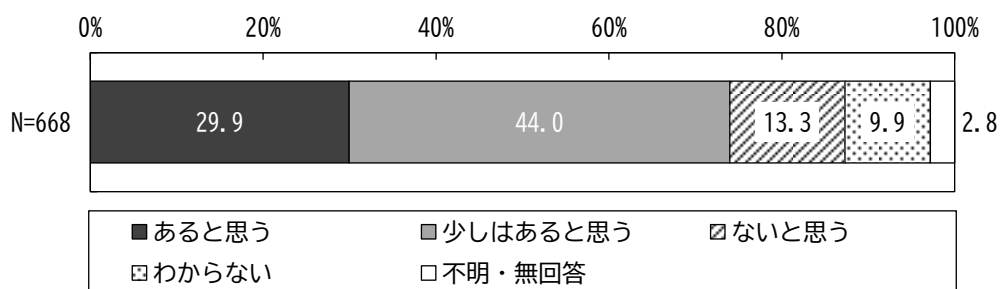
問4 障がいのある方が地域で暮らすことについて、特にどのようなことが大きな課題になると思いますか。（当てはまるものすべてに○）

「家族の高齢化」が63.5%と最も多く、次いで「食事、お風呂、トイレなどの身の回りのこと」が60.2%、「体調の管理や病院への通院」が54.9%となっています。



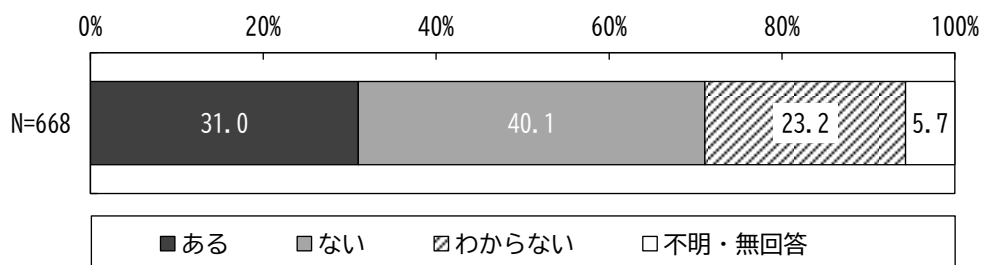
問5 あなたは障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。（1つに○）

「少しはあると思う」が44.0%と最も多く、次いで「あると思う」が29.9%、「ないと思う」が13.3%となっています。



問6 これまでに障がいのある方が差別や偏見などを受けているのを見たり聞いたりしたことがありますか。(1つに○)

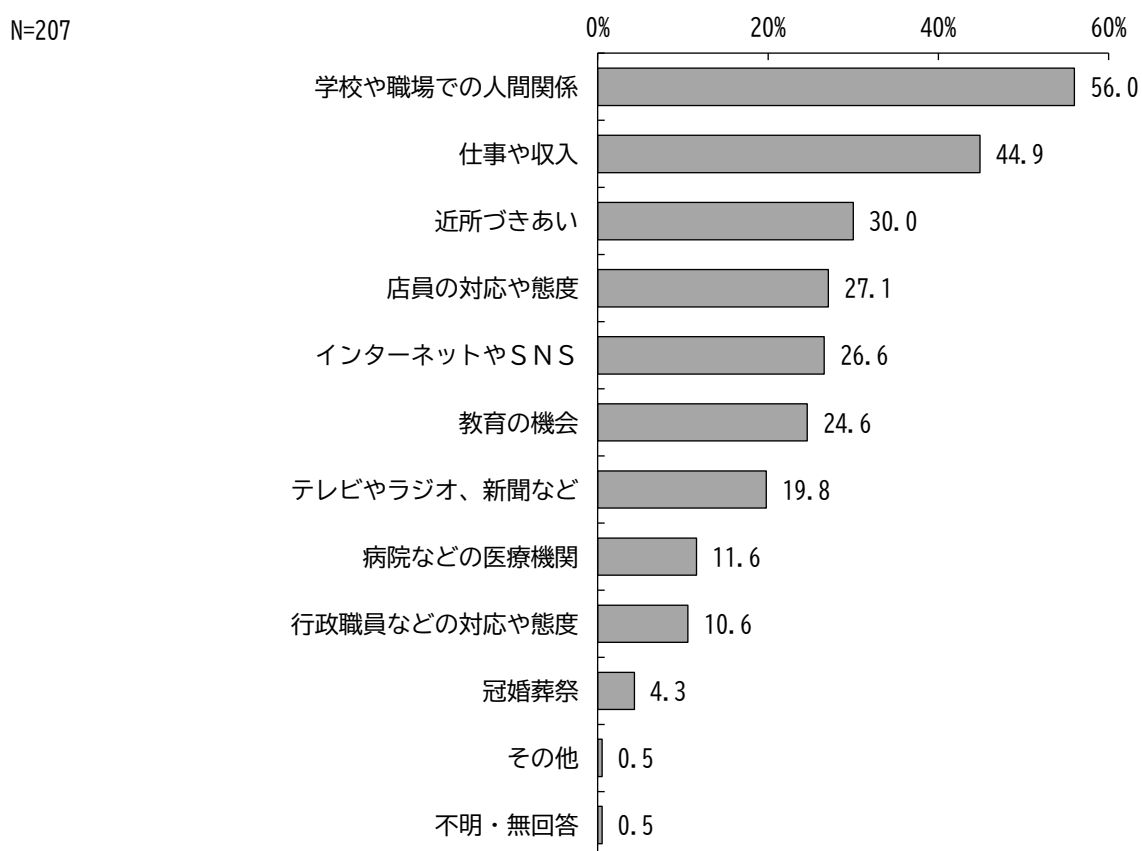
「ない」が40.1%と最も多く、次いで「ある」が31.0%、「わからない」が23.2%となっています。



問6で「ある」を選んだ方

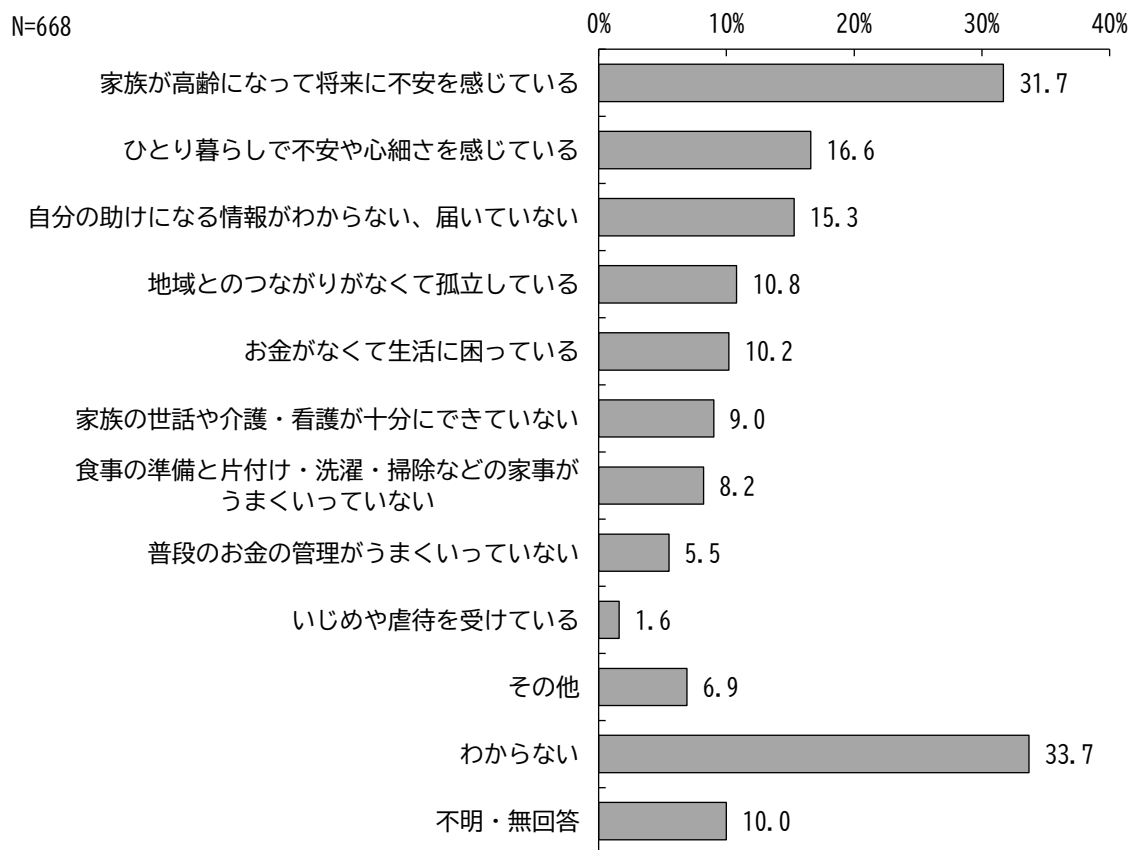
問6-1 あなたはどのような場面で、差別や偏見などを受けているのを見たり聞いたりしましたか。(当てはまるものすべてに○)

「学校や職場での人間関係」が56.0%と最も多く、次いで「仕事や収入」が44.9%、「近所づきあい」が30.0%となっています。



問7 あなたの住む地域で暮らす障がいのある方について、次のような気にかかる方はいますか。(当てはまるものすべてに○)

「わからない」が33.7%と最も多く、次いで「家族が高齢になって将来に不安を感じている」が31.7%、「ひとり暮らしで不安や心細さを感じている」が16.6%、「ひとり暮らしで不安や心細さを感じている」が16.6%となっています。

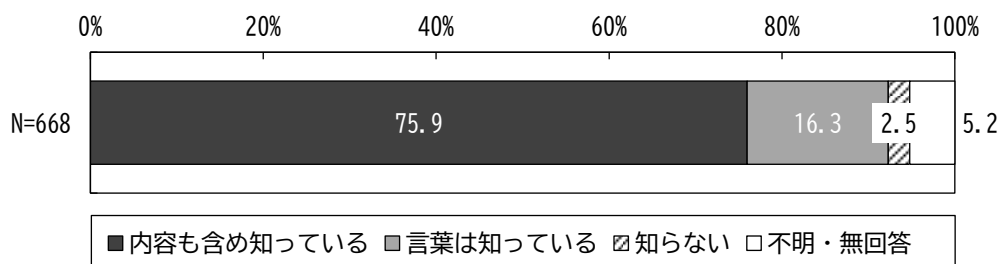


障がいなどに関することについて

問8 あなたは、これらのことをどれくらい知っていますか。①～⑨のそれぞれについて回答してください。(それぞれ1つに○)

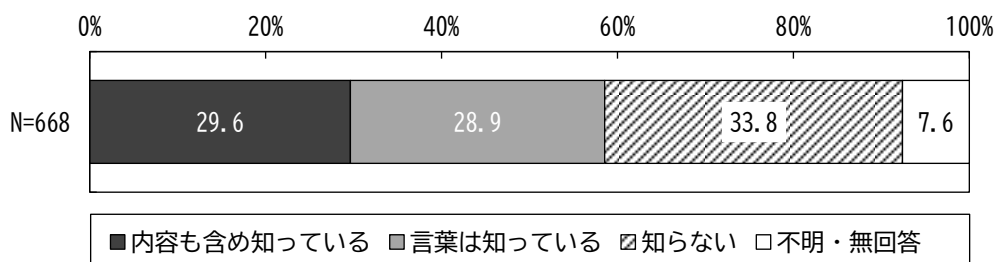
① バリアフリー

「内容も含め知っている」が75.9%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が16.3%、「知らない」が2.5%となっています。



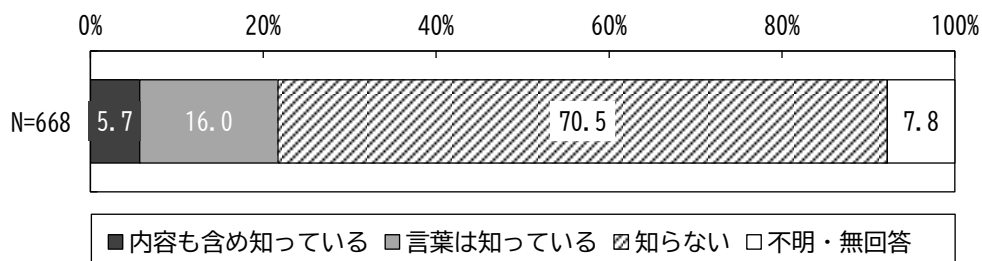
② ユニバーサルデザイン

「知らない」が33.8%と最も多く、次いで「内容も含め知っている」が29.6%、「言葉は知っている」が28.9%となっています。



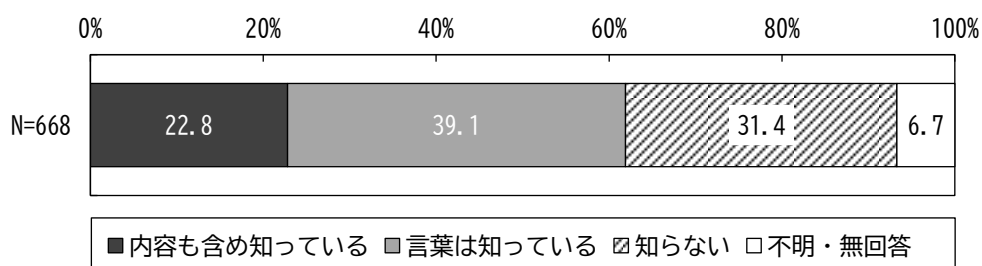
③ 三木市共に生きる手話言語条例

「知らない」が70.5%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が16.0%、「内容も含め知っている」が5.7%となっています。



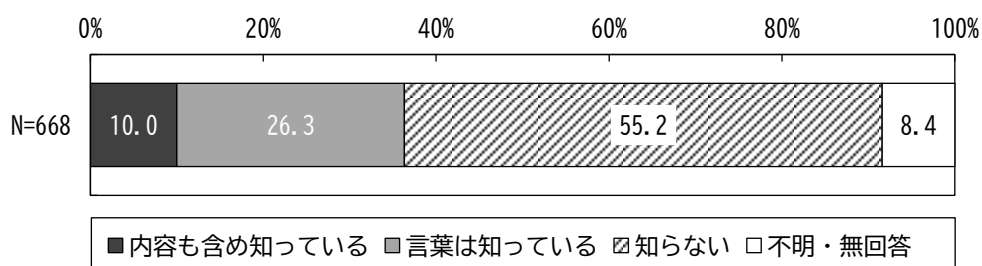
④ 共生社会

「言葉は知っている」が39.1%と最も多く、次いで「知らない」が31.4%、「内容も含め知っている」が22.8%となっています。



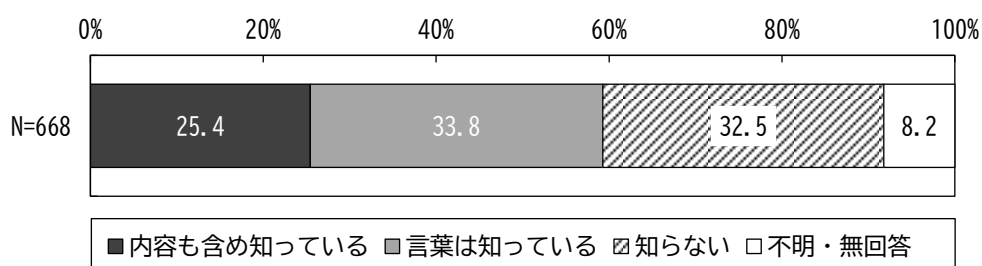
⑤ 障害者差別解消法

「知らない」が55.2%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が26.3%、「内容も含め知っている」が10.0%となっています。



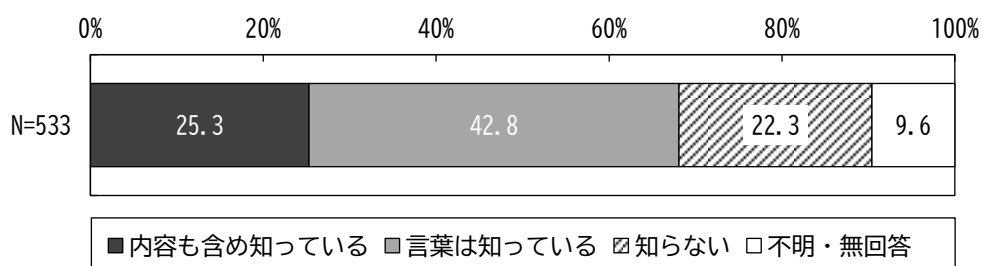
⑥ 要援護者

「言葉は知っている」が33.8%と最も多く、次いで「知らない」が32.5%、「内容も含め知っている」が25.4%となっています。



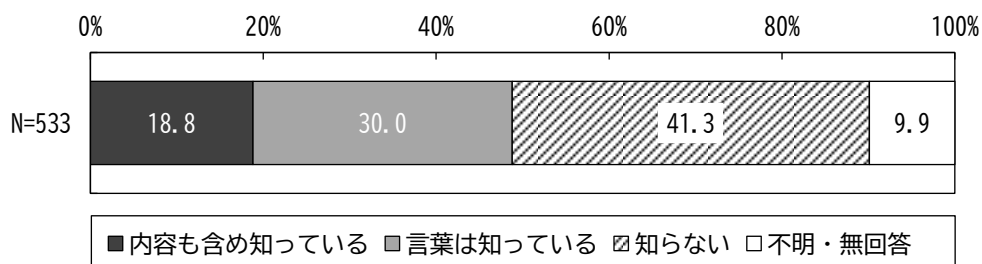
⑦ 統合失調症

「言葉は知っている」が42.8%と最も多く、次いで「内容も含め知っている」が25.3%、「知らない」が22.3%となっています。



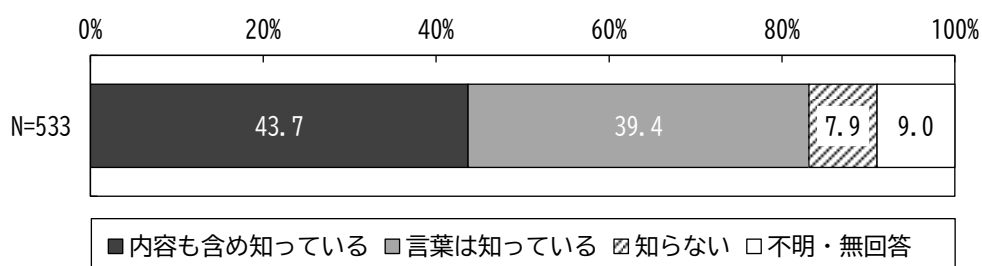
⑧ 高次脳機能障がい

「知らない」が41.3%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が30.0%、「内容も含め知っている」が18.8%となっています。



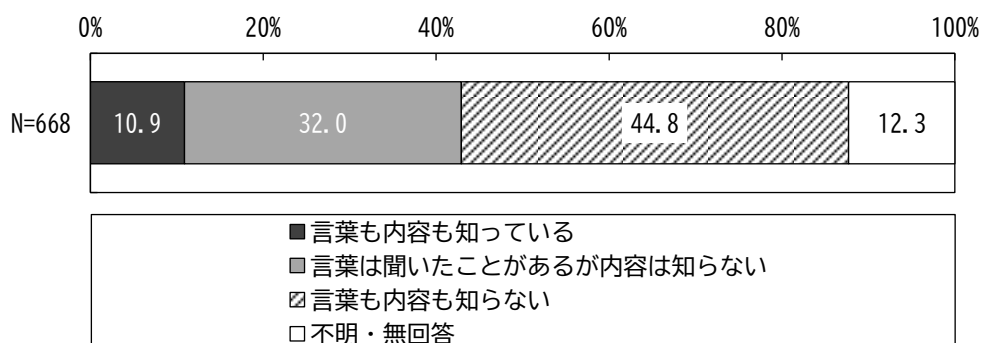
⑨ 発達障がい

「内容も含め知っている」が43.7%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が39.4%、「知らない」が7.9%となっています。



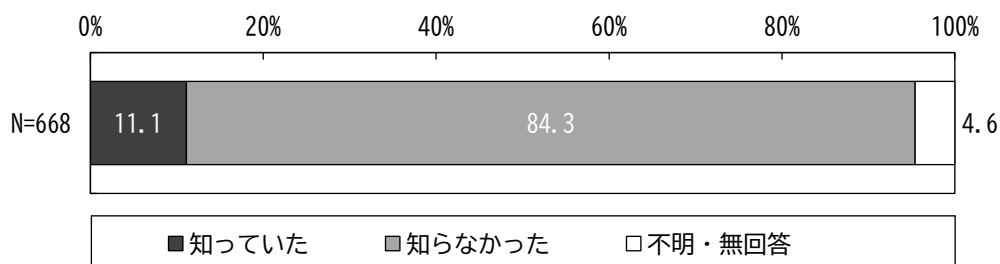
問9 あなたは、「合理的配慮」という言葉を知っていますか。(1つに○)

「言葉も内容も知らない」が44.8%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が32.0%、「言葉も内容も知っている」が10.9%となっています。



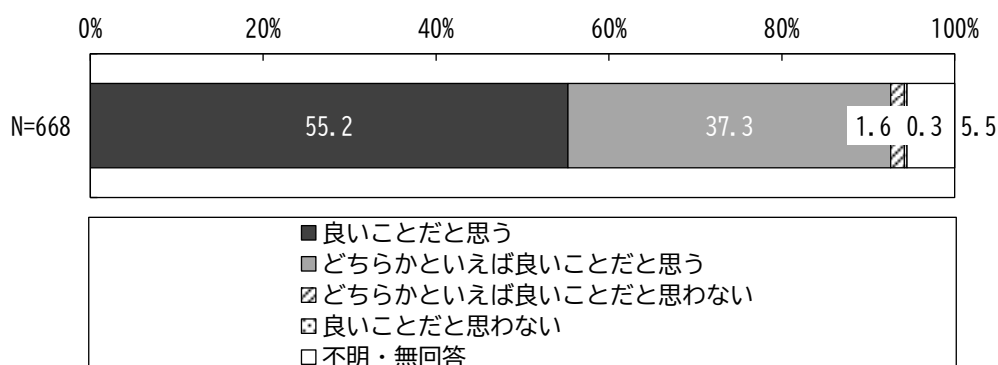
問10 障害者差別解消法の改正により、令和6年4月から「合理的配慮」の提供が民間事業者にも義務付けられていることを、あなたは知っていましたか。(1つに○)

「知らなかった」が84.3%、「知っていた」が11.1%となっています。



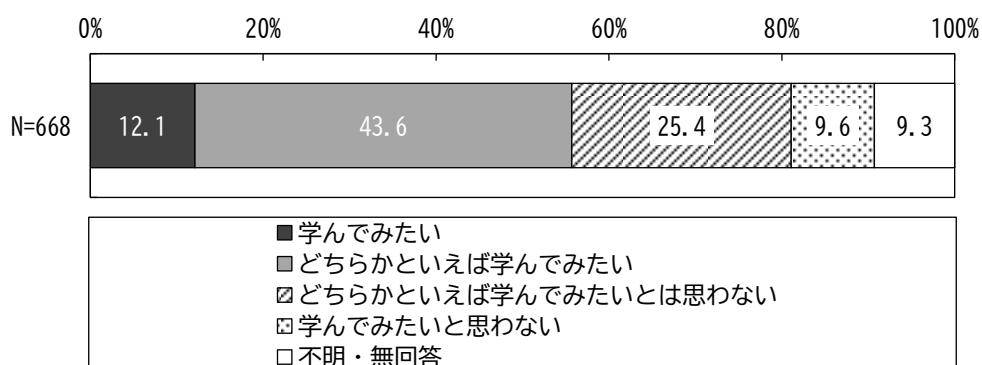
問 11 障がいのある方の求めに応じて、地域での活動の中で合理的配慮の提供を推進することについて、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

「良いことだと思う」が55.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば良いことだと思う」が37.3%、「どちらかといえば良いことだと思わない」が1.6%となっています。



問 12 あなたは、合理的配慮の提供について学んでみたいと思いますか。(1つに○)

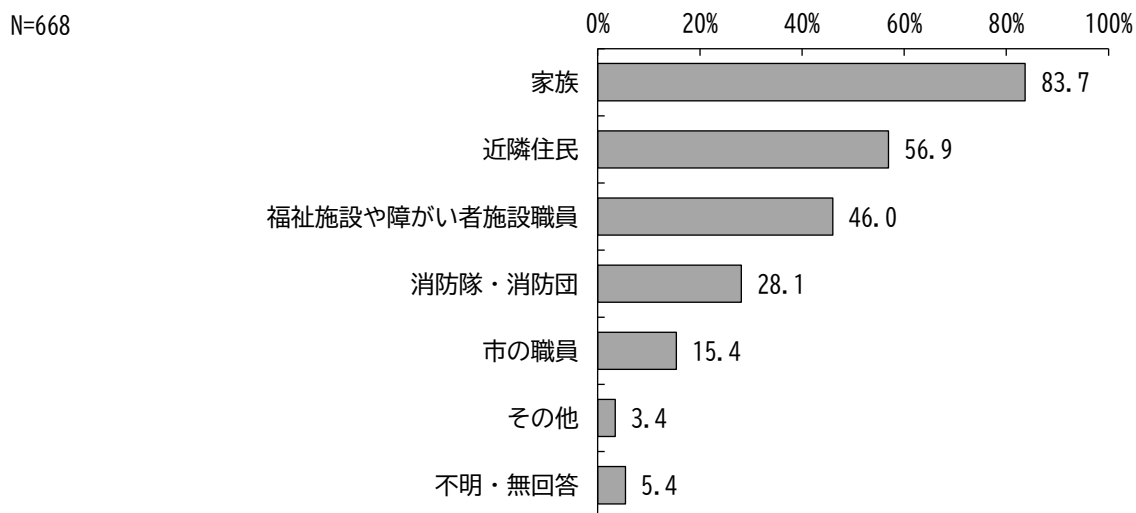
「どちらかといえば学んでみたい」が43.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば学んでみたいとは思わない」が25.4%、「学んでみたい」が12.1%となっています。



災害時の対応について

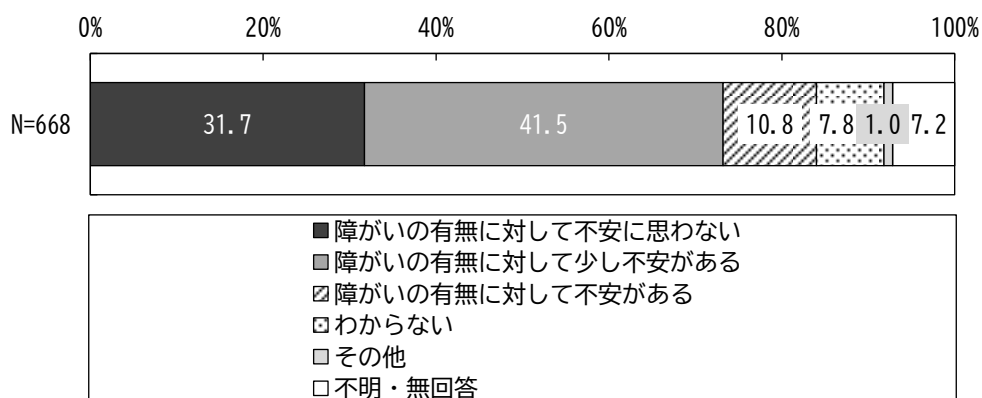
問 13 あなたは災害時、障がいのある方が誰と避難するべきだと思いますか。
(当てはまるものすべてに○)

「家族」が 83.7%と最も多く、次いで「近隣住民」が 56.9%、「福祉施設や障がい者施設職員」が 46.0%となっています。



問 14 災害時、障がいのある方もない方も同じ避難所を利用することがあります。あなたは一緒に利用することについてどう思いますか。(1つに○)

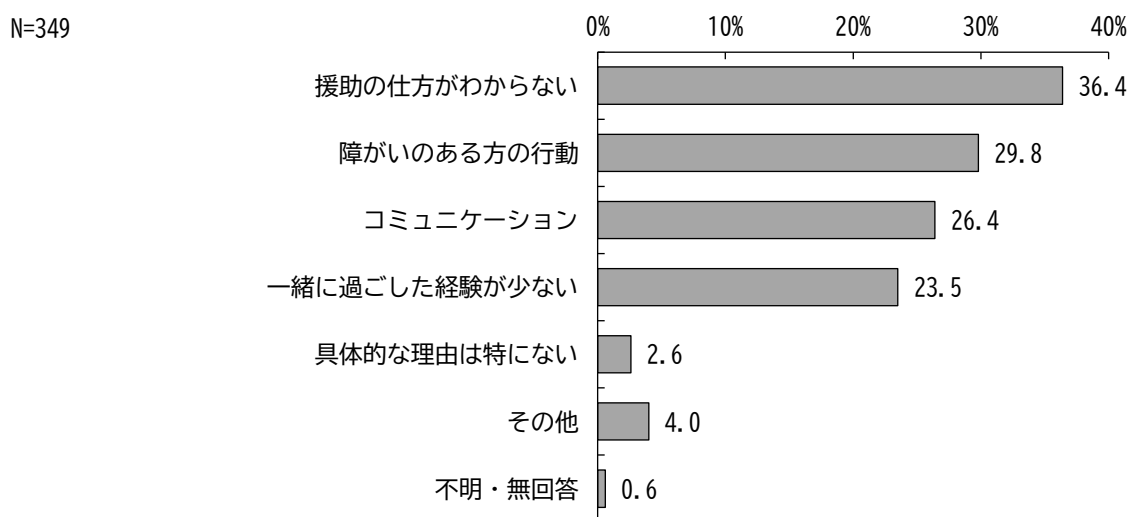
「障がいの有無に対して少し不安がある」が 41.5%と最も多く、次いで「障がいの有無に対して不安に思わない」が 31.7%、「障がいの有無に対して不安がある」が 10.8%となっています。



問 14 で「少し不安がある」「不安がある」のいずれかを選んだ方

問 14－1 どのような点が不安ですか。（当てはまるものすべてに○）

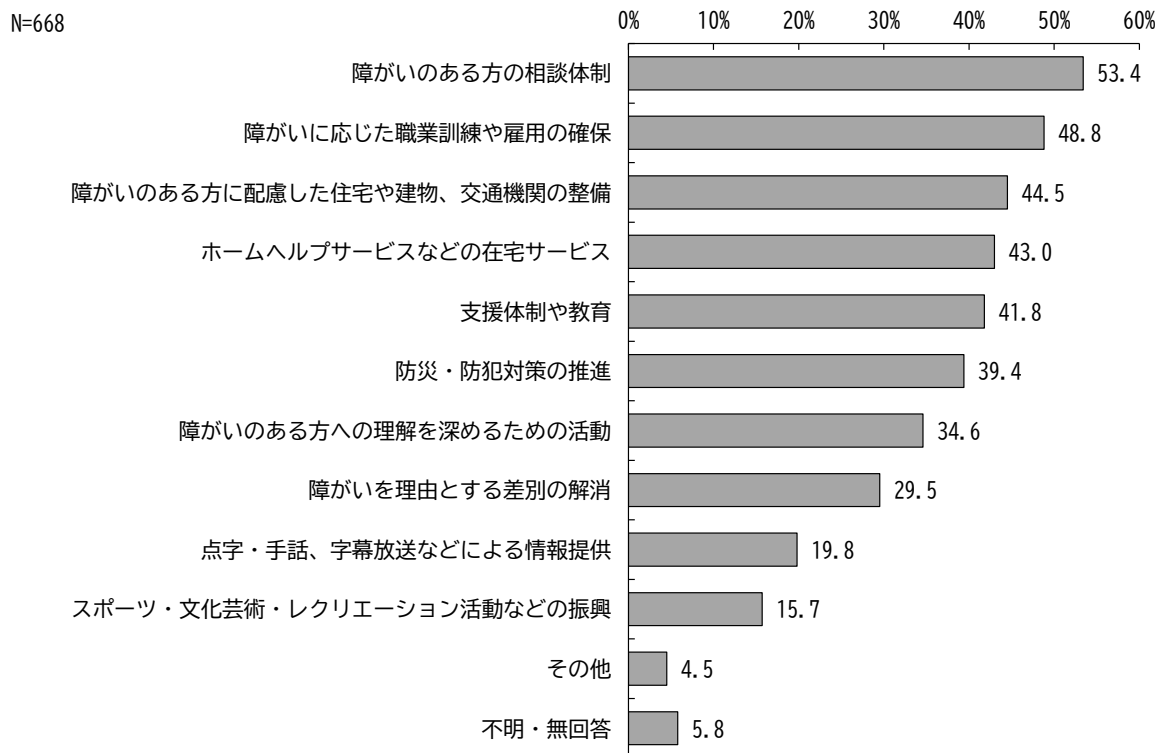
「援助の仕方がわからない」が 36.4%と最も多く、次いで「障がいのある方の行動」が 29.8%、「コミュニケーション」が 26.4%となっています。



今後の行政について

問 15 障がいのある方に関する国や三木市の施策のうち、より充実させる必要があると思うものは何ですか。（当てはまるものすべてに○）

「障がいのある方の相談体制」が53.4%と最も多く、次いで「障がいに応じた職業訓練や雇用の確保」が48.8%、「障がいのある方に配慮した住宅や建物、交通機関の整備」が44.5%となっています。



Ⅲ 障がいのある方に関する アンケート調査の結果

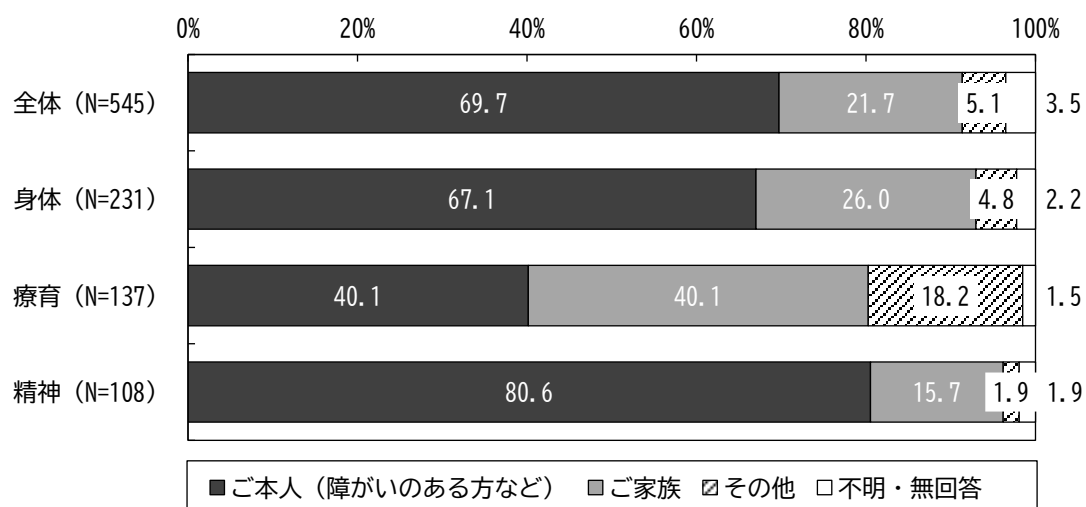
問1 調査にご回答されるのはどなたですか。(1つに○)

全体では「ご本人（障がいのある方など）」が69.7%、次いで「ご家族」が21.7%、「その他」が5.1%となっています。

〔身体〕では、「ご本人（障がいのある方など）」が67.1%、次いで「ご家族」が26.0%となっています。

〔療育〕では、「ご本人（障がいのある方など）」と「ご家族」がともに40.1%となっています。

〔精神〕では、「ご本人（障がいのある方など）」が80.6%、次いで「ご家族」が15.7%となっています。



あて名の方（障がいのある方など）のこについて

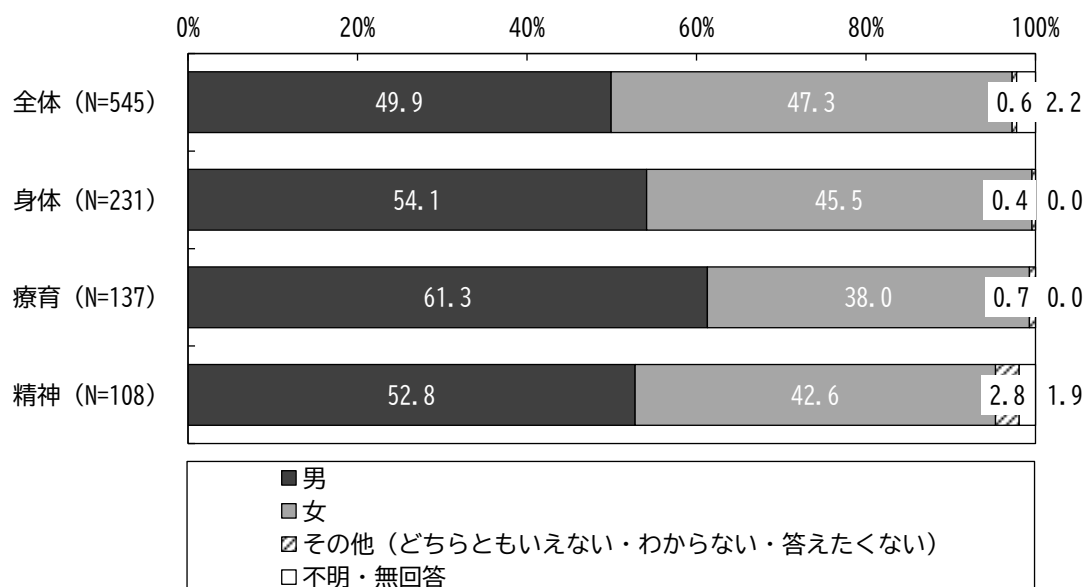
問2 あなたの性別を教えてください。（1つに○）

全体では「男」が49.9%、次いで「女」が47.3%、「その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）」が0.6%となっています。

〔身体〕では、「男」が54.1%、次いで「女」が45.5%となっています。

〔療育〕では、「男」が61.3%、次いで「女」が38.0%となっています。

〔精神〕では、「男」が52.8%、次いで「女」が42.6%となっています。



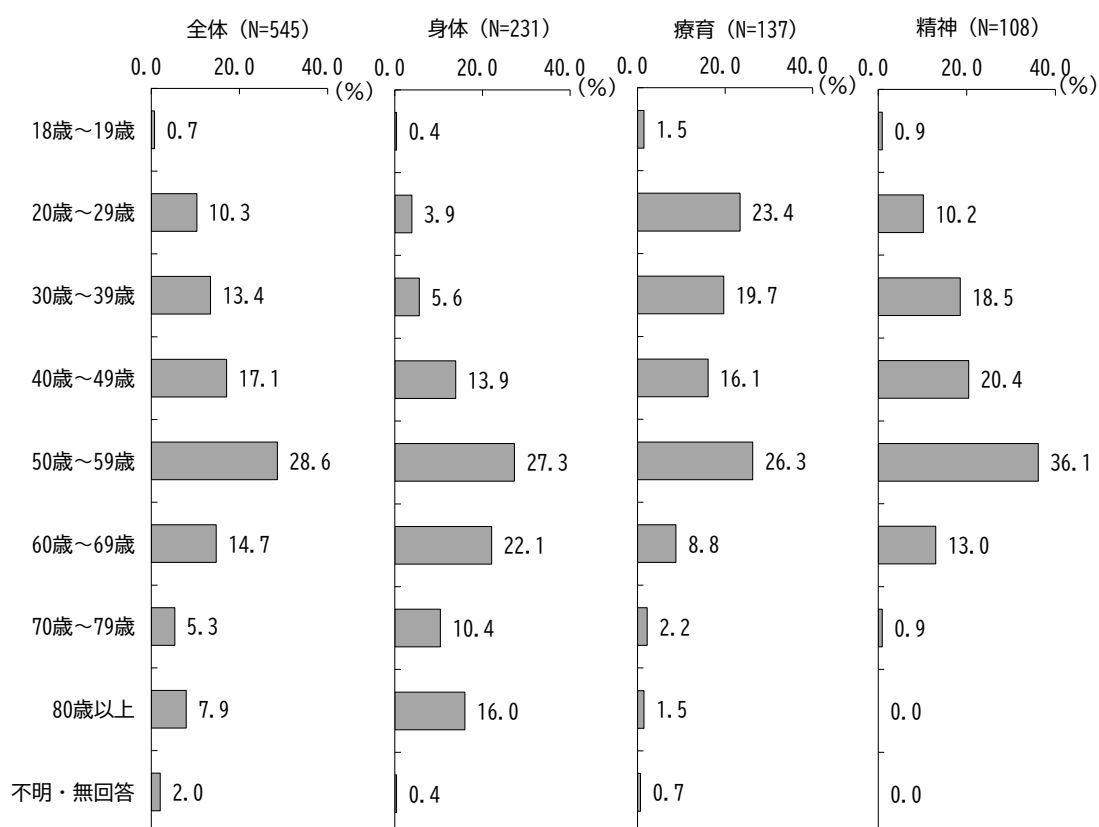
問3 あなたの年齢はおいくつですか。(1つに○)

全体では「50歳～59歳」が28.6%と最も多く、次いで「40歳～49歳」が17.1%、「60歳～69歳」が14.7%となっています。

〔身体〕では、「50歳～59歳」が27.3%と最も多く、次いで「60歳～69歳」が22.1%となっています。

〔療育〕では、「50歳～59歳」が26.3%と最も多く、次いで「20歳～29歳」が23.4%となっています。

〔精神〕では、「50歳～59歳」が36.1%と最も多く、次いで「40歳～49歳」が20.4%となっています。



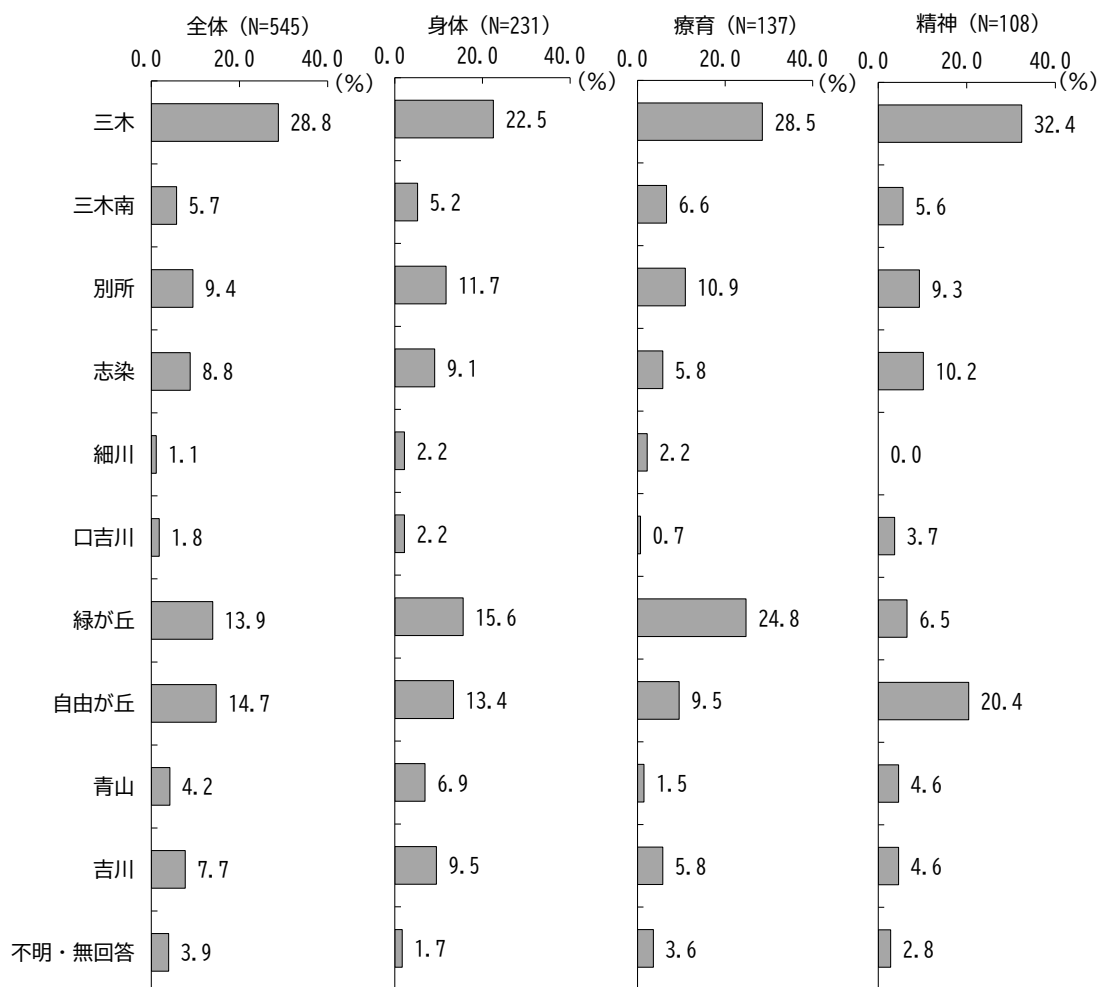
問4 あなたのお住まいはどちらの地区ですか。(1つに○)

全体では「三木」が28.8%と最も多く、次いで「自由が丘」が14.7%、「緑が丘」が13.9%となっています。

〔身体〕では、「三木」が22.5%と最も多く、次いで「緑が丘」が15.6%となっています。

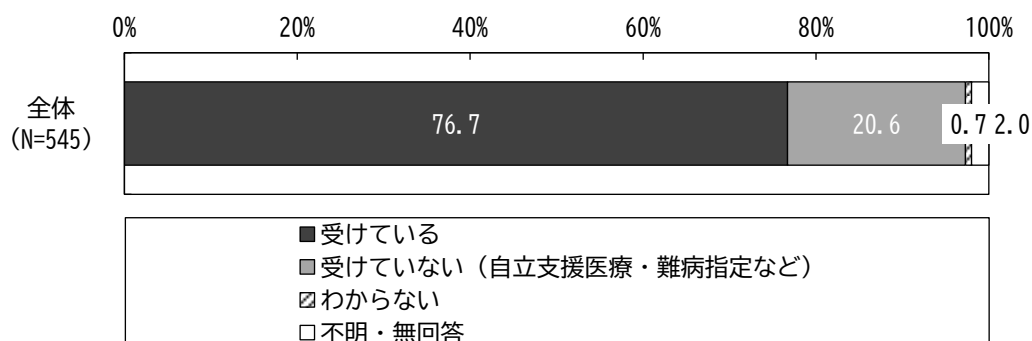
〔療育〕では、「三木」が28.5%と最も多く、次いで「緑が丘」が24.8%となっています。

〔精神〕では、「三木」が32.4%と最も多く、次いで「自由が丘」が20.4%となっています。



問5 あなたは障害者手帳の交付を受けていますか。(1つに○)

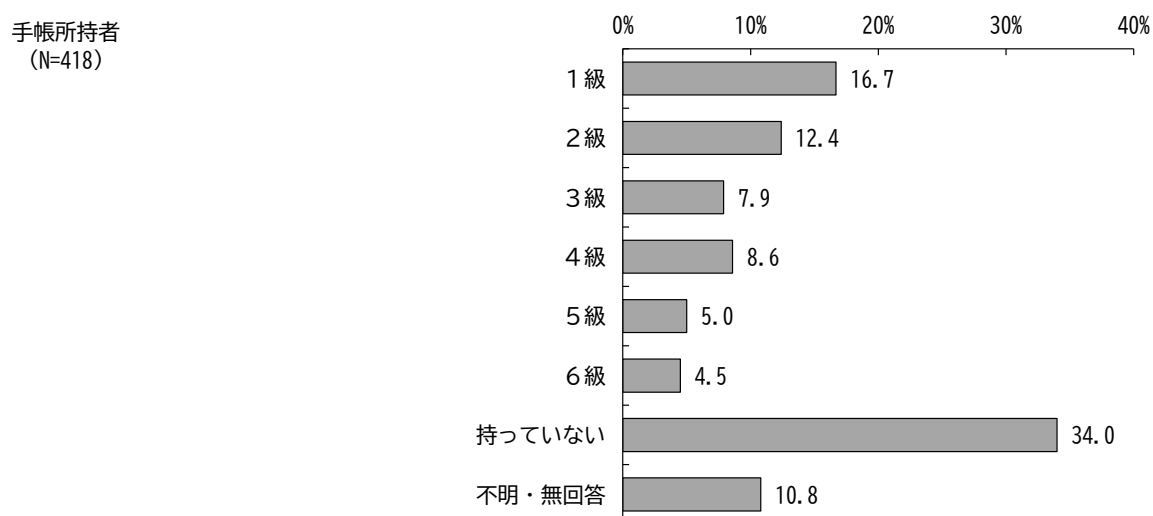
「受けている」が76.7%と最も多く、次いで「受けていない（自立支援医療・難病指定など）」が20.6%、「わからない」が0.7%となっています。



問5で「受けている」を選んだ方

問6 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(1つに○)

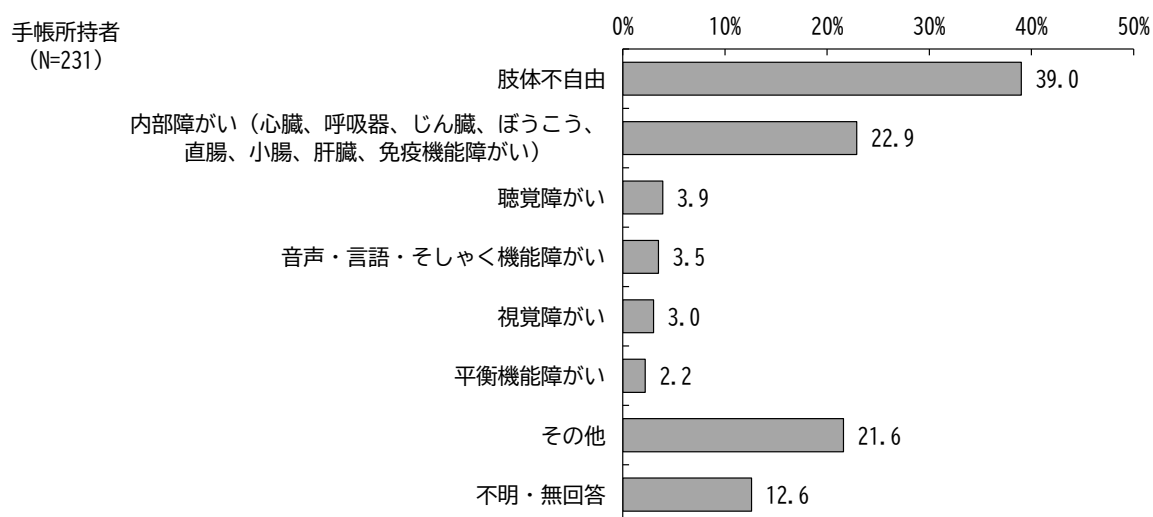
「1級」が16.7%と最も多く、次いで「2級」が12.4%となっています。



身体障害者手帳」をお持ちの方

問7 身体障害者手帳をお持ちの場合、手帳に記載されている障がいの種別は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

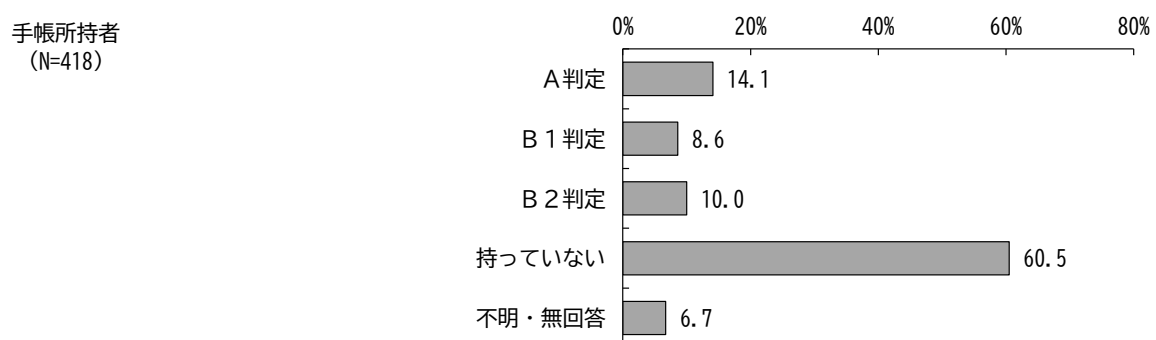
全体では「肢体不自由」が39.0%と最も多く、次いで「内部障がい（心臓、呼吸器、じん臓、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓、免疫機能障がい）」が22.9%、「その他」が21.6%となっています。



問5で「受けている」を選んだ方

問8 あなたは療育手帳をお持ちですか。(1つに○)

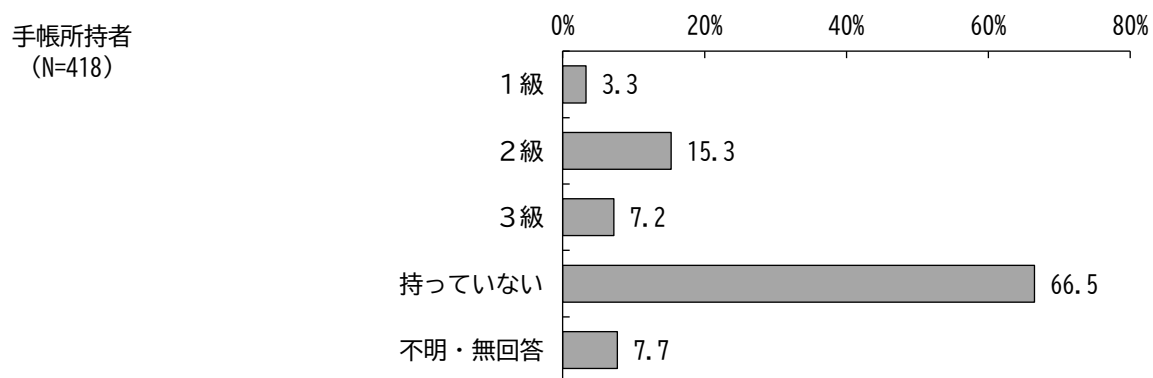
「A判定」が14.1%、次いで「B 2判定」が10.0%となっています。



問5で「受けている」を選んだ方

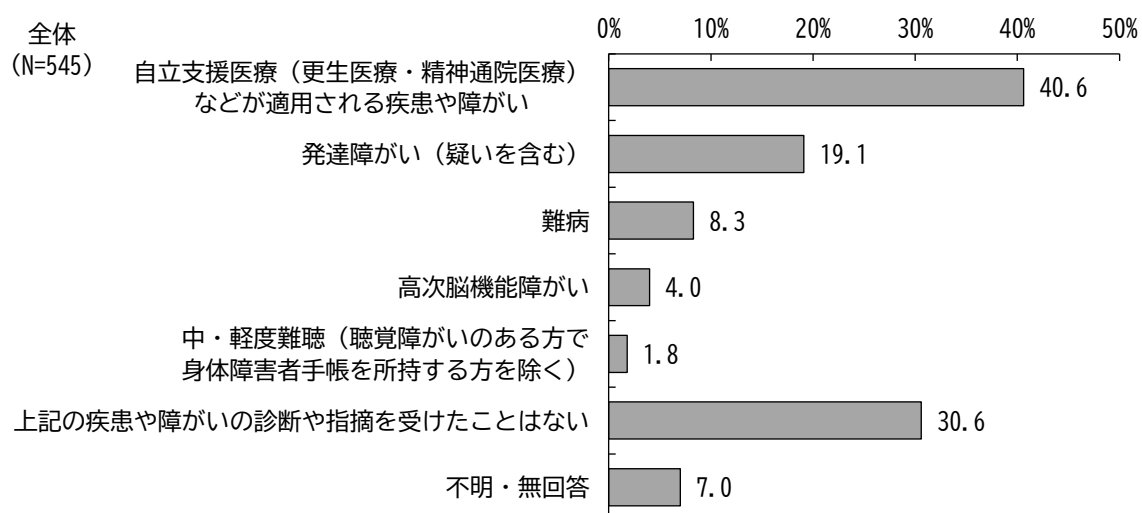
問9 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(1つに○)

「2級」が15.3%、次いで「3級」が7.2%となっています。



問 10 あなたは医療機関や専門・相談機関などで、次の疾患や障がいなどについて診断や指摘を受けたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

「自立支援医療（更生医療・精神通院医療）などが適用される疾患や障がい」が40.6%と最も多く、次いで「上記の疾患や障がいの診断や指摘を受けたことはない」が30.6%、「発達障がい（疑いを含む）」が19.1%となっています。



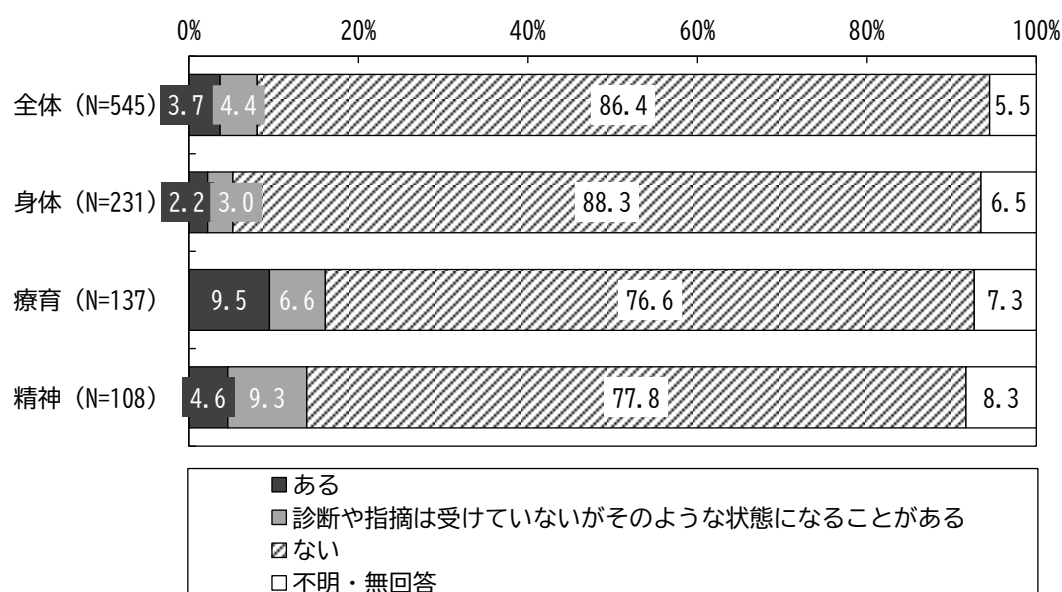
問 11 あなたは、強度行動障がい（危険な行動や自傷、他害、強いこだわり、物を壊すなどの周囲に影響を及ぼす行動が多くなり、特に配慮された支援が必要な状態）という診断や指摘を受けたり、障害福祉サービス受給者証に記載されたりしていますか。（1つに○）

全体では「ない」が86.4%と最も多く、次いで「診断や指摘は受けていないがそのような状態になることがある」が4.4%、「ある」が3.7%となっています。

〔身体〕では、「ない」が88.3%と最も多く、次いで「診断や指摘は受けていないがそのような状態になることがある」が3.0%となっています。

〔療育〕では、「ない」が76.6%と最も多く、次いで「ある」が9.5%となっています。

〔精神〕では、「ない」が77.8%と最も多く、次いで「診断や指摘は受けていないがそのような状態になることがある」が9.3%となっています。



問 11 で「ある」「診断や指摘は受けていないがそのような状態になることがある」のいずれかを選んだ方

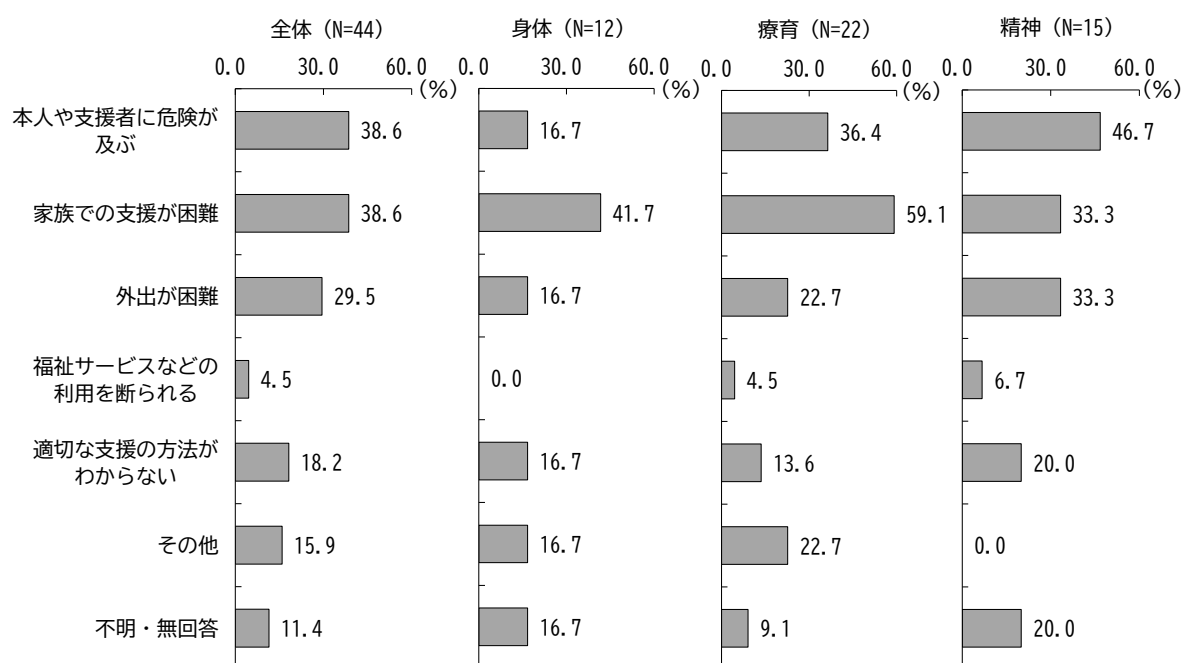
問 12 強度行動障がい（またはそれに近い状況）があるために、次のような問題が起こることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「本人や支援者に危険が及ぶ」と「家族での支援が困難」がともに、38.6%と最も多く、次いで「外出が困難」が29.5%となっています。

〔身体〕では、「家族での支援が困難」が41.7%と最も多く、次いで「本人や支援者に危険が及ぶ」と「外出が困難」、「適切な支援の方法がわからない」が16.7%となっています。

〔療育〕では、「家族での支援が困難」が59.1%と最も多く、次いで「本人や支援者に危険が及ぶ」が36.4%となっています。

〔精神〕では、「本人や支援者に危険が及ぶ」が46.7%と最も多く、次いで「家族での支援が困難」「外出が困難」が33.3%となっています。



あなたの生活について

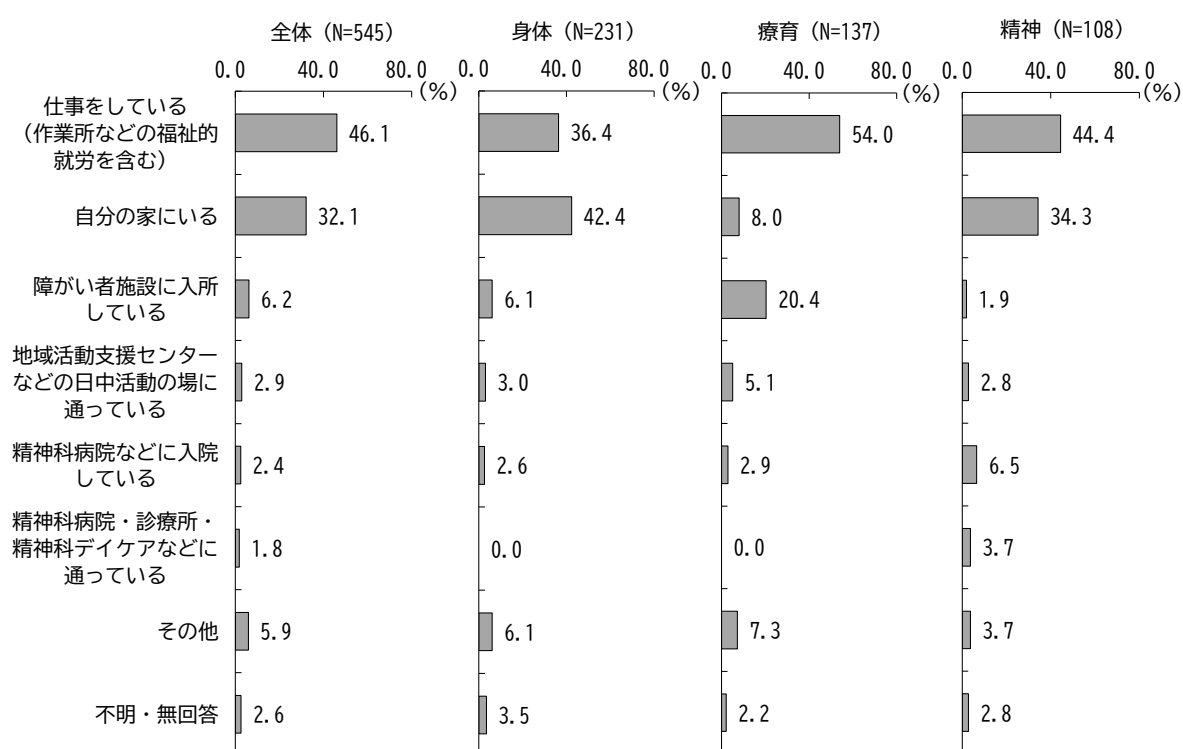
問 13 あなたは平日の昼間、主にどのようにして過ごしていますか。(1つに○)

全体では「仕事をしている（作業所などの福祉的就労を含む）」が46.1%と最も多く、次いで「自分の家にいる」が32.1%、「障がい者施設に入所している」が6.2%となっています。

〔身体〕では、「自分の家にいる」が42.4%と最も多く、次いで「仕事をしている（作業所などの福祉的就労を含む）」が36.4%となっています。

〔療育〕では、「仕事をしている（作業所などの福祉的就労を含む）」が54.0%と最も多く、次いで「障がい者施設に入所している」が20.4%となっています。

〔精神〕では、「仕事をしている（作業所などの福祉的就労を含む）」が44.4%と最も多く、次いで「自分の家にいる」が34.3%となっています。



問 13 で「仕事をしている（作業所などの福祉的就労を含む）」を選んだ方

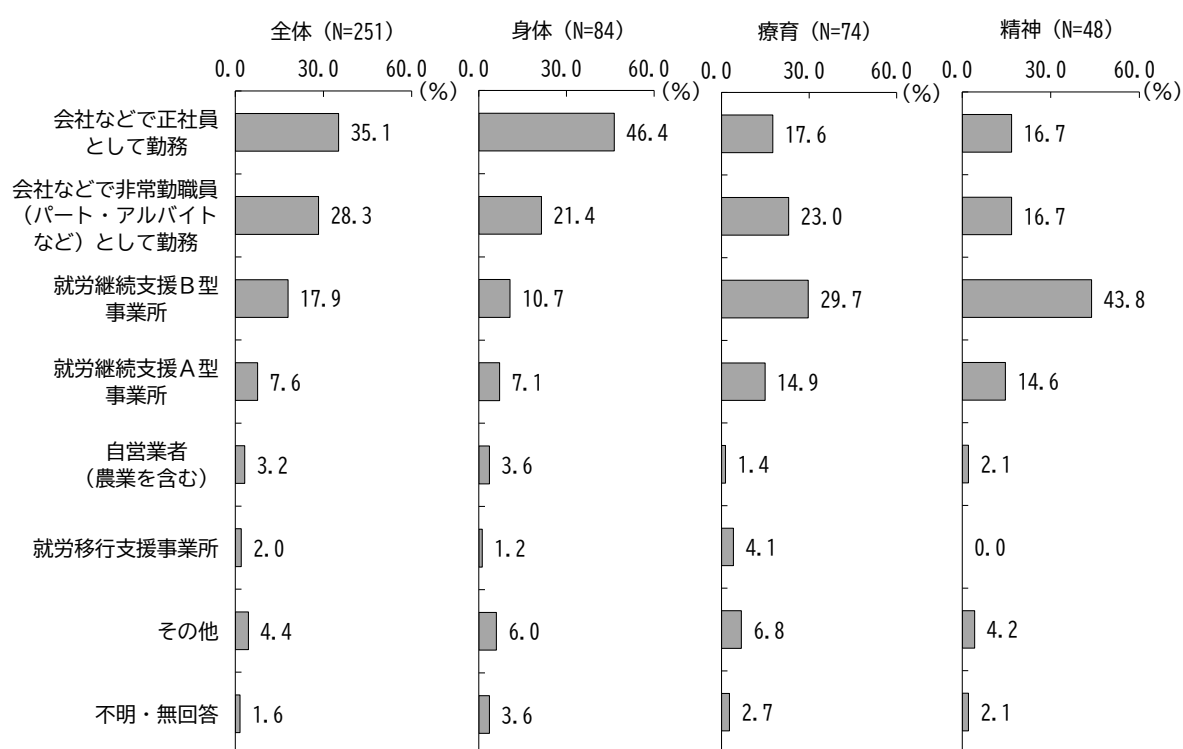
問 14 あなたの勤務先はどこですか。（1 つに○）

全体では「会社などで正社員として勤務」が 35.1%と最も多く、次いで「会社などで非常勤職員（パート・アルバイトなど）として勤務」が 28.3%、「就労継続支援 B 型事業所」が 17.9%となっています。

〔身体〕では、「会社などで正社員として勤務」が 46.4%と最も多く、次いで「会社などで非常勤職員（パート・アルバイトなど）として勤務」が 21.4%となっています。

〔療育〕では、「就労継続支援 B 型事業所」が 29.7%と最も多く、次いで「会社などで非常勤職員（パート・アルバイトなど）として勤務」が 23.0%となっています。

〔精神〕では、「就労継続支援 B 型事業所」が 43.8%と最も多く、次いで「会社などで正社員として勤務」「会社などで非常勤職員（パート・アルバイトなど）として勤務」が 16.7%となっています。



問 13 で「仕事をしている（作業所などの福祉的就労を含む）」を選んだ方

問 15 あなたは働き続けるために、どのようなことが必要と思いますか。

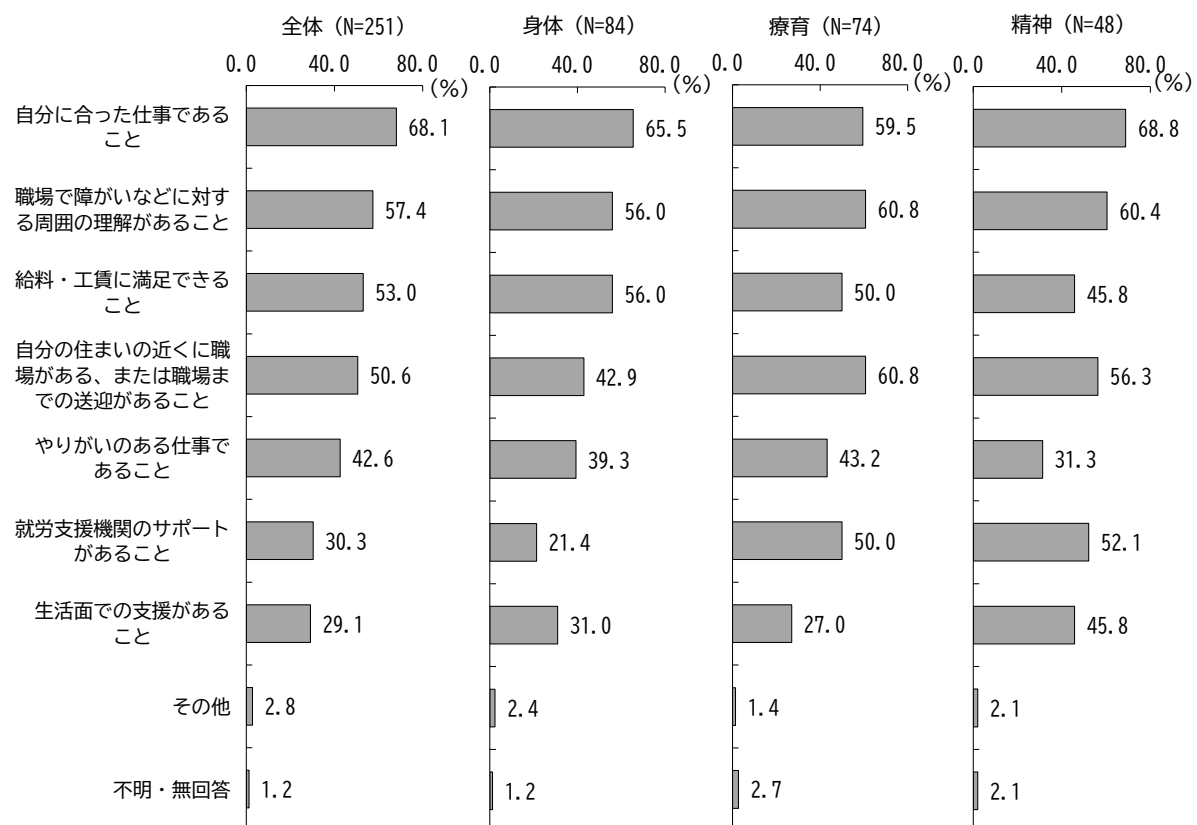
（あてはまるものすべてに○）

全体では「自分に合った仕事であること」が 68.1%と最も多く、次いで「職場で障がいなどに対する周囲の理解があること」が 57.4%、「給料・工賃に満足できること」が 53.0%となっています。

〔身体〕では、「自分に合った仕事であること」が 65.5%と最も多く、次いで「職場で障がいなどに対する周囲の理解があること」「給料・工賃に満足できること」が 56.0%となっています。

〔療育〕では、「職場で障がいなどに対する周囲の理解があること」「自分の住まいの近くに職場がある、または職場までの送迎があること」が 60.8%と最も多く、次いで「自分に合った仕事であること」が 59.5%となっています。

〔精神〕では、「自分に合った仕事であること」が 68.8%と最も多く、次いで「職場で障がいなどに対する周囲の理解があること」が 60.4%となっています。



問 13 で「自分の家にいる」を選んだ方

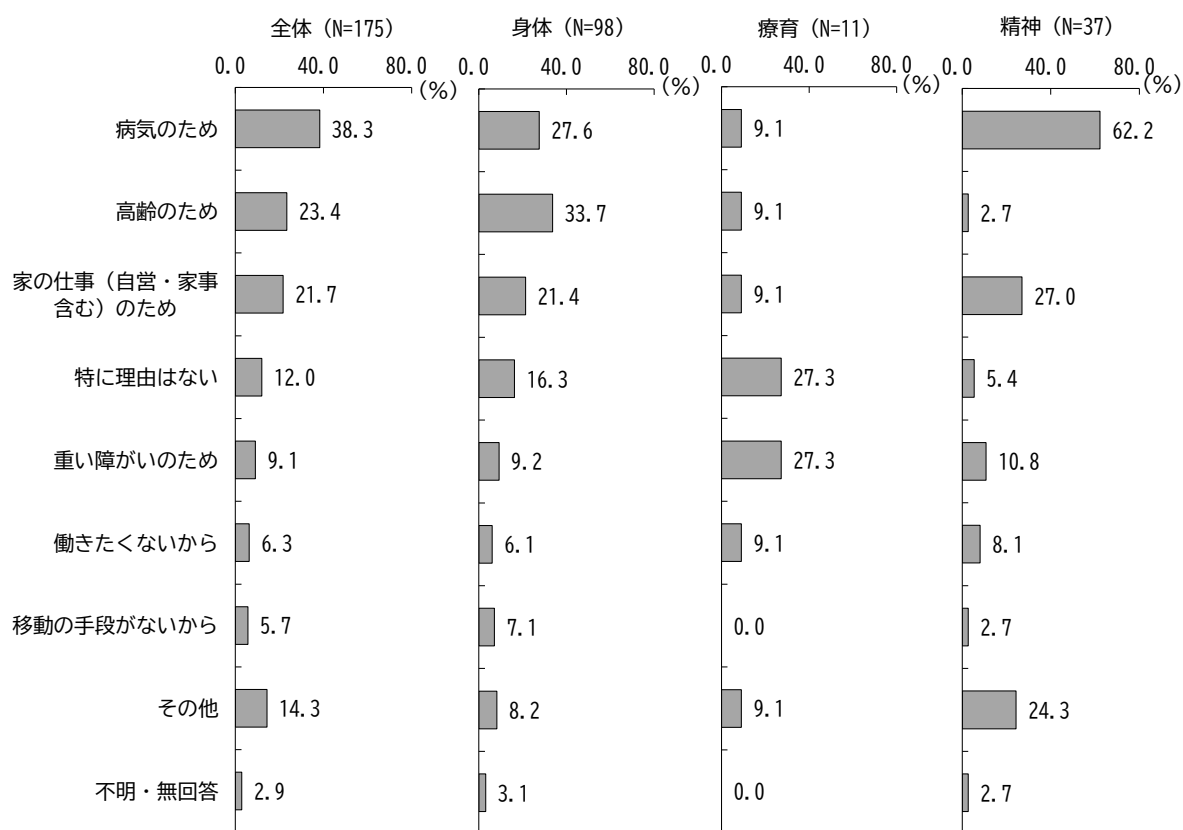
問 16 あなたが、昼間に「家にいる」理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「病気のため」が 38.3%と最も多く、次いで「高齢のため」が 23.4%、「家の仕事（自営・家事含む）のため」が 21.7%となっています。

〔身体〕では、「高齢のため」が 33.7%と最も多く、次いで「病気のため」が 27.6%となっています。

〔療育〕では、「特に理由はない」「重い障がいのため」が 27.3%と最も多く、次いで「病気のため」と「高齢のため」、「家の仕事（自営・家事含む）のため」、「働きたくないから」が 9.1%となっています。

〔精神〕では、「病気のため」が 62.2%と最も多く、次いで「家の仕事（自営・家事含む）のため」が 27.0%となっています。



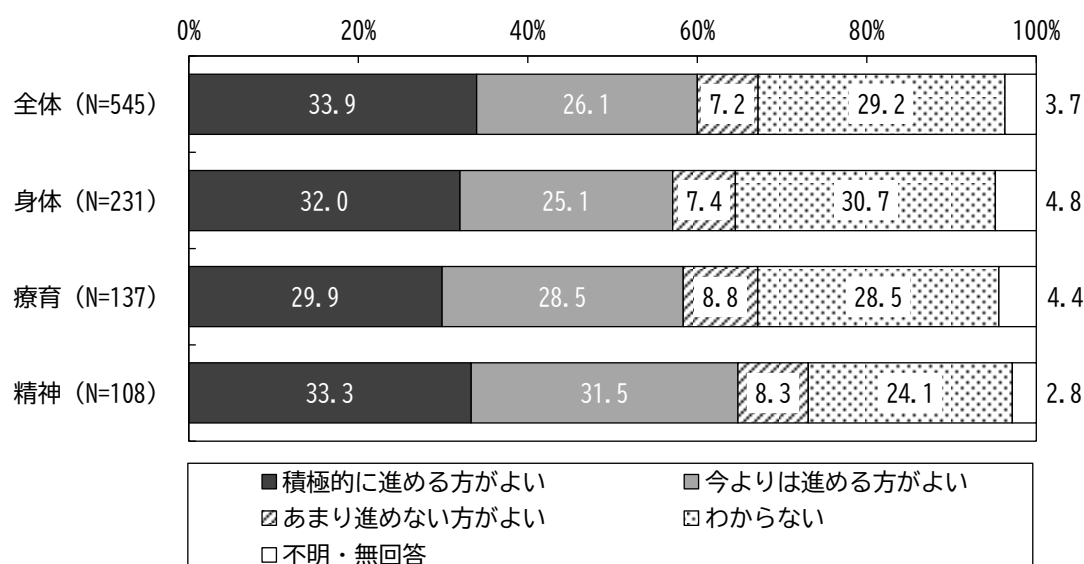
問 17 国では、障がいのある方が入所施設や病院の中で生活するのではなく、自宅やグループホームなどの地域の住まいで暮らすことを進めています。あなたは、お住まいの地域において、こうした取り組みを推進したり、支援したりすることについてどう思いますか。（1つに○）

全体では「積極的に進める方がよい」が33.9%と最も多く、次いで「わからない」が29.2%、「今よりは進める方がよい」が26.1%となっています。

〔身体〕では、「積極的に進める方がよい」が32.0%と最も多く、次いで「わからない」が30.7%となっています。

〔療育〕では、「積極的に進める方がよい」が29.9%と最も多く、次いで「今よりは進めるほうがよい」「わからない」が28.5%となっています。

〔精神〕では、「積極的に進める方がよい」が33.3%と最も多く、次いで「今よりは進める方がよい」が31.5%となっています。



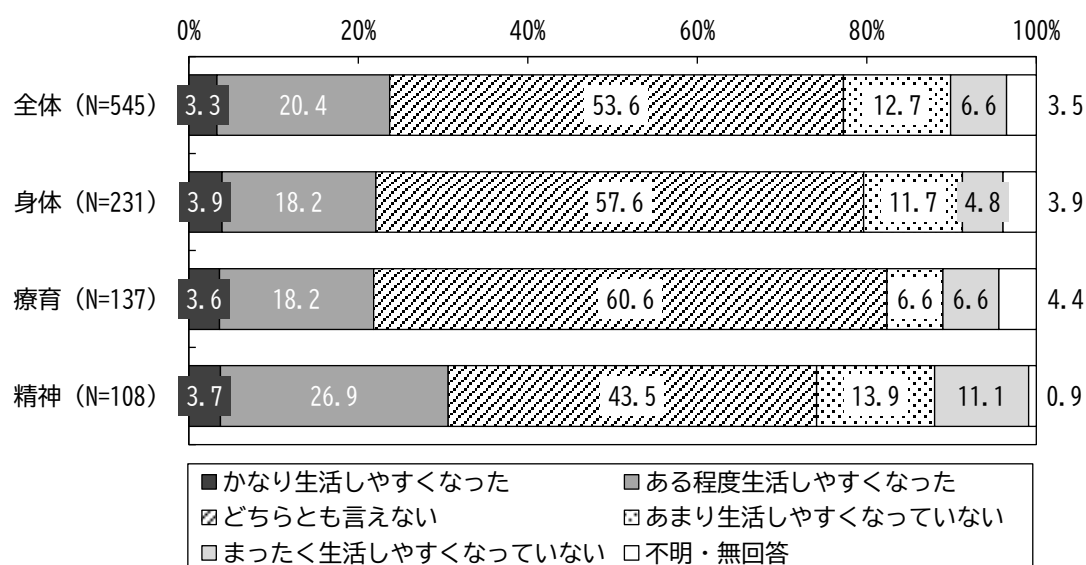
問 18 あなたは最近5年くらいの社会の変化として、あなたと同じような障がいの
ある方が、地域で生活しやすくなったと思いますか。(1つに○)

全体では「どちらとも言えない」が53.6%と最も多く、次いで「ある程度生活しやすくなった」が20.4%、「あまり生活しやすくなっていない」が12.7%となっています。

〔身体〕では、「どちらとも言えない」が57.6%と最も多く、次いで「ある程度生活しやすくなった」が18.2%となっています。

〔療育〕では、「どちらとも言えない」が60.6%と最も多く、次いで「ある程度生活しやすくなった」が18.2%となっています。

〔精神〕では、「どちらとも言えない」が43.5%と最も多く、次いで「ある程度生活しやすくなった」が26.9%となっています。



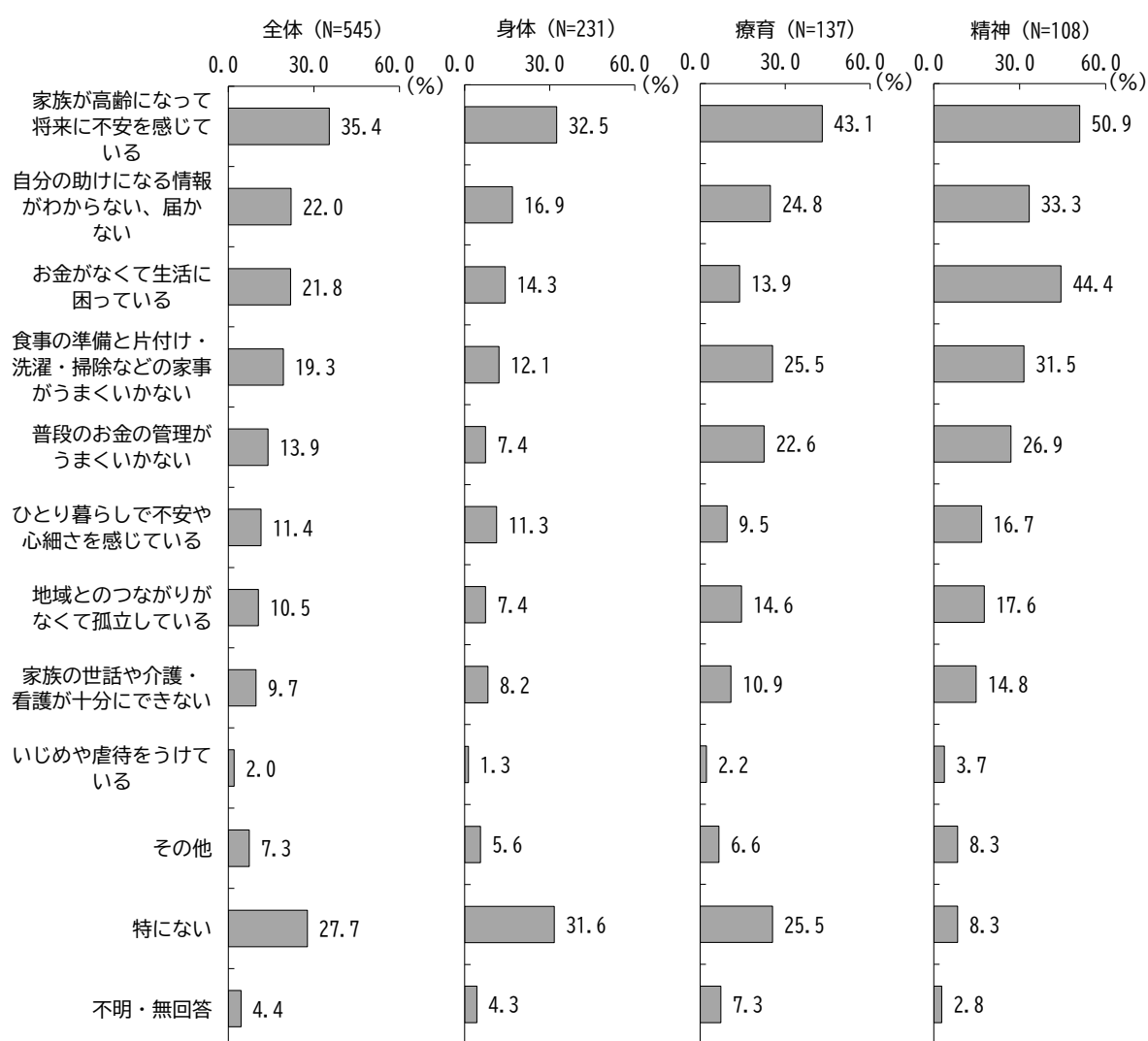
問 19 あなたには、自分の障がいのこと以外で、日ごろの生活の中での悩みや、誰かに相談したいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「家族が高齢になって将来に不安を感じている」が35.4%と最も多く、次いで「特にない」が27.7%、「自分の助けになる情報がわからない、届かない」が22.0%となっています。

〔身体〕では、「家族が高齢になって将来に不安を感じている」が32.5%と最も多く、次いで「特にない」が31.6%となっています。

〔療育〕では、「家族が高齢になって将来に不安を感じている」が43.1%と最も多く、次いで「食事の準備と片付け・洗濯・掃除などの家事がうまくいかない」「特にない」が25.5%となっています。

〔精神〕では、「家族が高齢になって将来に不安を感じている」が50.9%と最も多く、次いで「お金がなくて生活に困っている」が44.4%となっています。



住まいや暮らしについて

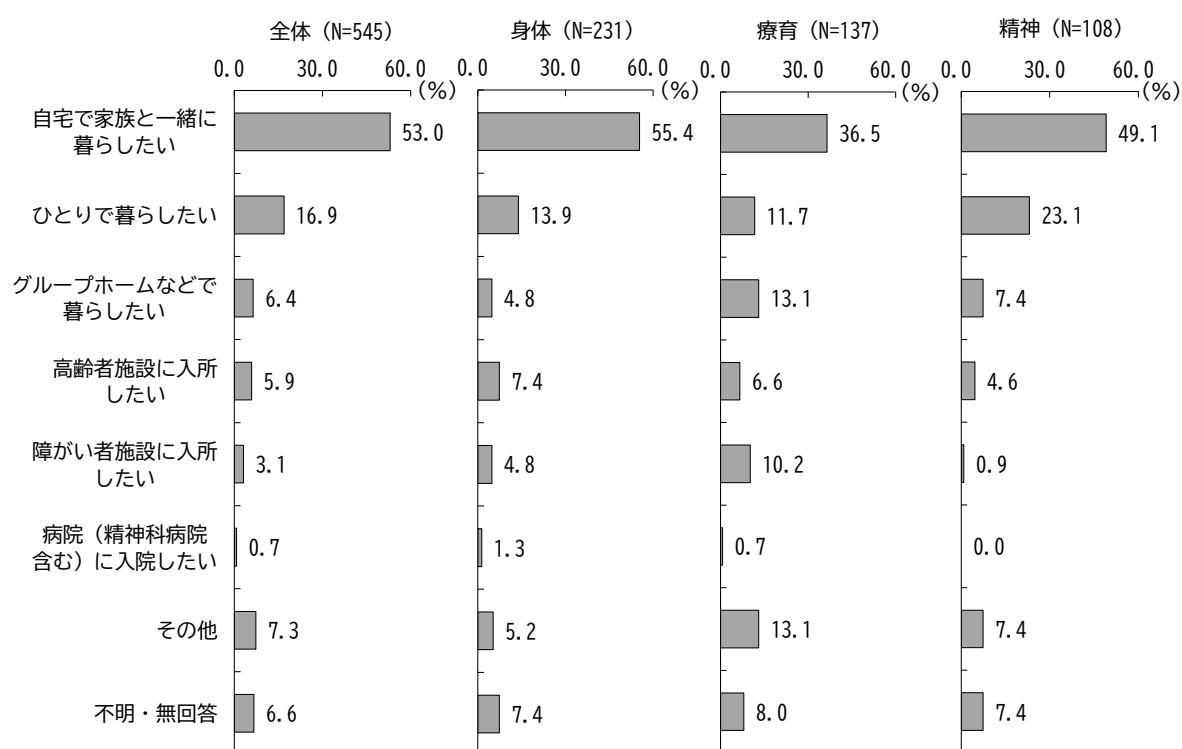
問 20 あなたは将来、(今のままでよいという方も含めて)、どのように暮らしたいと思いますか。(1つに○)

全体では「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が53.0%と最も多く、次いで「ひとりで暮らしたい」が16.9%、「その他」が7.3%となっています。

〔身体〕では、「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が55.4%と最も多く、次いで「ひとりで暮らしたい」が13.9%となっています。

〔療育〕では、「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が36.5%と最も多く、次いで「グループホームなどで暮らしたい」が13.1%となっています。

〔精神〕では、「自宅で家族と一緒に暮らしたい」が49.1%と最も多く、次いで「ひとりで暮らしたい」が23.1%となっています。



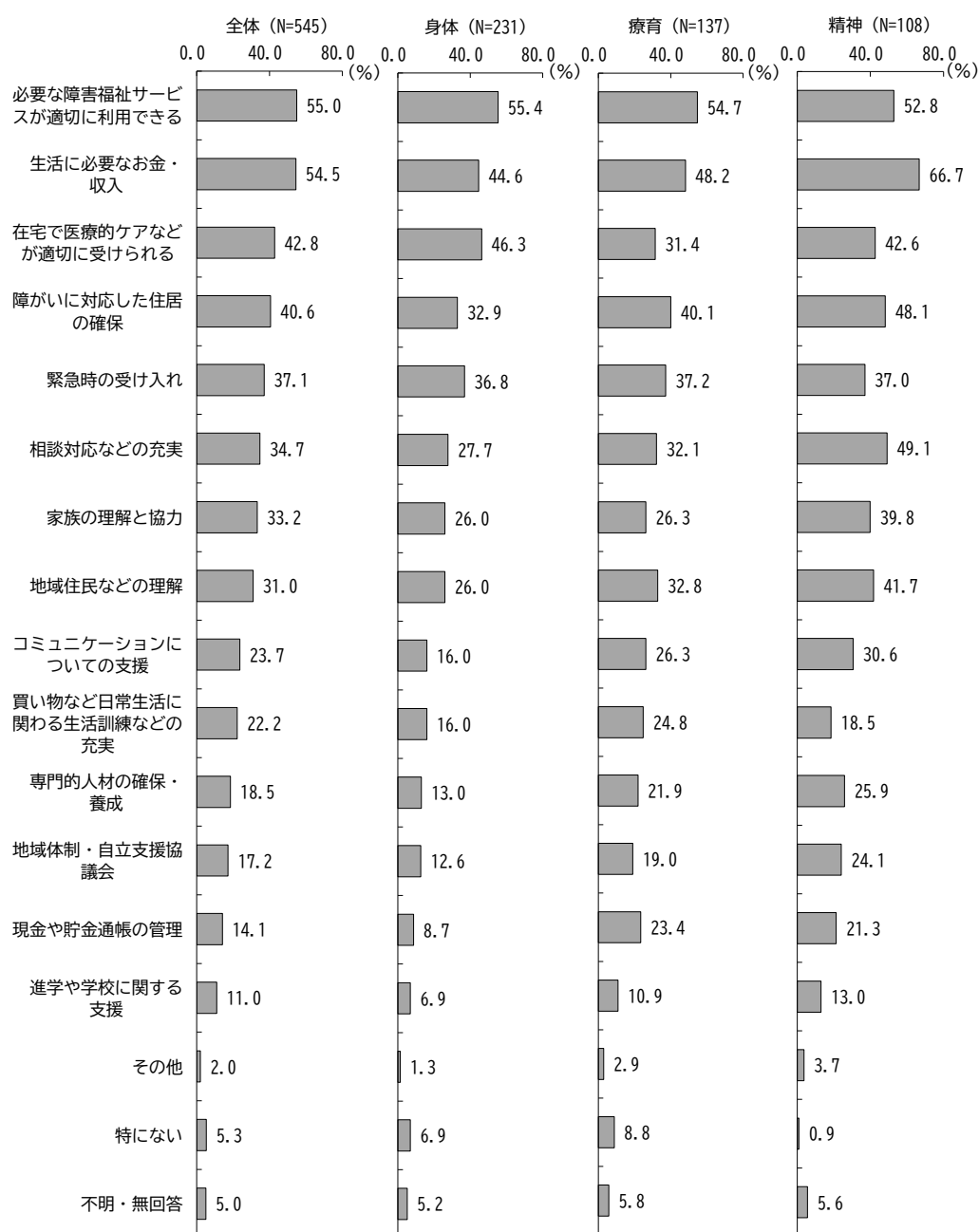
問 21 あなたは障がいのある方が、住み慣れた地域で暮らしていくためには、どのような支援があれば良いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「必要な障害福祉サービスが適切に利用できる」が55.0%と最も多く、次いで「生活に必要なお金・収入」が54.5%、「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられる」が42.8%となっています。

〔身体〕では、「必要な障害福祉サービスが適切に利用できる」が55.4%と最も多く、次いで「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられる」が46.3%となっています。

〔療育〕では、「必要な障害福祉サービスが適切に利用できる」が54.7%と最も多く、次いで「生活に必要なお金・収入」が48.2%となっています。

〔精神〕では、「生活に必要なお金・収入」が66.7%と最も多く、次いで「必要な障害福祉サービスが適切に利用できる」が52.8%となっています。



相談相手について

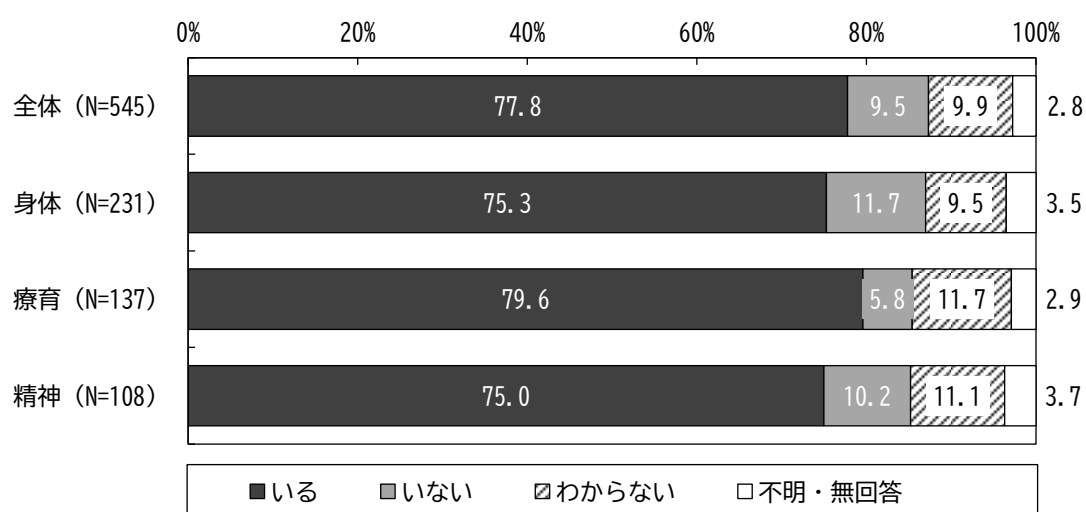
問 22 あなたは、不安や悩みごと、困ったことが起きたとき相談する相手がいますか。(1つに○)

全体では「いる」が77.8%と最も多く、次いで「わからない」が9.9%、「いない」が9.5%となっています。

〔身体〕では、「いる」が75.3%と最も多く、次いで「いない」が11.7%となっています。

〔療育〕では、「いる」が79.6%と最も多く、次いで「わからない」が11.7%となっています。

〔精神〕では、「いる」が75.0%と最も多く、次いで「わからない」が11.1%となっています。



問 22 で「いる」を選んだ方

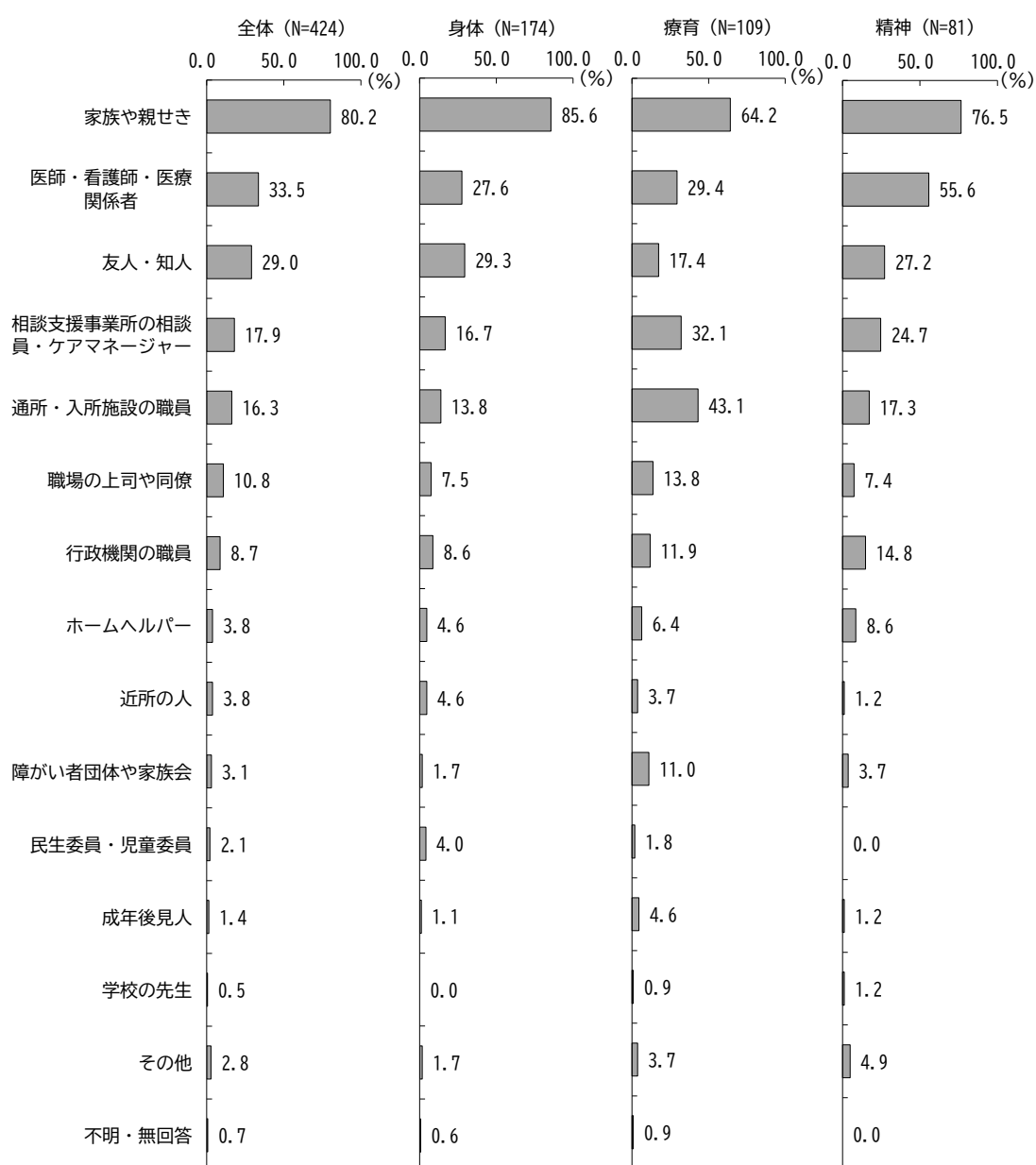
問 23 相談する相手がいる人は、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「家族や親せき」が80.2%と最も多く、次いで「医師・看護師・医療関係者」が33.5%、「友人・知人」が29.0%となっています。

〔身体〕では、「家族や親せき」が85.6%と最も多く、次いで「友人・知人」が29.3%となっています。

〔療育〕では、「家族や親せき」が64.2%と最も多く、次いで「通所・入所施設の職員」が43.1%となっています。

〔精神〕では、「家族や親せき」が76.5%と最も多く、次いで「医師・看護師・医療関係者」が55.6%となっています。



障がい者に対する差別や偏見について

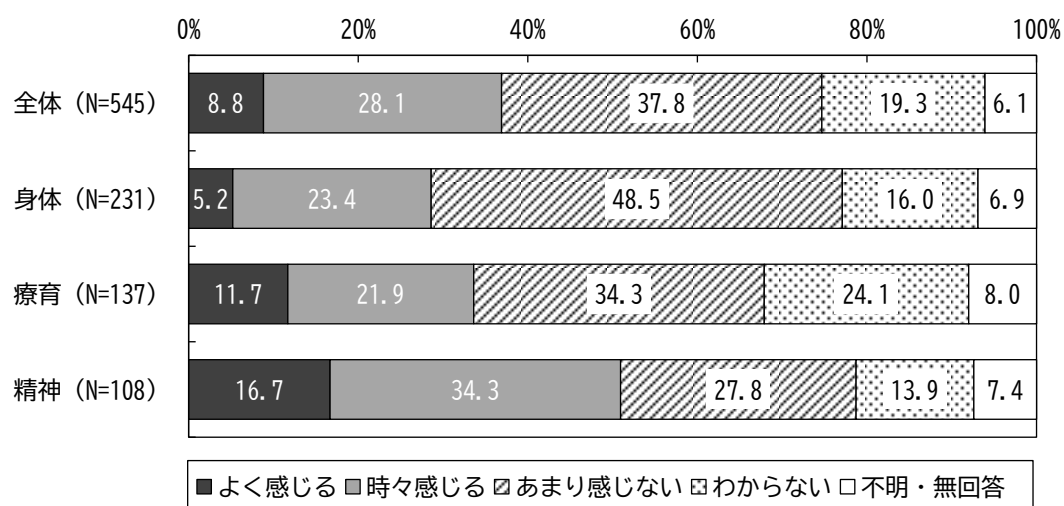
問 24 あなたは普段生活をしていて、障がいのある方に対する差別や偏見を感じたことがありますか。(1つに○)

全体では「あまり感じない」が37.8%と最も多く、次いで「時々感じる」が28.1%、「わからない」が19.3%となっています。

〔身体〕では、「あまり感じない」が48.5%と最も多く、次いで「時々感じる」が23.4%となっています。

〔療育〕では、「あまり感じない」が34.3%と最も多く、次いで「わからない」が24.1%となっています。

〔精神〕では、「時々感じる」が34.3%と最も多く、次いで「あまり感じない」が27.8%となっています。



問 24 で「よく感じる」「時々感じる」のいずれかを選んだ方

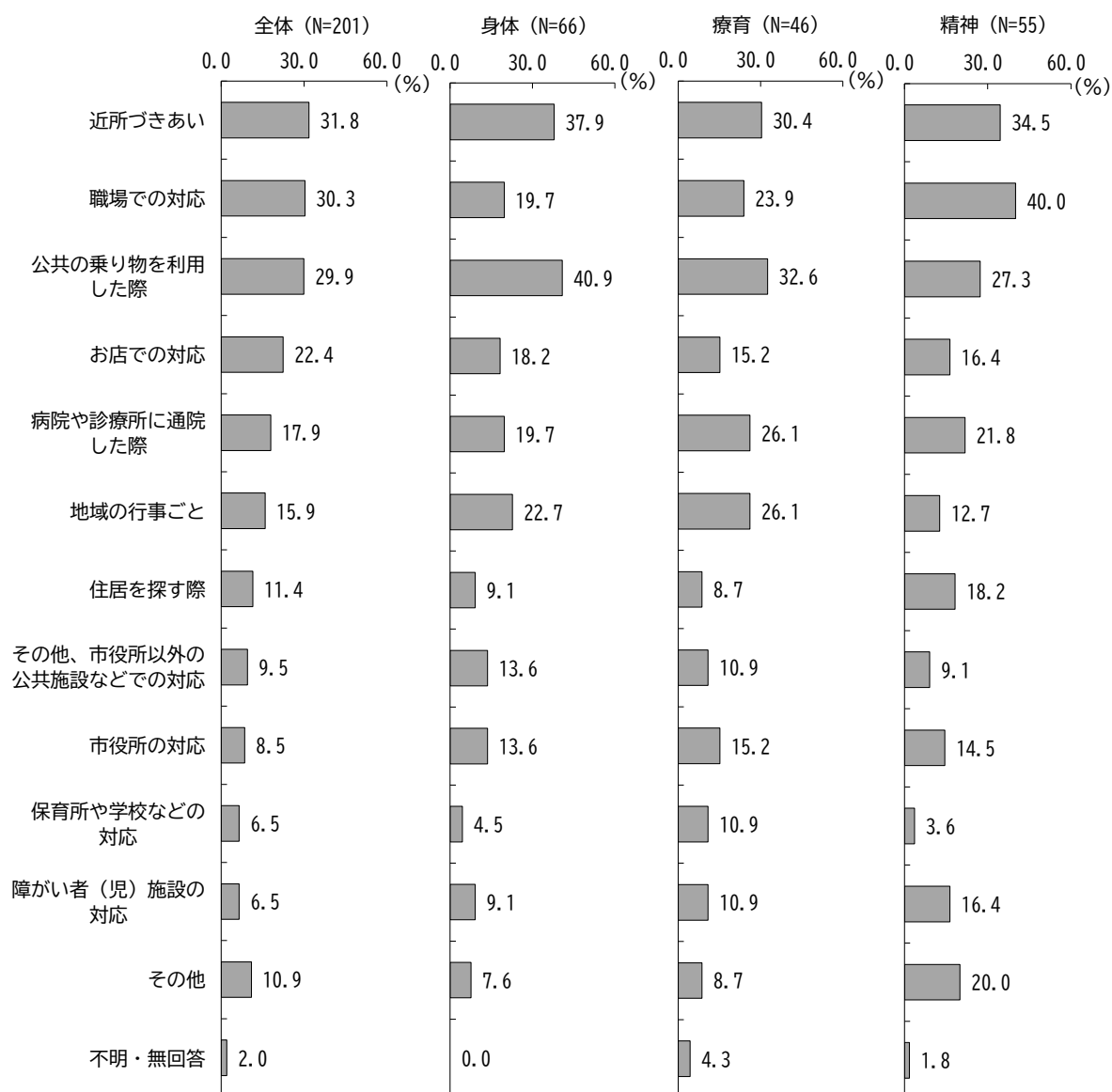
問 25 あなたが障がいのある方に対する差別や偏見を感じたのはどのようなときですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「近所づきあい」が 31.8%と最も多く、次いで「職場での対応」が 30.3%、「公共の乗り物を利用した際」が 29.9%となっています。

〔身体〕では、「公共の乗り物を利用した際」が 40.9%と最も多く、次いで「近所づきあい」が 37.9%となっています。

〔療育〕では、「公共の乗り物を利用した際」が 32.6%と最も多く、次いで「近所づきあい」が 30.4%となっています。

〔精神〕では、「職場での対応」が 40.0%と最も多く、次いで「近所づきあい」が 34.5%となっています。



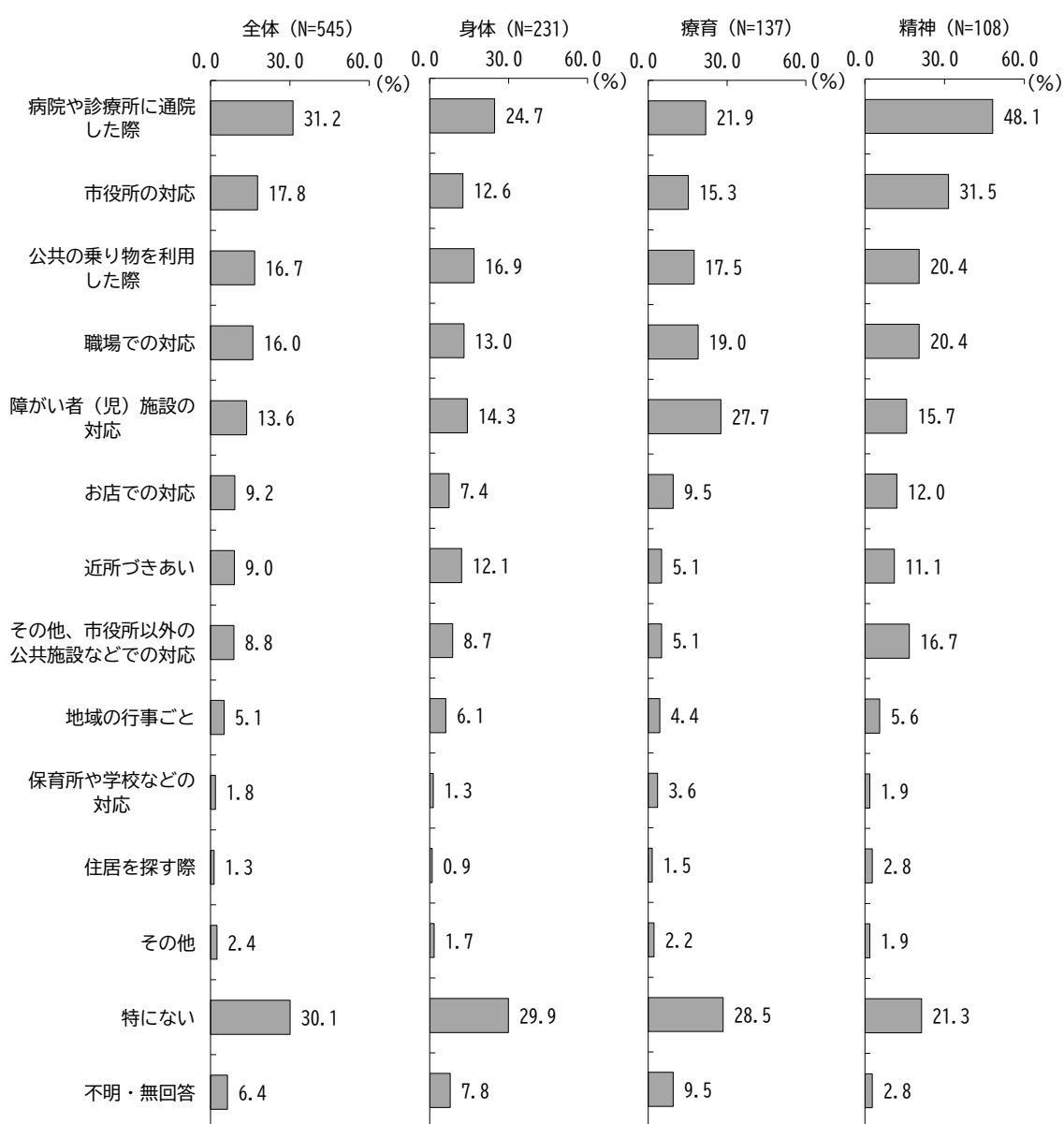
問 26 あなたが自分の障がいに応じた配慮や調整を受けられたり、用事や活動をしやすと感じられるのはどのようなときですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「病院や診療所に通院した際」が31.2%と最も多く、次いで「特にない」が30.1%、「市役所の対応」が17.8%となっています。

〔身体〕では、「特にない」が29.9%と最も多く、次いで「病院や診療所に通院した際」が24.7%となっています。

〔療育〕では、「特にない」が28.5%と最も多く、次いで「障がい者（児）施設の対応」が27.7%となっています。

〔精神〕では、「病院や診療所に通院した際」が48.1%と最も多く、次いで「市役所の対応」が31.5%となっています。



障害福祉サービスの利用について

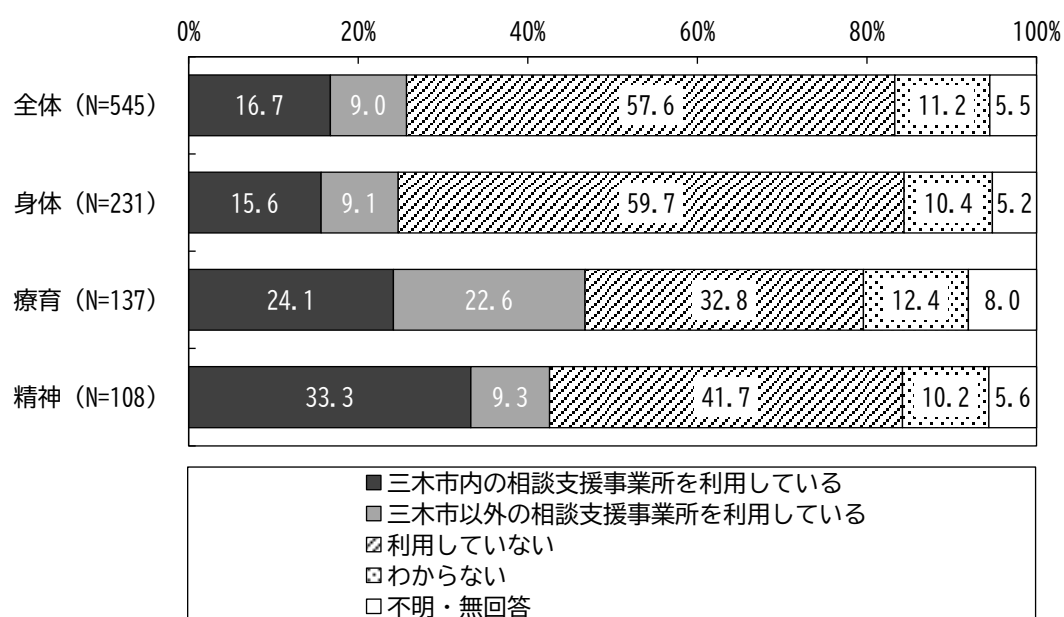
問 27 あなたは計画相談支援を利用していますか。(1つに○)

全体では「利用していない」が57.6%と最も多く、次いで「三木市内の相談支援事業所を利用している」が16.7%、「わからない」が11.2%となっています。

〔身体〕では、「利用していない」が59.7%と最も多く、次いで「三木市内の相談支援事業所を利用している」が15.6%となっています。

〔療育〕では、「利用していない」が32.8%と最も多く、次いで「三木市内の相談支援事業所を利用している」が24.1%となっています。

〔精神〕では、「利用していない」が41.7%と最も多く、次いで「三木市内の相談支援事業所を利用している」が33.3%となっています。



問 27 で「三木市内の相談支援事業所を利用している」「三木市以外の相談支援事業所を利用している」のいずれかを選んだ方

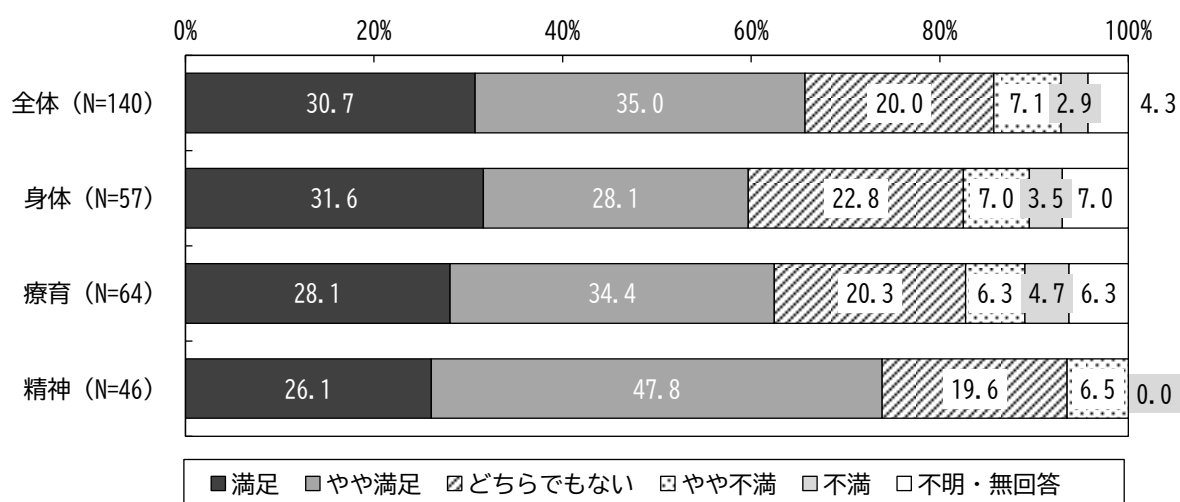
問 28 あなたは、担当する相談支援事業所の支援に満足していますか。（1 つに○）

全体では「やや満足」が 35.0%と最も多く、次いで「満足」が 30.7%、「どちらでもない」が 20.0%となっています。

〔身体〕では、「満足」が 31.6%と最も多く、次いで「やや満足」が 28.1%となっています。

〔療育〕では、「やや満足」が 34.4%と最も多く、次いで「満足」が 28.1%となっています。

〔精神〕では、「やや満足」が 47.8%と最も多く、次いで「満足」が 26.1%となっています。



問 28 で「やや不満」「不満」のいずれかを選んだ方

問 29 あなたが不満と感じている理由はどのようなことですか。

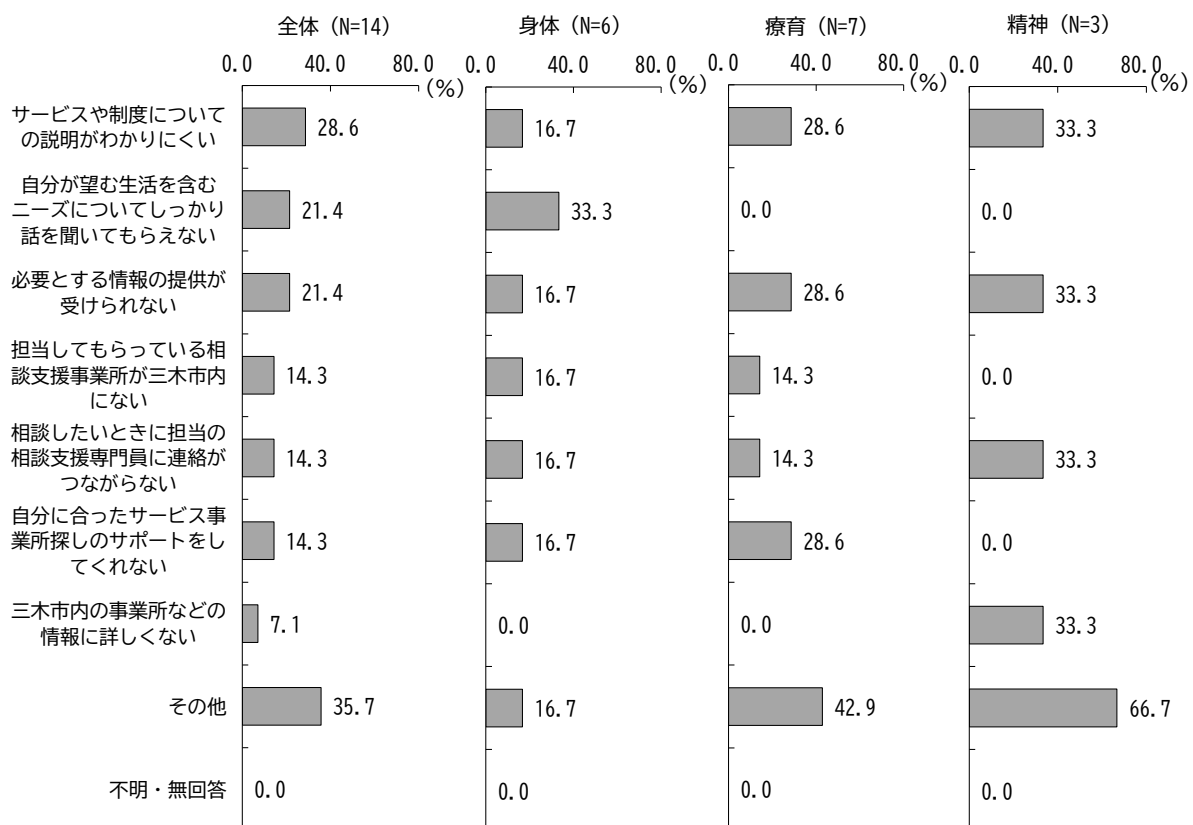
(あてはまるものすべてに○)

全体では「サービスや制度についての説明がわかりにくい」が 28.6%と最も多く、次いで、「自分が望む生活を含むニーズについてしっかり話を聞いてもらえない」と「必要とする情報の提供が受けられない」がともに 21.4%となっています。

〔身体〕では、「自分が望む生活を含むニーズについてしっかり話を聞いてもらえない」が 33.3%と最も多くなっています。

〔療育〕では、「サービスや制度についての説明がわかりにくい」「自分に合ったサービス事業所探しのサポートをしてくれない」「必要とする情報の提供が受けられない」が 28.6%と最も多くなっています。

〔精神〕では、「相談したいときに担当の相談支援専門員に連絡が繋がらない」や「三木市内の事業所などの情報に詳しくない」、「サービスや制度についての説明がわかりにくい」、「必要とする情報の提供が受けられない」がそれぞれ 33.3%となっています。



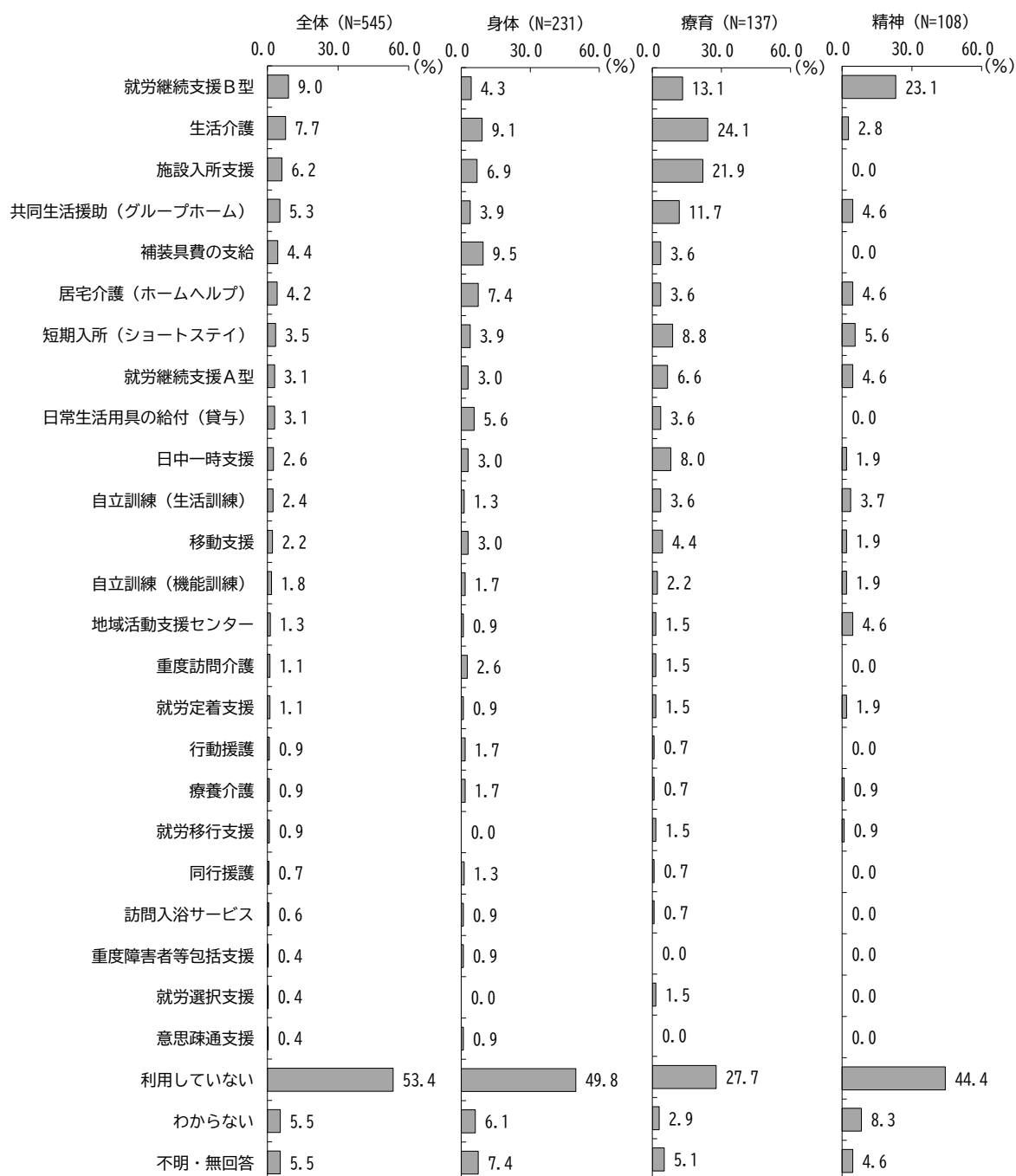
問 30 あなたは以下の障害福祉サービスまたは地域生活支援事業を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「利用していない」が53.4%と最も多く、次いで「就労継続支援B型」が9.0%、「生活介護」が7.7%となっています。

〔身体〕では、「利用していない」が49.8%と最も多く、次いで「補装具費の支給」が9.5%となっています。

〔療育〕では、「利用していない」が27.7%と最も多く、次いで「生活介護」が24.1%となっています。

〔精神〕では、「利用していない」が44.4%と最も多く、次いで「就労継続支援B型」が23.1%となっています。



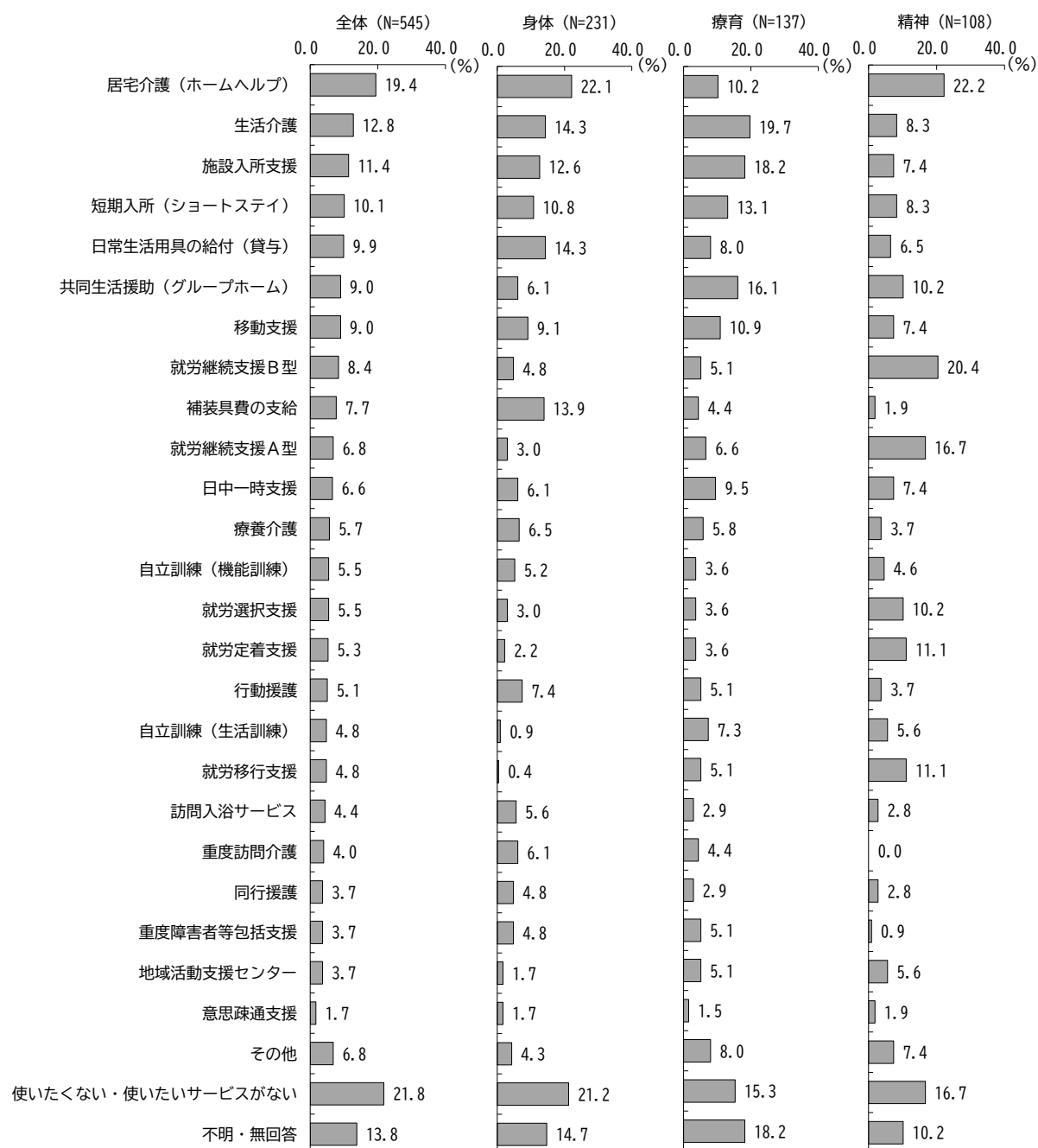
問 31 あなたが将来利用したいと思う障害福祉サービスまたは地域生活支援事業を
以下より選んでください。(あてはまるものすべてに○)

全体では「使いたくない・使いたいサービスがない」が21.8%と最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」が19.4%、「生活介護」が12.8%となっています。

〔身体〕では、「居宅介護（ホームヘルプ）」が22.1%と最も多く、次いで「使いたくない・使いたいサービスがない」が21.2%となっています。

〔療育〕では、「生活介護」が19.7%と最も多く、次いで「施設入所支援」が18.2%となっています。

〔精神〕では、「居宅介護（ホームヘルプ）」が22.2%と最も多く、次いで「就労継続支援B型」が20.4%となっています。



障がい者施策について

問 32 あなたは、次のア～オの言葉をどれくらい知っていますか。

(ア～オそれぞれ1つずつ○)

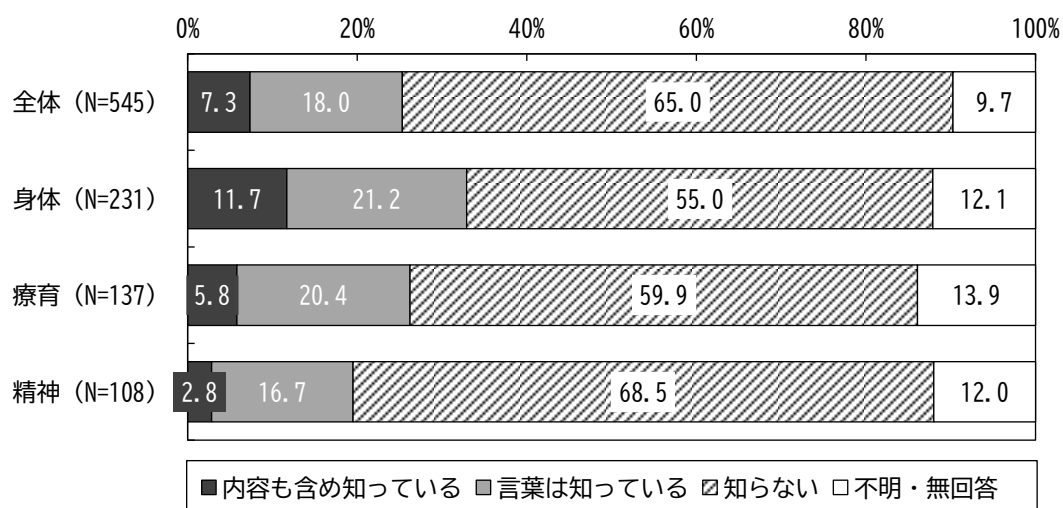
ア 災害時要援護者制度

全体では「知らない」が65.0%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が18.0%、「内容も含め知っている」が7.3%となっています。

〔身体〕では、「知らない」が55.0%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が21.2%となっています。

〔療育〕では、「知らない」が59.9%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が20.4%となっています。

〔精神〕では、「知らない」が68.5%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が16.7%となっています。



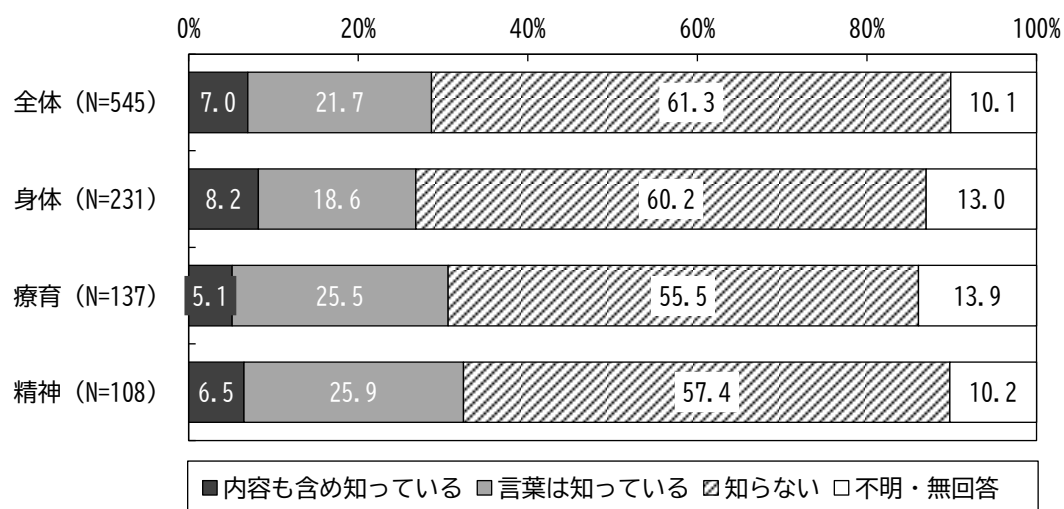
イ 障害者差別解消法

全体では「知らない」が61.3%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が21.7%、「内容も含め知っている」が7.0%となっています。

〔身体〕では、「知らない」が60.2%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が18.6%となっています。

〔療育〕では、「知らない」が55.5%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が25.5%となっています。

〔精神〕では、「知らない」が57.4%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が25.9%となっています。



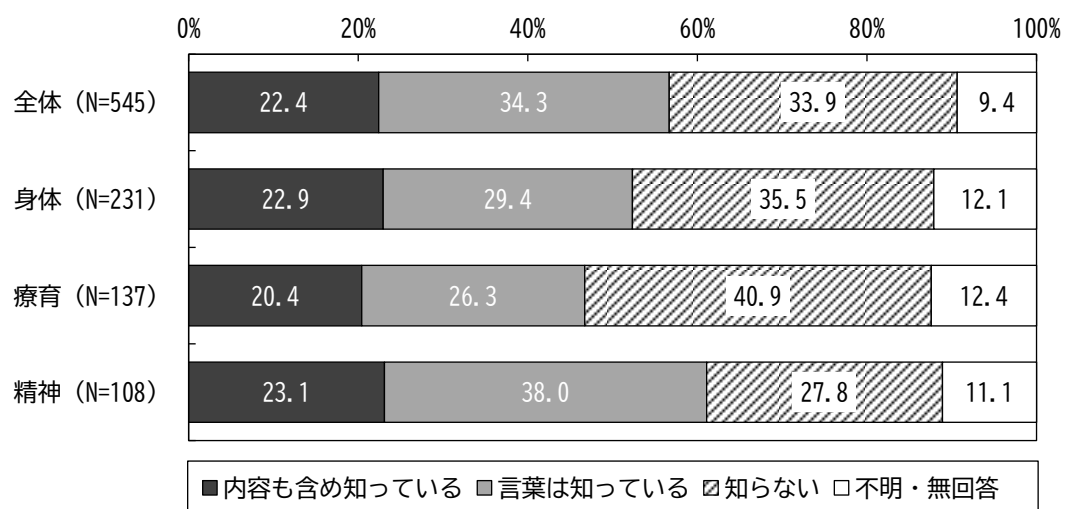
ウ 成年後見制度

全体では「言葉は知っている」が34.3%と最も多く、次いで「知らない」が33.9%、「内容も含め知っている」が22.4%となっています。

〔身体〕では、「知らない」が35.5%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が29.4%となっています。

〔療育〕では、「知らない」が40.9%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が26.3%となっています。

〔精神〕では、「言葉は知っている」が38.0%と最も多く、次いで「知らない」が27.8%となっています。



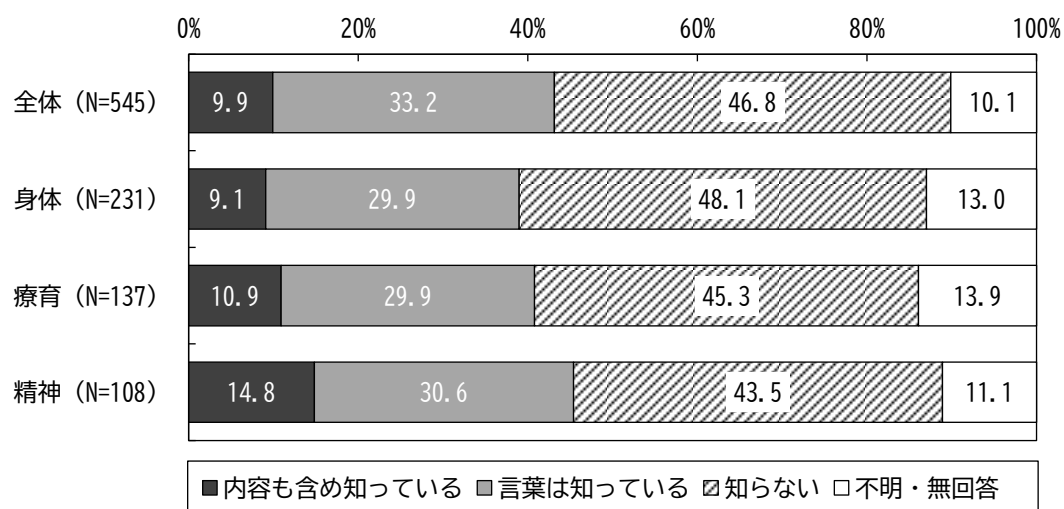
工 障害者虐待防止法

全体では「知らない」が46.8%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が33.2%、「内容も含め知っている」が9.9%となっています。

〔身体〕では、「知らない」が48.1%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が29.9%となっています。

〔療育〕では、「知らない」が45.3%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が29.9%となっています。

〔精神〕では、「知らない」が43.5%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が30.6%となっています。



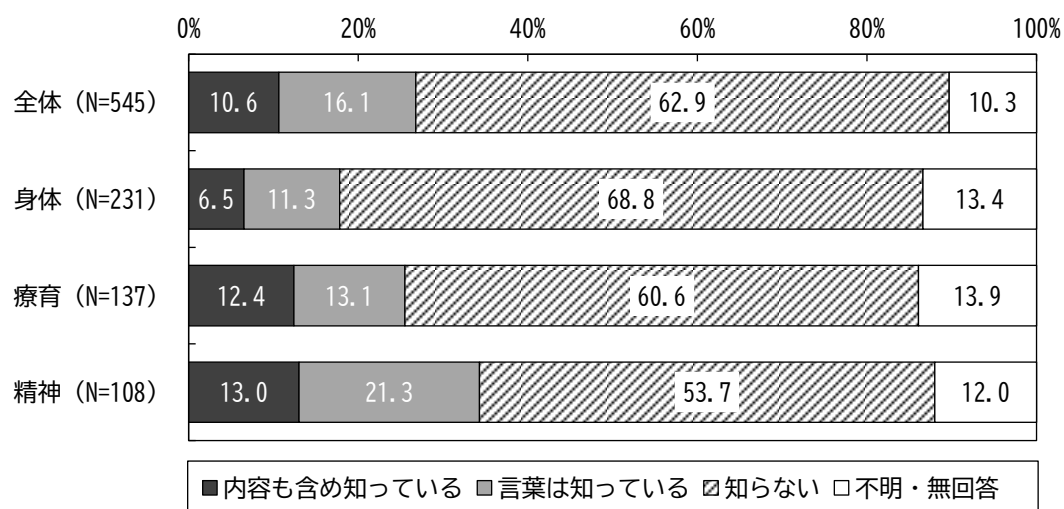
オ 合理的配慮

全体では「知らない」が62.9%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が16.1%、「内容も含め知っている」が10.6%となっています。

〔身体〕では、「知らない」が68.8%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が11.3%となっています。

〔療育〕では、「知らない」が60.6%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が13.1%となっています。

〔精神〕では、「知らない」が53.7%と最も多く、次いで「言葉は知っている」が21.3%となっています。



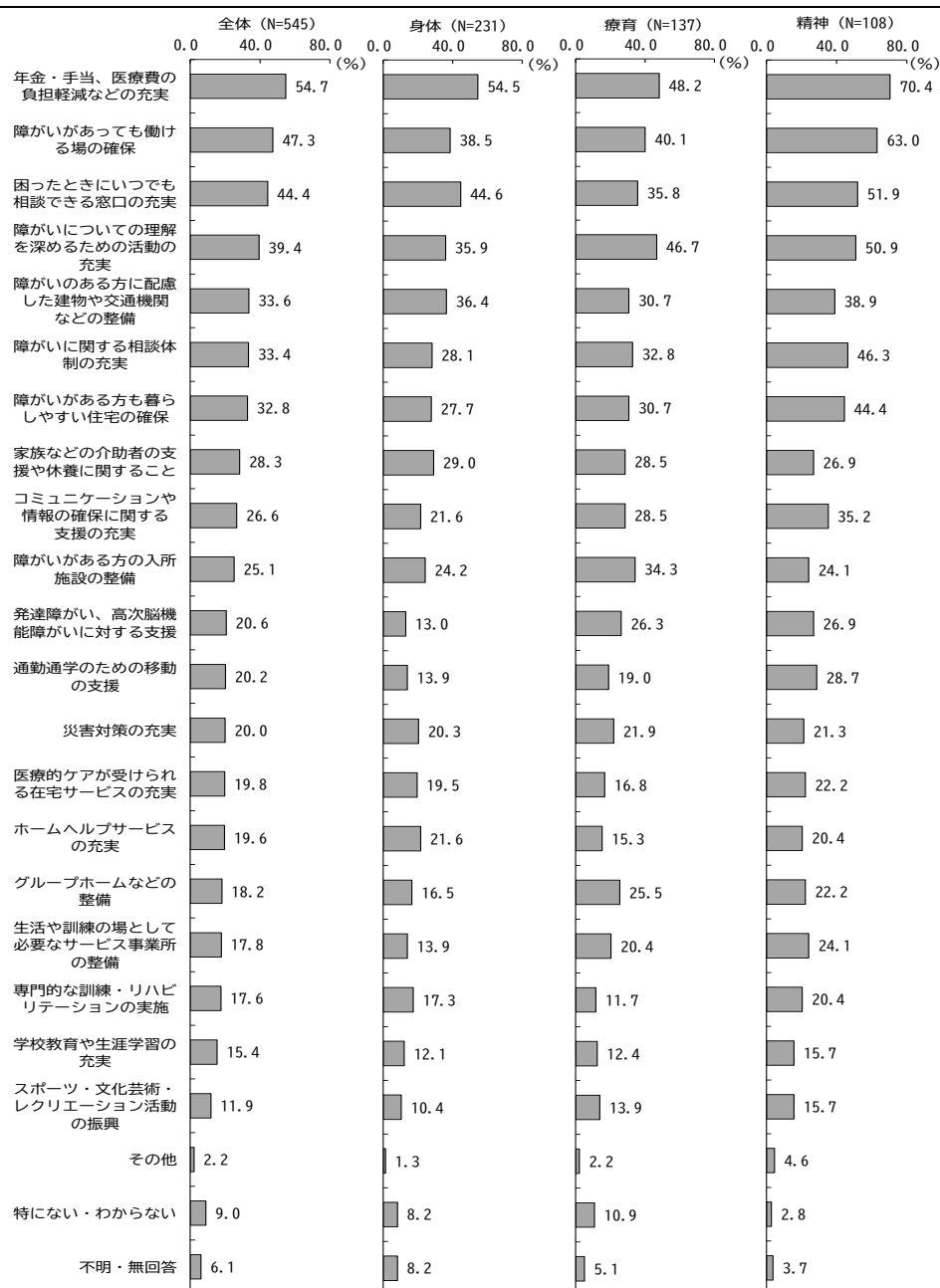
問 33 あなたは障がいのある方に対する支援を充実していくために、行政などがどのような取り組みをしていくことが重要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体では「年金・手当、医療費の負担軽減などの充実」が54.7%と最も多く、次いで「障がいがあっても働ける場の確保」が47.3%、「困ったときにいつでも相談できる窓口の充実」が44.4%となっています。

〔身体〕では、「年金・手当、医療費の負担軽減などの充実」が54.5%と最も多く、次いで「困ったときにいつでも相談できる窓口の充実」が44.6%となっています。

〔療育〕では、「年金・手当、医療費の負担軽減などの充実」が48.2%と最も多く、次いで「障がいについての理解を深めるための活動の充実」が46.7%となっています。

〔精神〕では、「年金・手当、医療費の負担軽減などの充実」が70.4%と最も多く、次いで「障がいがあっても働ける場の確保」が63.0%となっています。

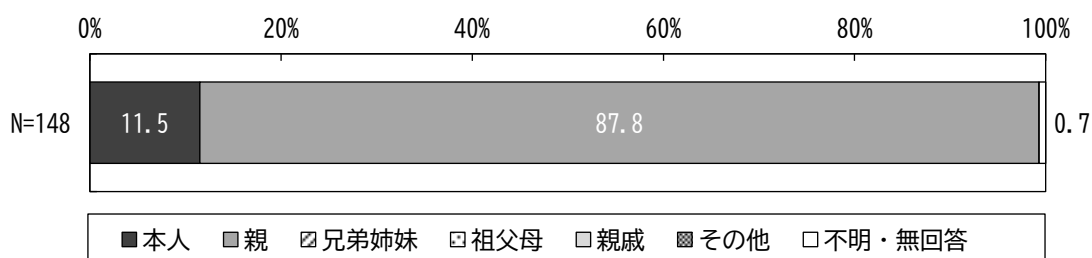


IV 支援の必要な子どもに 関するアンケート調査の結果

あなたとご家族について

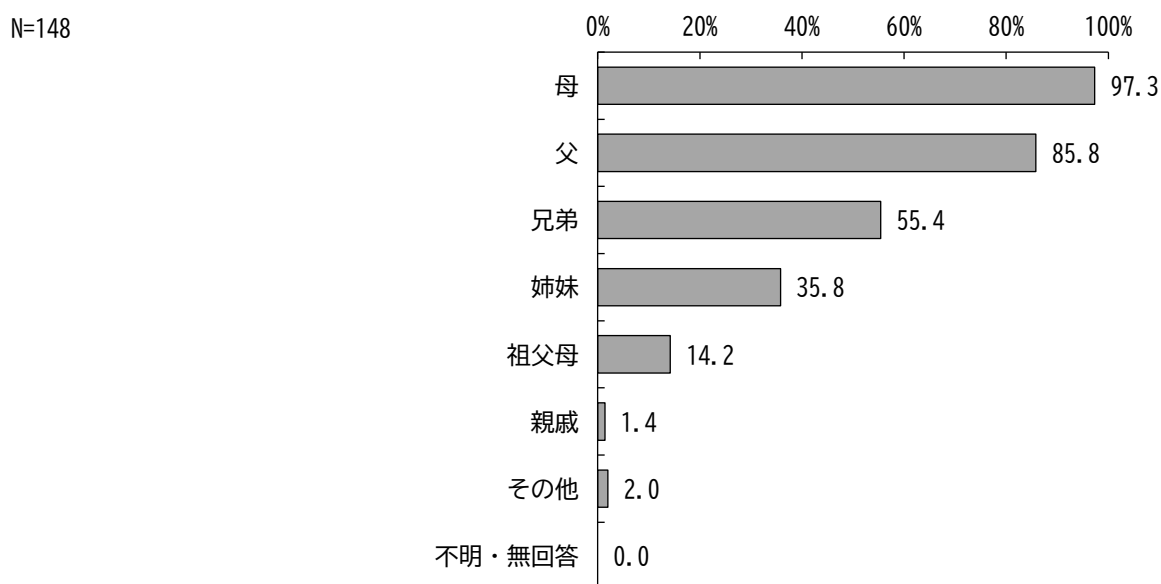
問1 アンケート調査の記入をしていただいている方はどなたですか。あなた（あて名のご本人）からみた関係をお答えください。（1つに○）

「親」が87.8%、次いで「本人」が11.5%となっています。



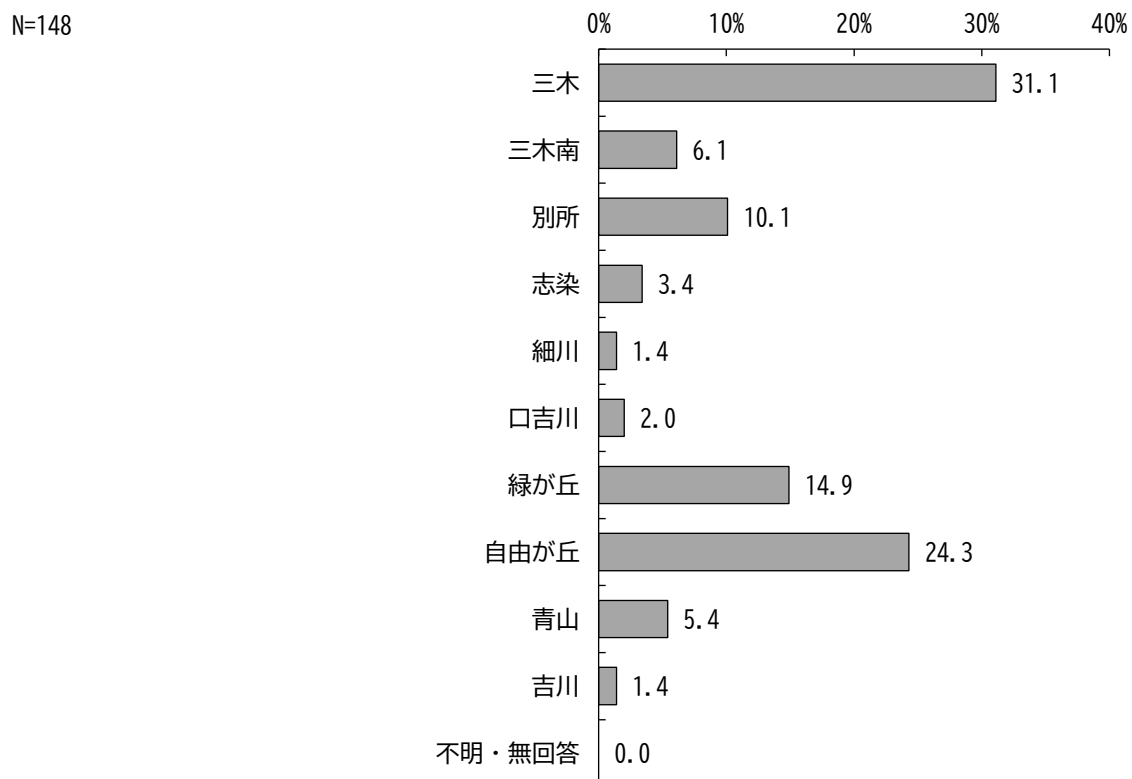
問2 あなたと同居している家族はどなたですか。あなたからみた関係をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

「母」が97.3%、次いで「父」が85.8%、「兄弟」が55.4%となっています。



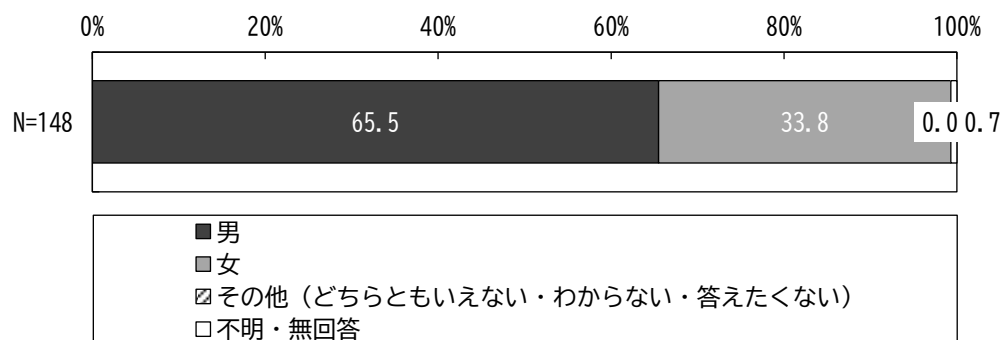
問3 あなたのお住まいはどちらの地区ですか。(1つに○)

「三木」が31.1%、次いで「自由が丘」が24.3%、「緑が丘」が14.9%となっています。



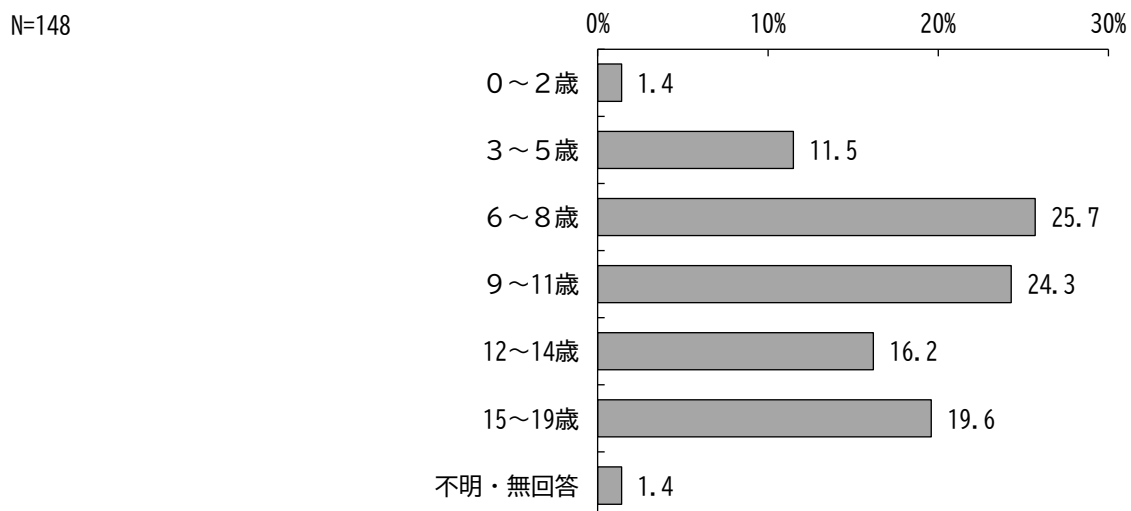
問4 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

「男」が65.5%、「女」が33.8%となっています。



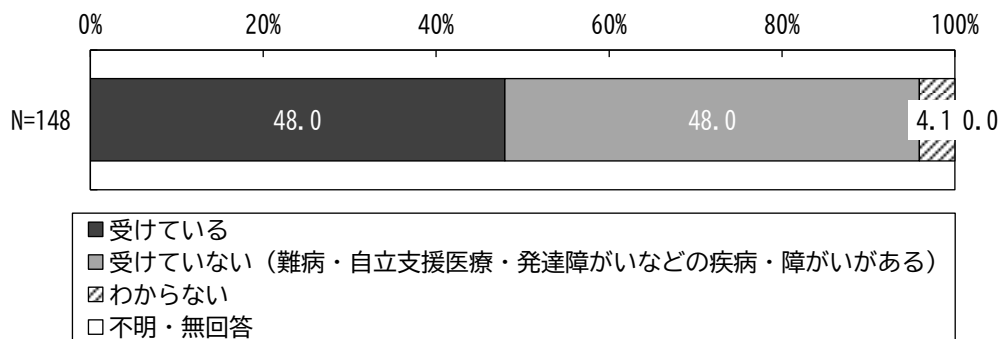
問5 あなたの年齢（令和8年4月1日現在）をご記入ください。（数字を記入）

「6～8歳」が25.7%と最も多く、次いで「9～11歳」が24.3%、「15～19歳」が19.6%となっています。



問6 あなたは障害者手帳の交付を受けていますか。（1つに○）

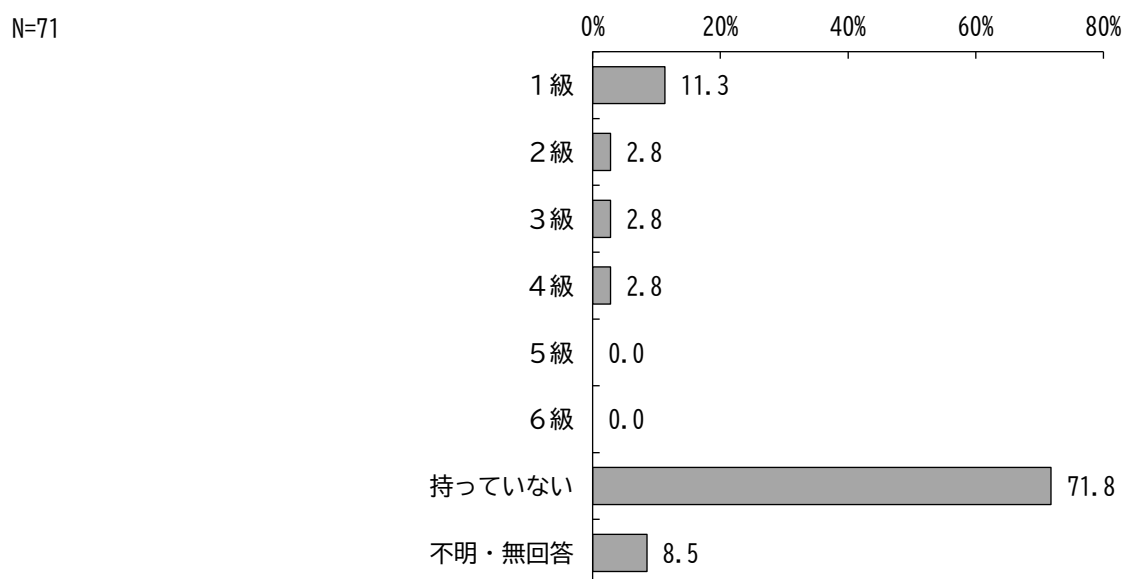
「受けている」と「受けていない（難病・自立支援医療・発達障がいなどの疾病・障がいがある）」がともに48.0%、次いで「わからない」が4.1%となっています。



問6で「受けている」を選んだ方

問7 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(1つに○)

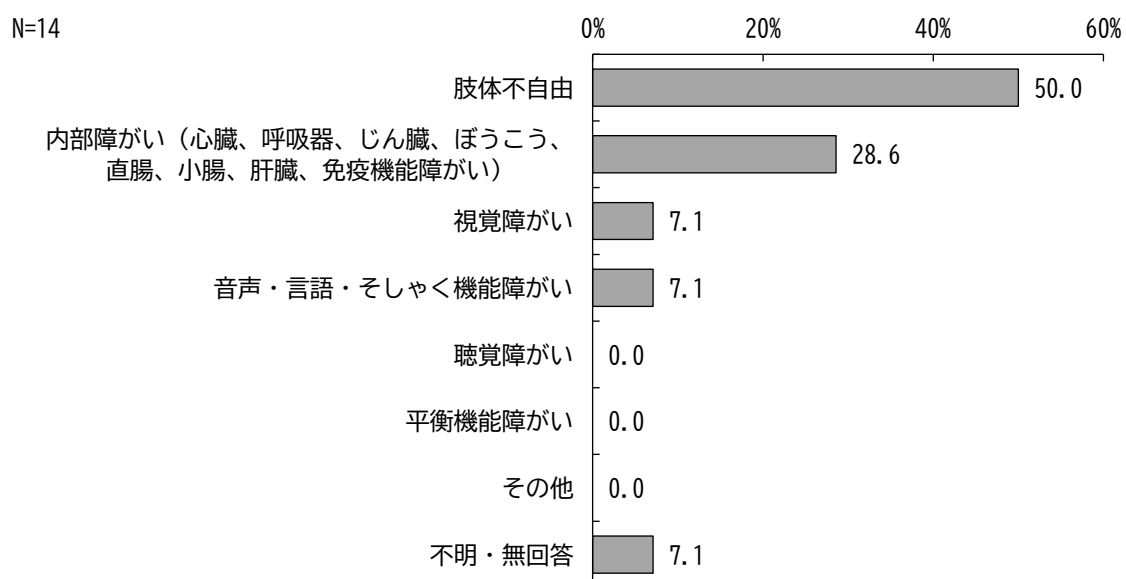
「1級」が11.3%、「2級」と「3級」、「4級」がそれぞれ2.8%となっています。



身体障害者手帳をお持ちの方

問8 身体障害者手帳をお持ちの場合、手帳に記載されている障がいの種別は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

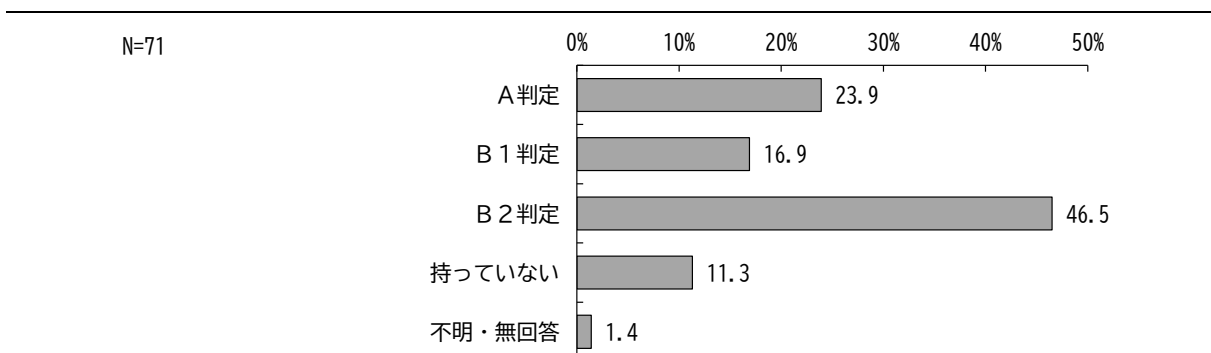
「肢体不自由」が50.0%と最も多く、次いで「内部障がい（心臓、呼吸器、じん臓、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓、免疫機能障がい）」が28.6%、「視覚障がい」と「音声・言語・そしゃく機能障がい」がともに7.1%となっています。



問6で「受けている」を選んだ方

問9 あなたは療育手帳をお持ちですか。(1つに○)

「B2判定」が46.5%と最も多く、次いで「A判定」が23.9%、「B1判定」が16.9%となっています。



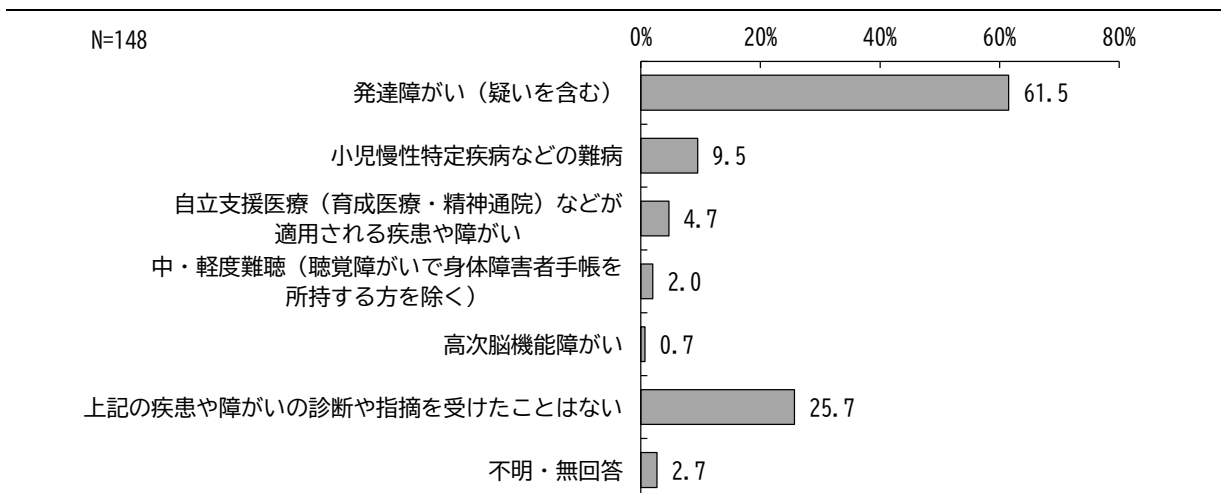
問6で「受けている」を選んだ方

問10 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(1つに○)

本調査では精神障害者保健福祉手帳を所持している方からの回答はありませんでした。

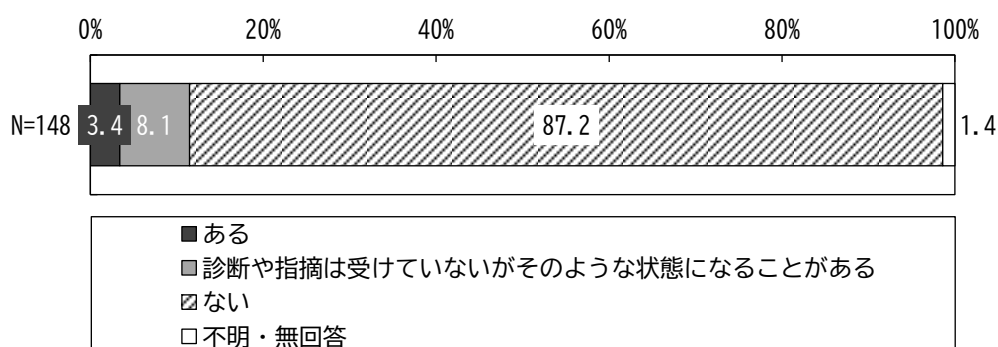
問11 あなたは医療機関や専門・相談機関などで次の疾患や障がいなどについて診断や指摘を受けたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「発達障がい(疑いを含む)」が61.5%と最も多く、次いで「上記の疾患や障がいの診断や指摘を受けたことはない」が25.7%、「小児慢性特定疾病などの難病」が9.5%となっています。



問 12 あなたは、強度行動障がい（危険な行動や自傷、他害、強いこだわり、物を壊すなどの周囲に影響を及ぼす行動が多くなり、特に配慮された支援が必要な状態）という診断や指摘を受けたり、障害福祉サービス受給者証に記載されたりしていますか。（1つに○）

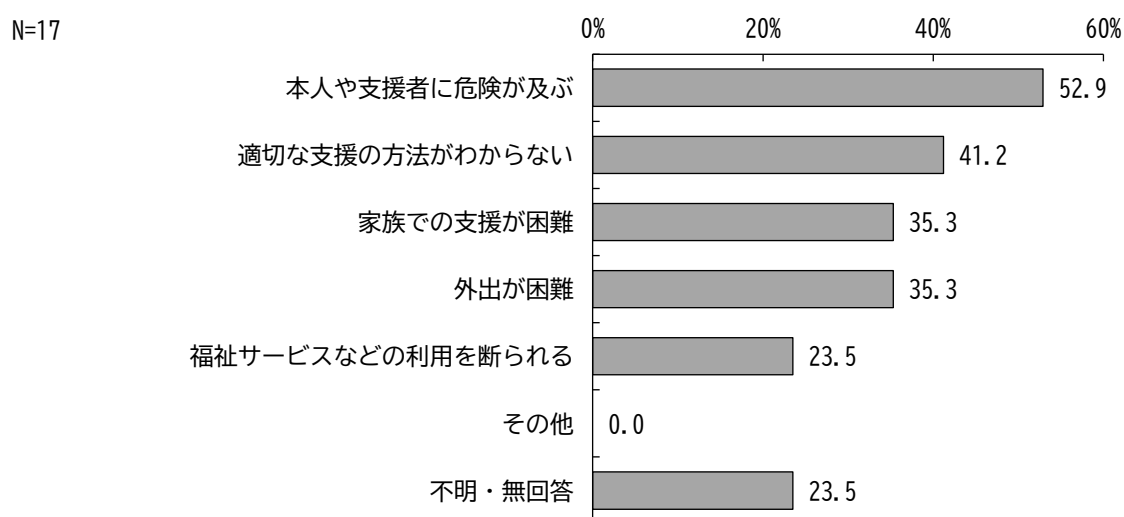
「ない」が87.2%と最も多く、次いで「診断や指摘は受けていないがそのような状態になることがある」が8.1%、「ある」が3.4%となっています。



問 12 で「ある」「診断や指摘は受けていないがそのような状態になることがある」のいずれかを選んだ方

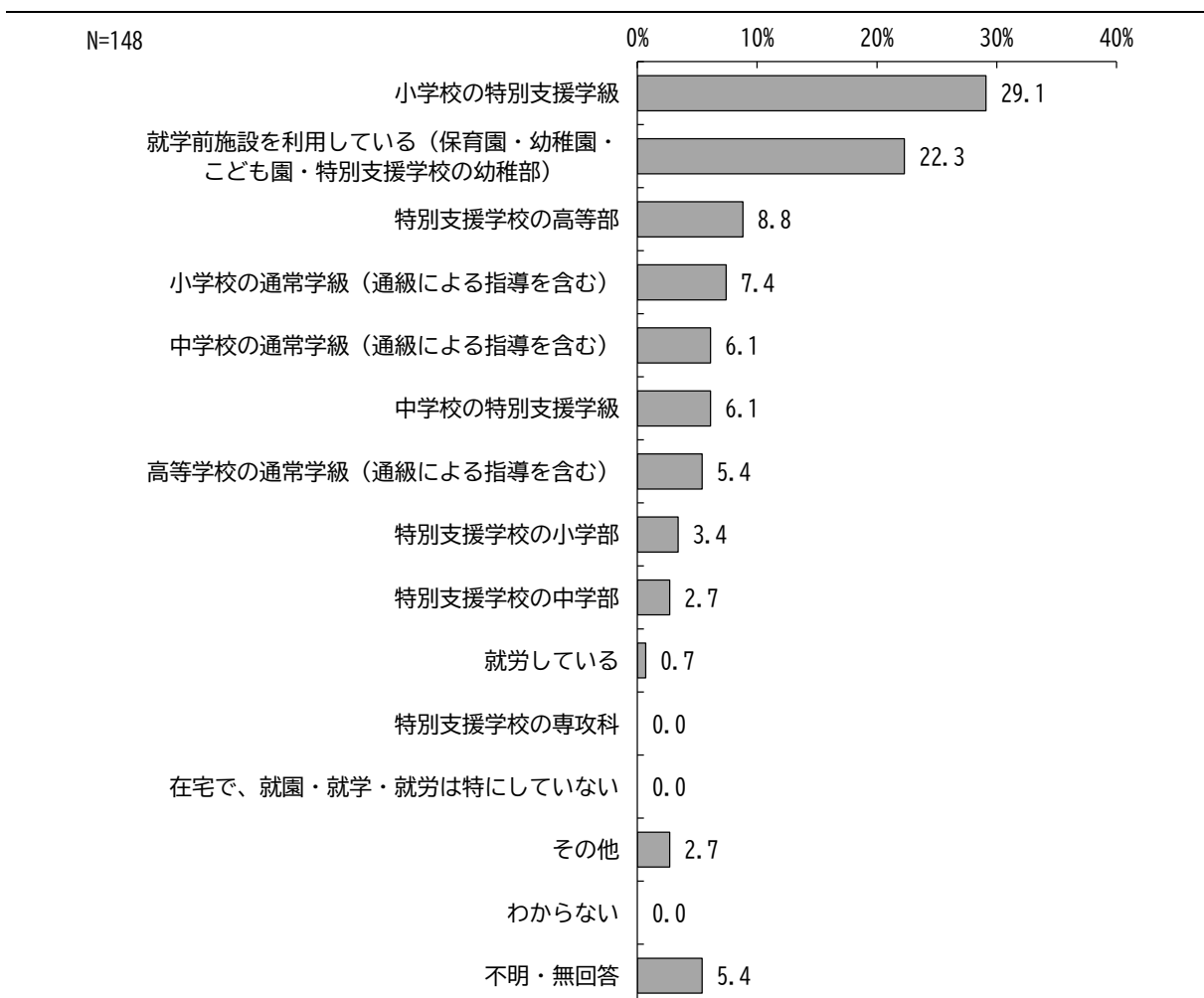
問 13 強度行動障がい（またはそれに近い状況）があるために、次のような問題が起こることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「本人や支援者に危険が及ぶ」が52.9%と最も多く、次いで「適切な支援の方法がわからない」が41.2%、「家族での支援が困難」と「外出が困難」がともに35.3%となっています。



問 14 あなたの就学状況は次のうちどれですか。（1 つに○）

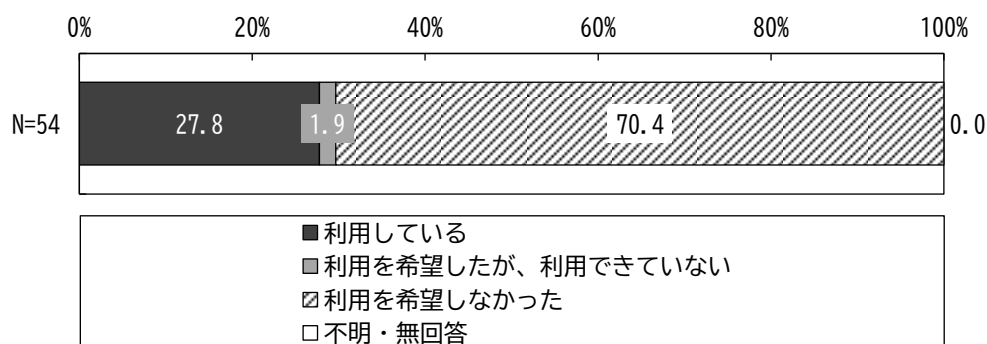
「小学校の特別支援学級」が 29.1%と最も多く、次いで「就学前施設を利用している（保育園・幼稚園・こども園・特別支援学校の幼稚部）」が 22.3%、「特別支援学校の高等部」が 8.8%となっています。



問 14 で「小学校の通常学級（通級による指導を含む）」「小学校の特別支援学級」のいずれかを選んだ方

問 15 あなたは、アフタースクールを利用していますか。（1 つに○）

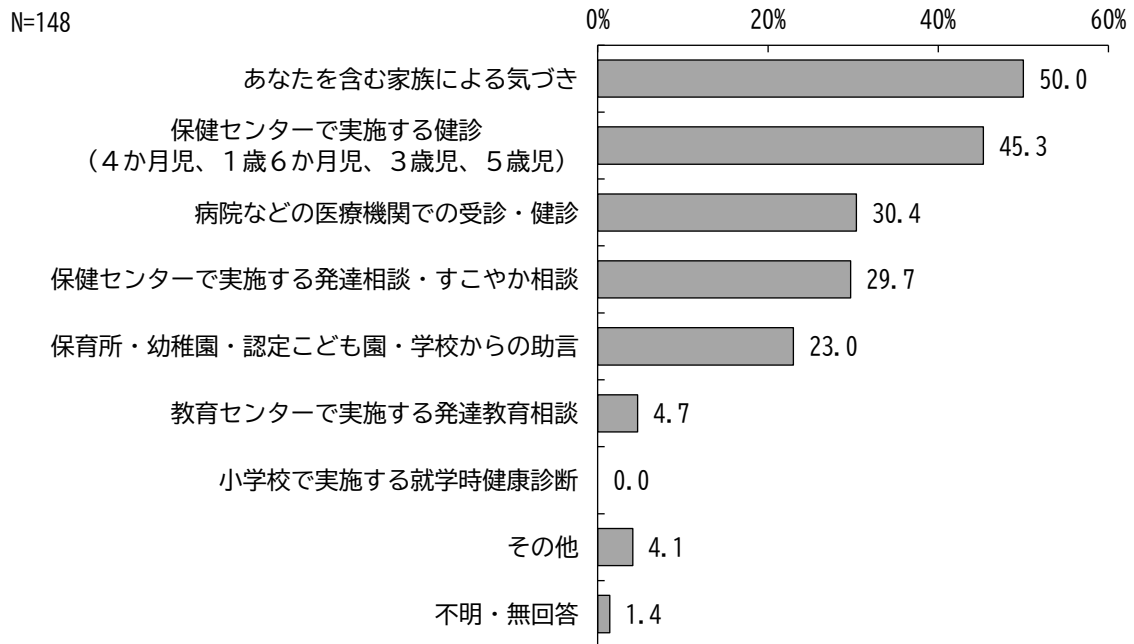
「利用を希望しなかった」が 70.4%と最も多く、次いで「利用している」が 27.8%、「利用を希望したが、利用できていない」が 1.9%となっています。



気づきや困ったときの相談などについて

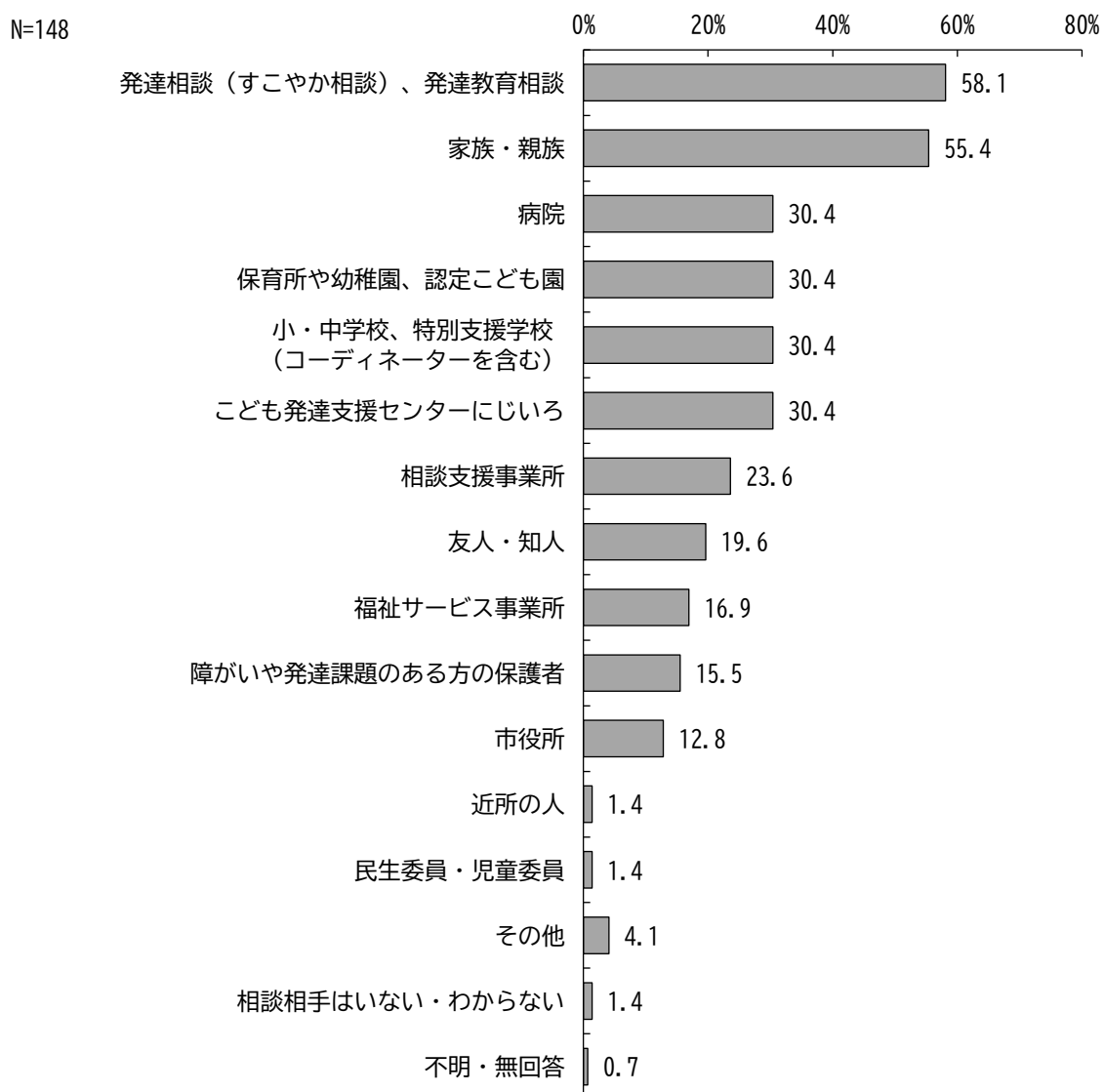
問 16 あなたの障がいや発達課題などに、保護者の方が気づいたきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「あなたを含む家族による気づき」が50.0%と最も多く、次いで「保健センターで実施する健診（4か月児、1歳6か月児、3歳児、5歳児）」が45.3%、「病院などの医療機関での受診・健診」が30.4%となっています。



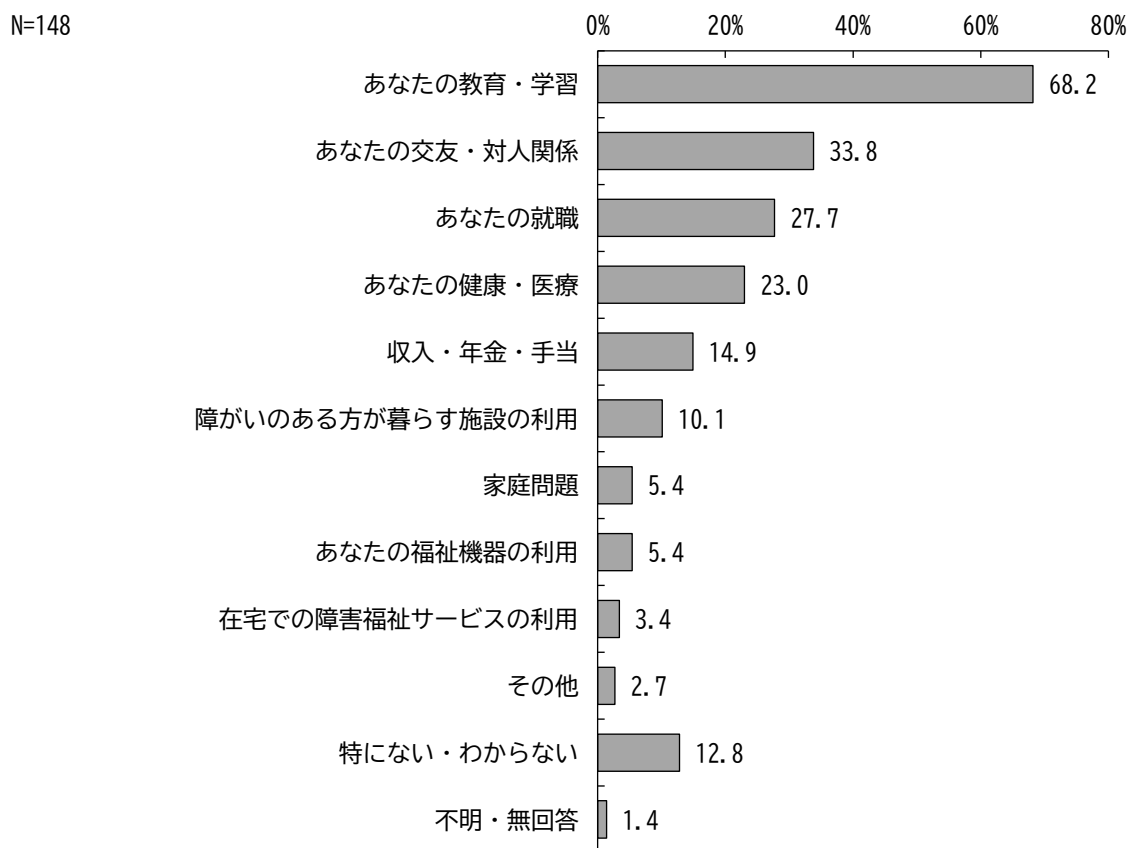
問 17 あなたが、障がいや発達課題などに困ったとき、保護者の方は誰に（どこに）相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

「発達相談（すこやか相談）、発達教育相談」が58.1%と最も多く、次いで「家族・親族」が55.4%となっています。



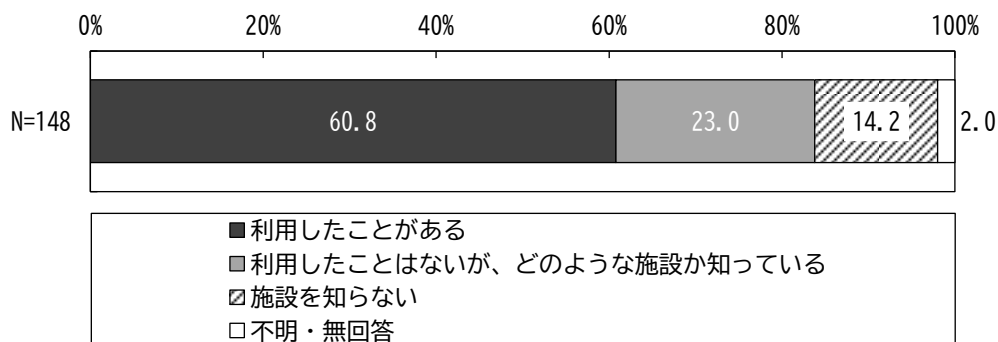
問 18 あなたや保護者の方が現在相談している、または相談したいと思っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「あなたの教育・学習」が68.2%と最も多く、次いで「あなたの交友・対人関係」が33.8%、「あなたの就職」が27.7%となっています。



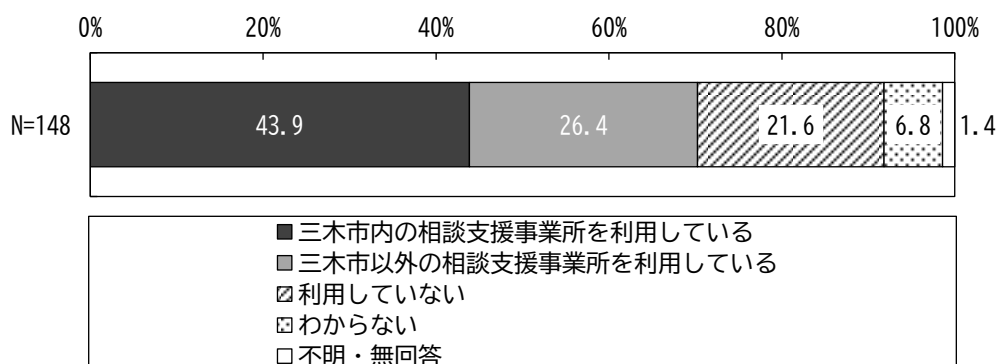
問 19 三木市の「こども発達支援センターにじいろ」は、地域の中核的な発達支援（療育）施設として、さまざまな支援を行っています。あなたはこの施設を利用したことがありますか。(1つに○)

「利用したことがある」が60.8%と最も多く、次いで「利用したことはないが、どのような施設か知っている」が23.0%、「施設を知らない」が14.2%となっています。



問 20 あなたは障害児相談支援を利用していますか。(1 つに○)

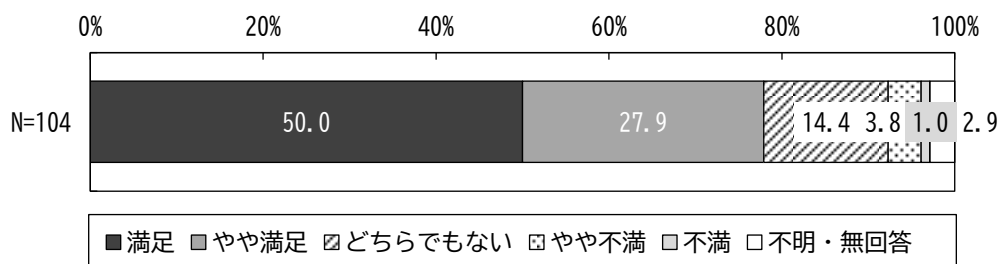
「三木市内の相談支援事業所を利用している」が 43.9%と最も多く、次いで「三木市以外の相談支援事業所を利用している」が 26.4%、「利用していない」が 21.6%となっています。



問 20 で「三木市内の相談支援事業所を利用している」、「三木市外の相談支援事業所を利用している」のいずれかを選んだ方

問 21 あなたは、担当する相談支援事業所の支援に満足していますか。(1 つに○)

「満足」が 50.0%と最も多く、次いで「やや満足」が 27.9%、「どちらでもない」が 14.4%となっています。

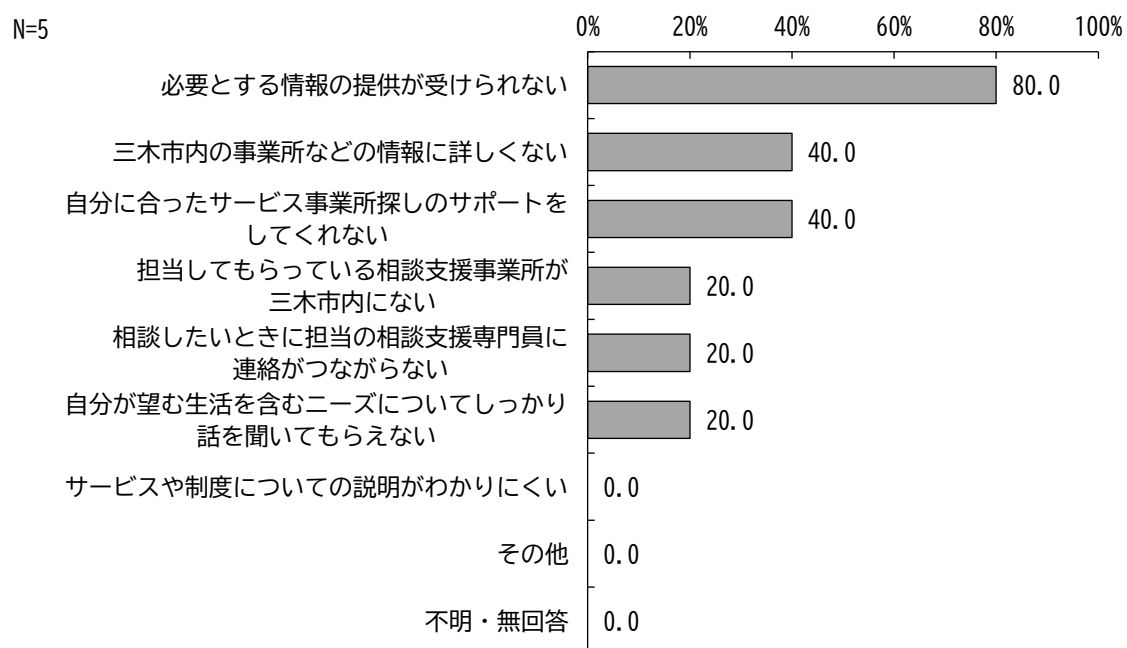


問 21 で「やや不満」「不満」のいずれかを選んだ方

問 22 あなたが不満と感じている理由はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

「必要とする情報の提供が受けられない」が 80.0%と最も多く、次いで「三木市内の事業所などの情報に詳しくない」と「自分に合ったサービス事業所探しのサポートをしてくれない」がともに 40.0%となっています。

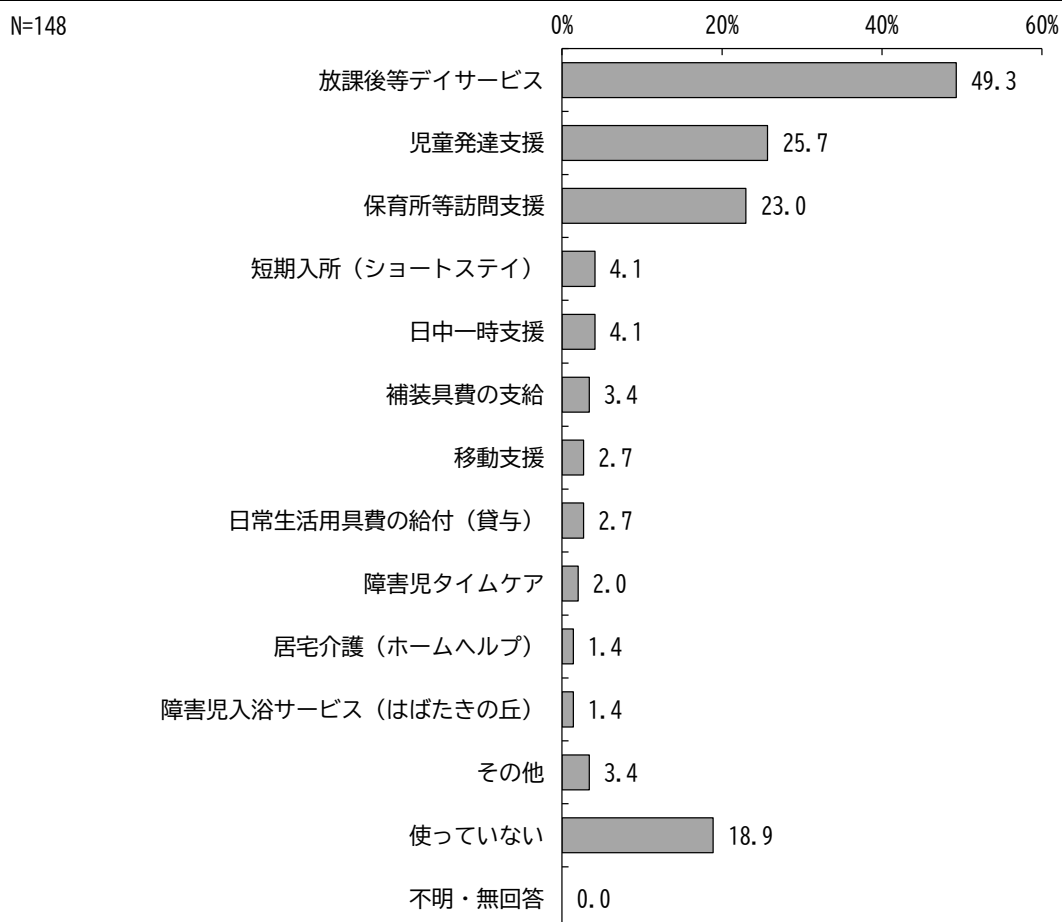


福祉サービスや支援について

問 23 あなたが現在利用している福祉サービスはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

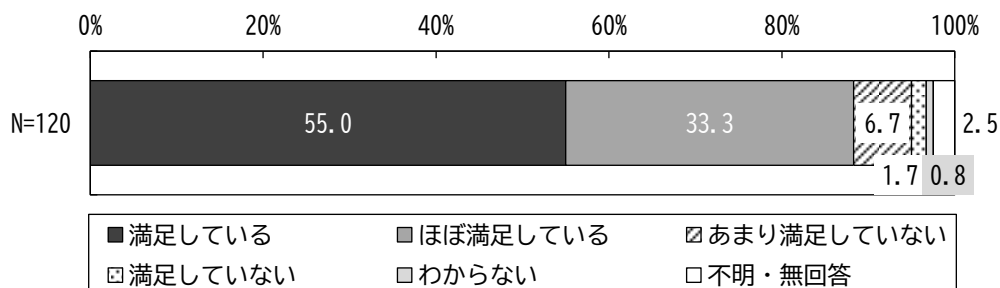
「放課後等デイサービス」が 49.3%と最も多く、次いで「児童発達支援」が 25.7%、「保育所等訪問支援」が 23.0%となっています。



問 23 で「使っていない」以外のいずれかを選んだ方

問 24 福祉サービスを利用してみてどう思いますか。(1つに○)

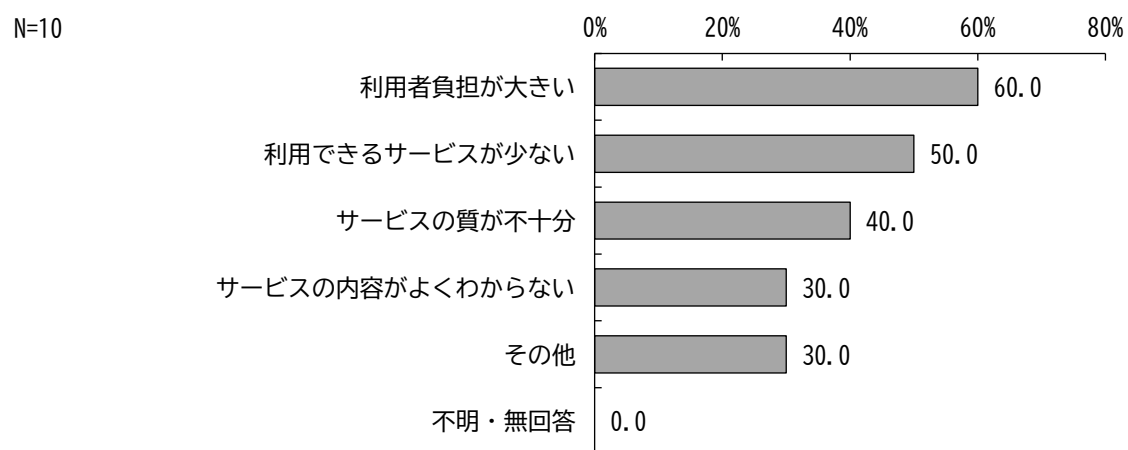
「満足している」が 55.0%と最も多く、次いで「ほぼ満足している」が 33.3%、「あまり満足していない」が 6.7%となっています。



問 24 で「あまり満足していない」「満足していない」のいずれかを選んだ方

問 25 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

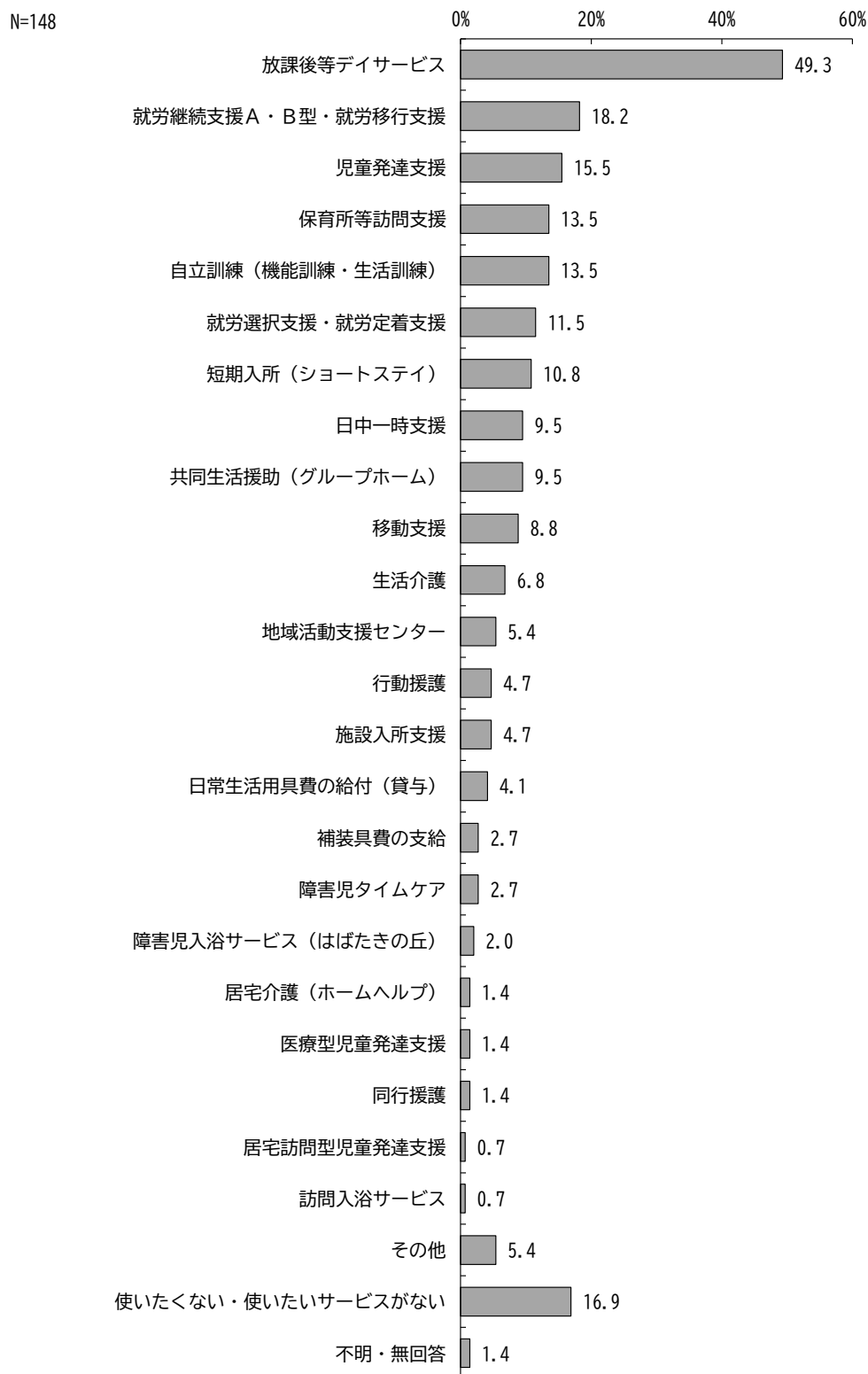
「利用者負担が大きい」が 60.0%と最も多く、次いで「利用できるサービスが少ない」が 50.0%、「サービスの質が不十分」が 40.0%となっています。



問 26 今後利用したいと考えている福祉サービスはどれですか。

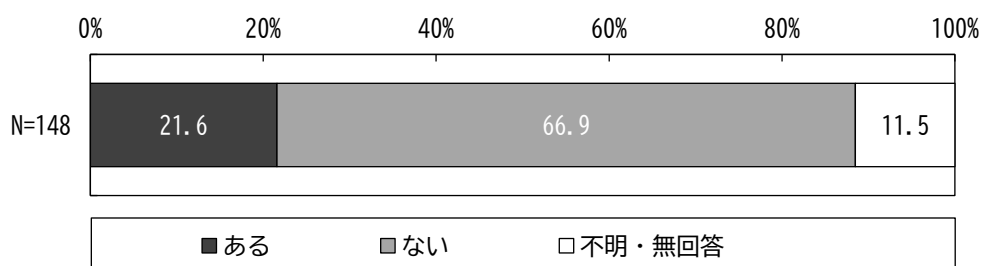
(あてはまるものすべてに○)

「放課後等デイサービス」が49.3%と最も多く、次いで「就労継続支援A・B型・就労移行支援」が18.2%、「使いたくない・使いたいサービスがない」が16.9%となっています。



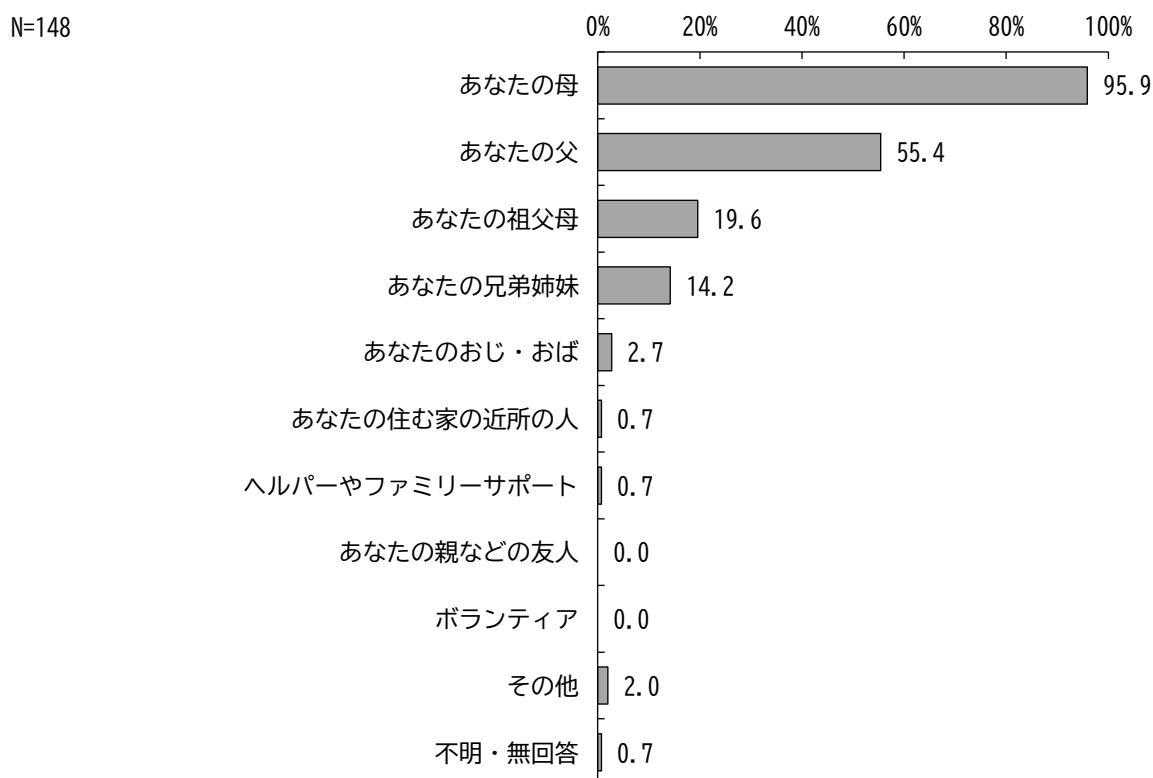
問 27 福祉サービスを今後利用するにあたり、困っていることはありますか。
(1つに○)

「ない」が66.9%、「ある」が21.6%となっています。



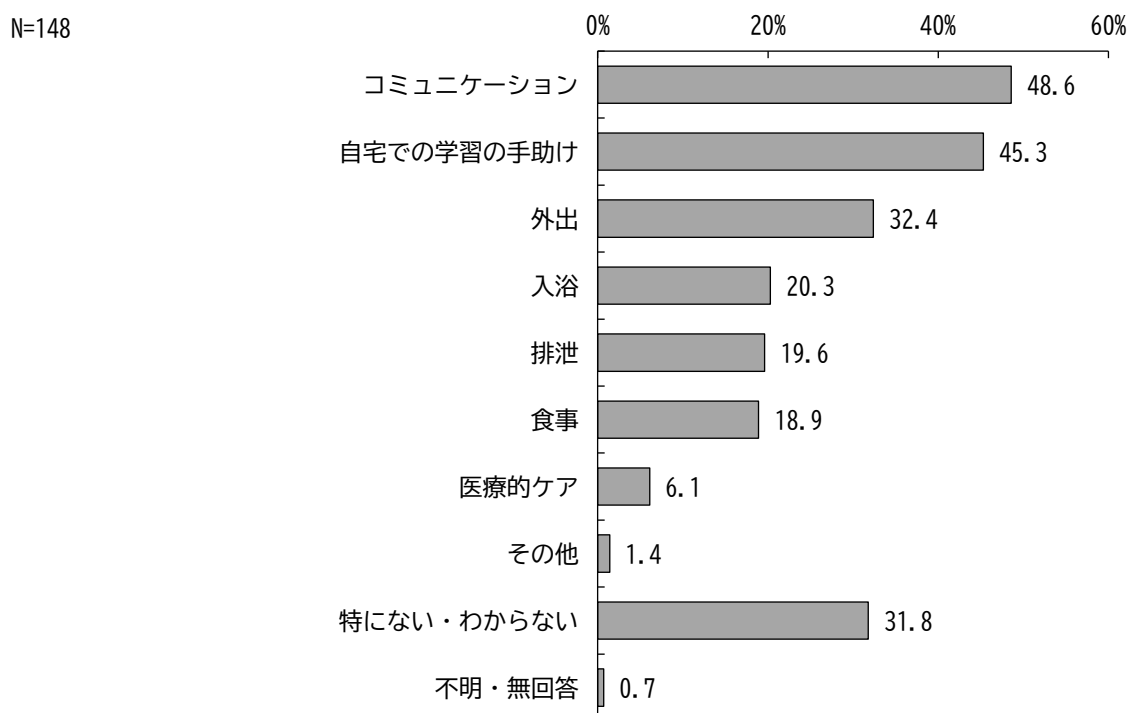
問 28 家庭であなたへの支援・介助を行うとき、主にどなたが行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「あなたの母」が95.9%と最も多く、次いで「あなたの父」が55.4%、「あなたの祖父母」が19.6%となっています。



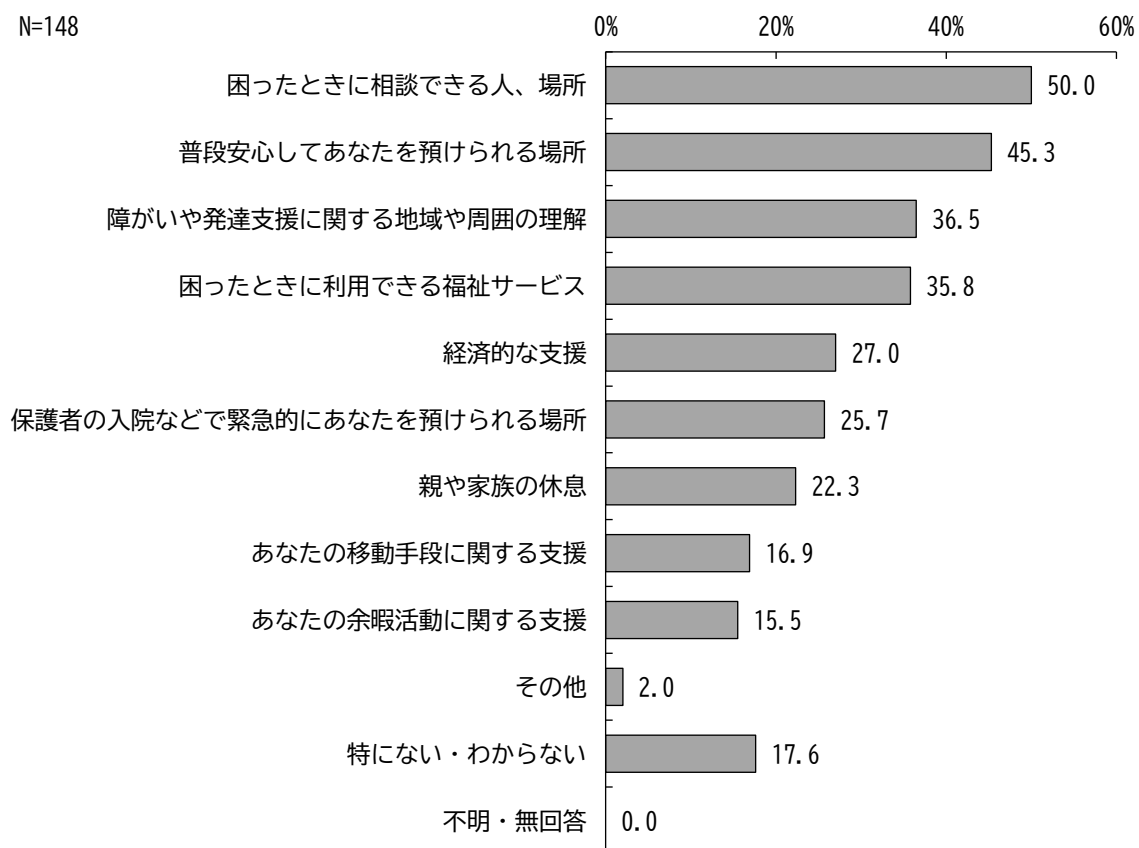
問 29 あなたが、障がいとして家庭で必要とする支援はどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

「コミュニケーション」が48.6%と最も多く、次いで「自宅での学習の手助け」が45.3%、「外出」が32.4%となっています。



問 30 あなたとご家族の現在の生活にとって必要だと思われる支援は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

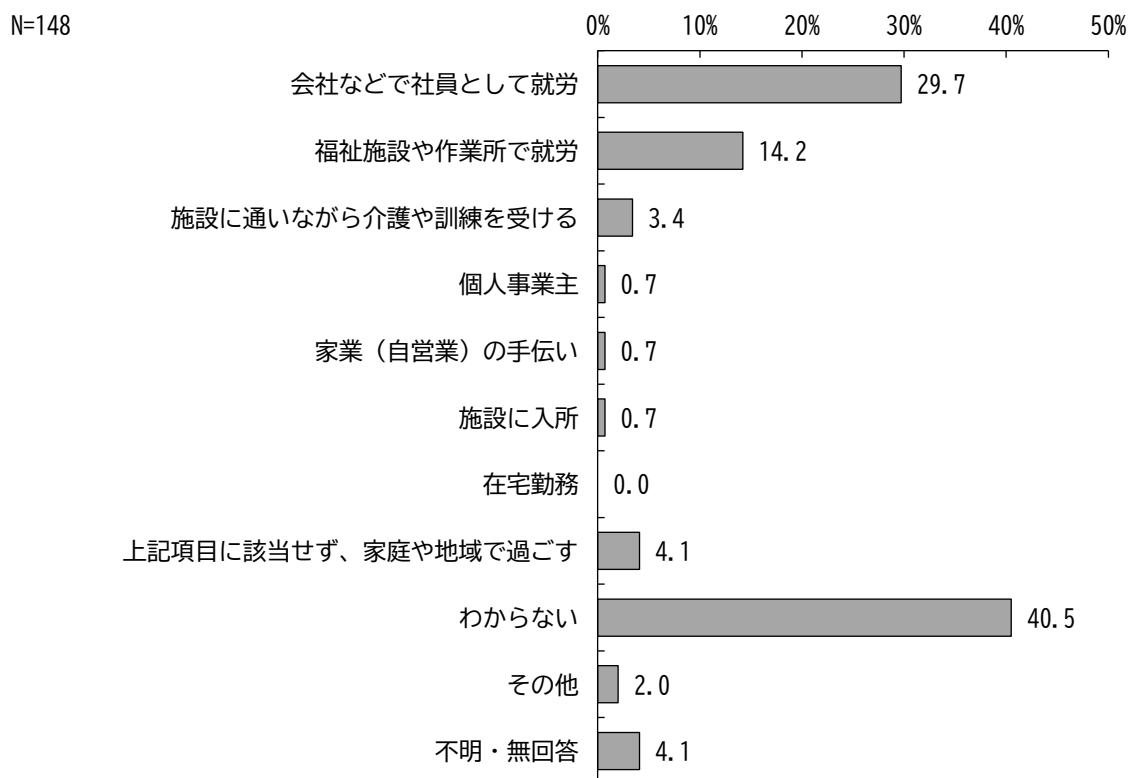
「困ったときに相談できる人、場所」が50.0%と最も多く、次いで「普段安心してあなたを預けられる場所」が45.3%、「障がいや発達支援に関する地域や周囲の理解」が36.5%となっています。



就労・地域生活について

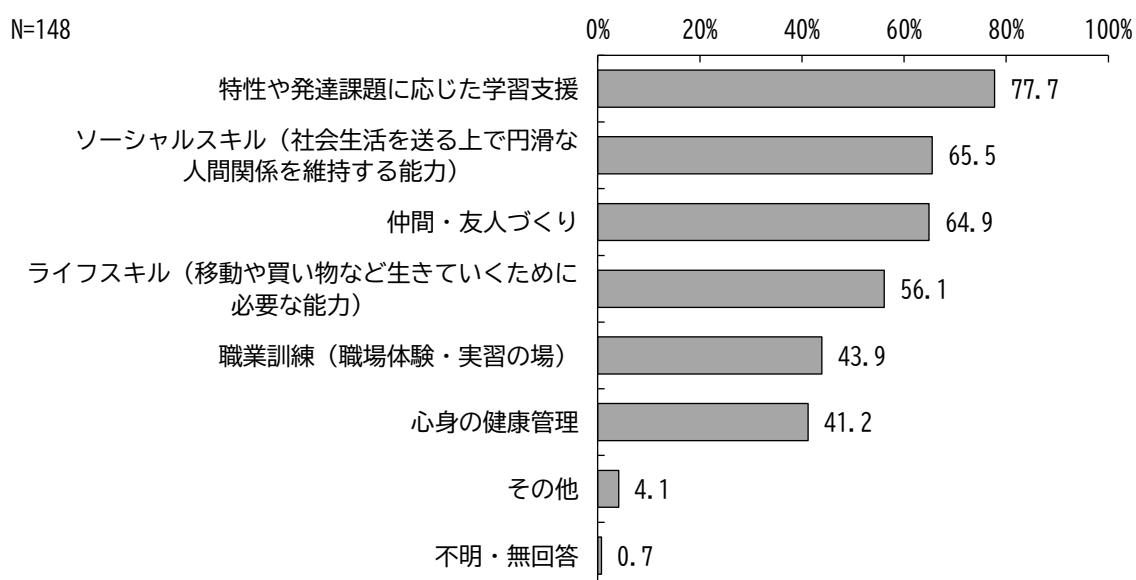
問 31 あなたが学校を卒業された後の過ごし方についておうかがいします。すでに卒業されている場合は、現在どのように過ごされていますか。まだ卒業されていない場合は、どのように過ごしたいか教えてください。（1つに○）

「わからない」が40.5%と最も多く、次いで「会社などで社員として就労」が29.7%、「福祉施設や作業所で就労」が14.2%となっています。



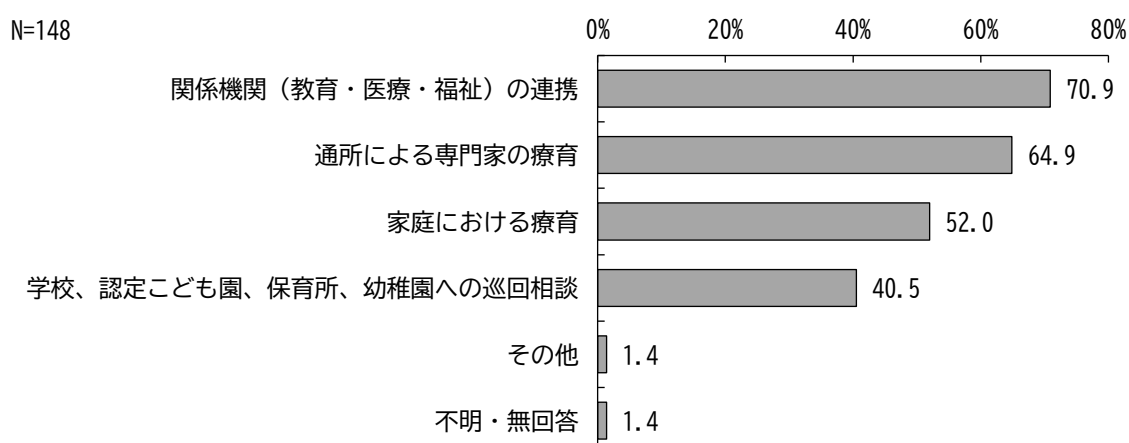
問 32 学齢期の支援についておうかがいします。円滑な日常生活または社会生活を送るために、特に必要だと思う支援を教えてください。また、卒業された方は、必要だったと思う支援を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「特性や発達課題に応じた学習支援」が77.7%と最も多く、次いで「ソーシャルスキル（社会生活を送る上で円滑な人間関係を維持する能力）」が65.5%、「仲間・友人づくり」が64.9%となっています。



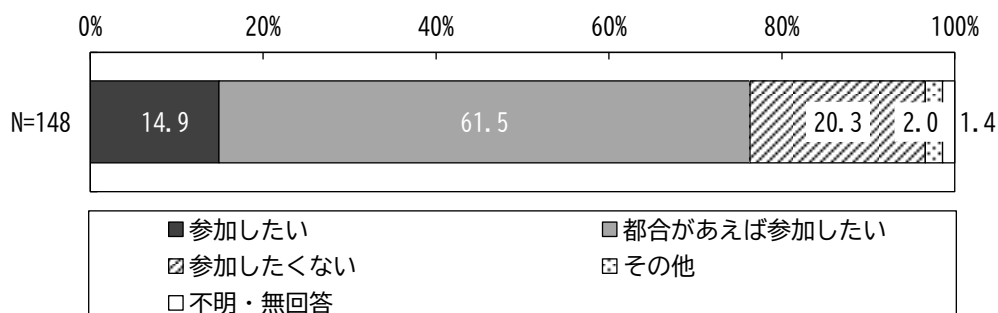
問 33 あなたの発達支援にとって必要なことは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「関係機関（教育・医療・福祉）の連携」が70.9%と最も多く、次いで「通所による専門家の療育」が64.9%、「家庭における療育」が52.0%となっています。



問 34 発達支援に関する講演会や勉強会などがあれば、あなたや保護者の方は参加
したいですか。(1つに○)

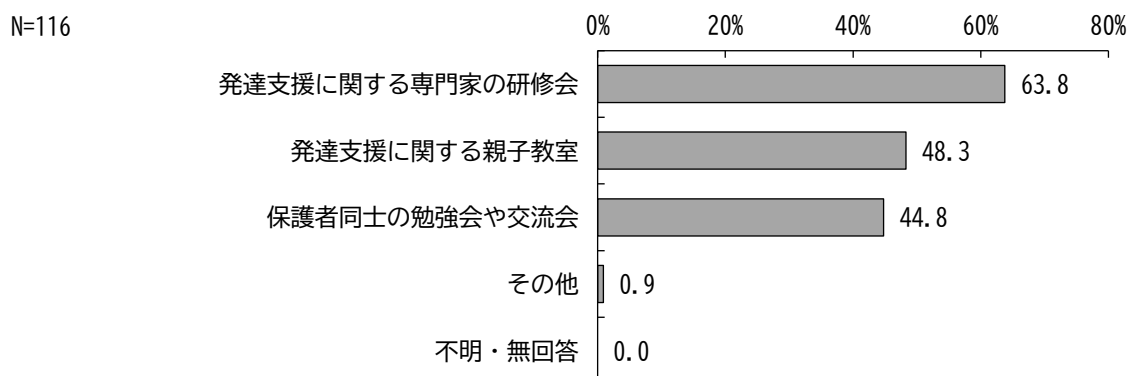
「都合があれば参加したい」が61.5%と最も多く、次いで「参加したくない」が20.3%、
「参加したい」が14.9%となっています。



問 34 で「参加したい」「都合があれば参加したい」「その他」のいずれかを選んだ方

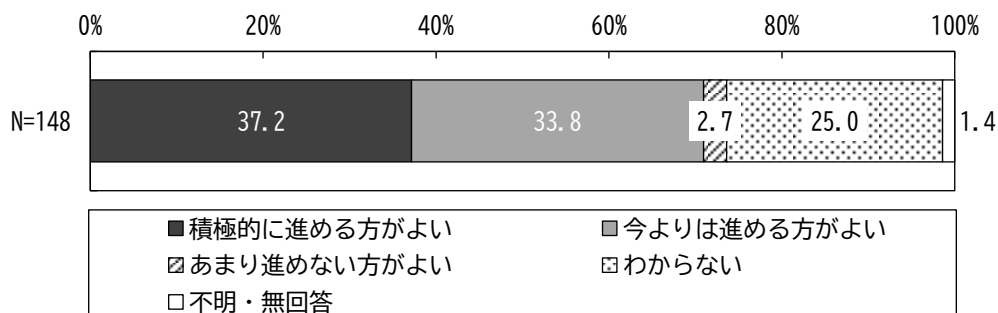
問 35 どのような講演会や勉強会に参加したいですか。(あてはまるものすべてに○)

「発達支援に関する専門家の研修会」が63.8%と最も多く、次いで「発達支援に関する親子教室」が48.3%、「保護者同士の勉強会や交流会」が44.8%となっています。



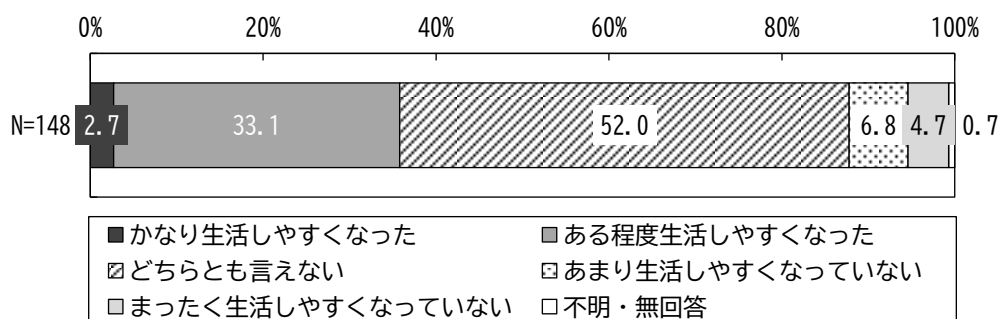
問 36 国では、障がいのある方が入所施設や病院の中で生活するのではなく、自宅やグループホームなどの地域の住まいで暮らすことを進めています。あなたは、お住まいの地域において、こうした取り組みを推進したり、支援したりすることについてどう思いますか。（1つに○）

「積極的に進める方がよい」が37.2%と最も多く、次いで「今よりは進める方がよい」が33.8%、「わからない」が25.0%となっています。



問 37 あなたは最近5年くらいの社会の変化として、あなたと同じような障がいのある人が、地域で生活しやすくなったと思いますか。（1つに○）

「どちらとも言えない」が52.0%と最も多く、次いで「ある程度生活しやすくなった」が33.1%、「あまり生活しやすくなっていない」が6.8%となっています。

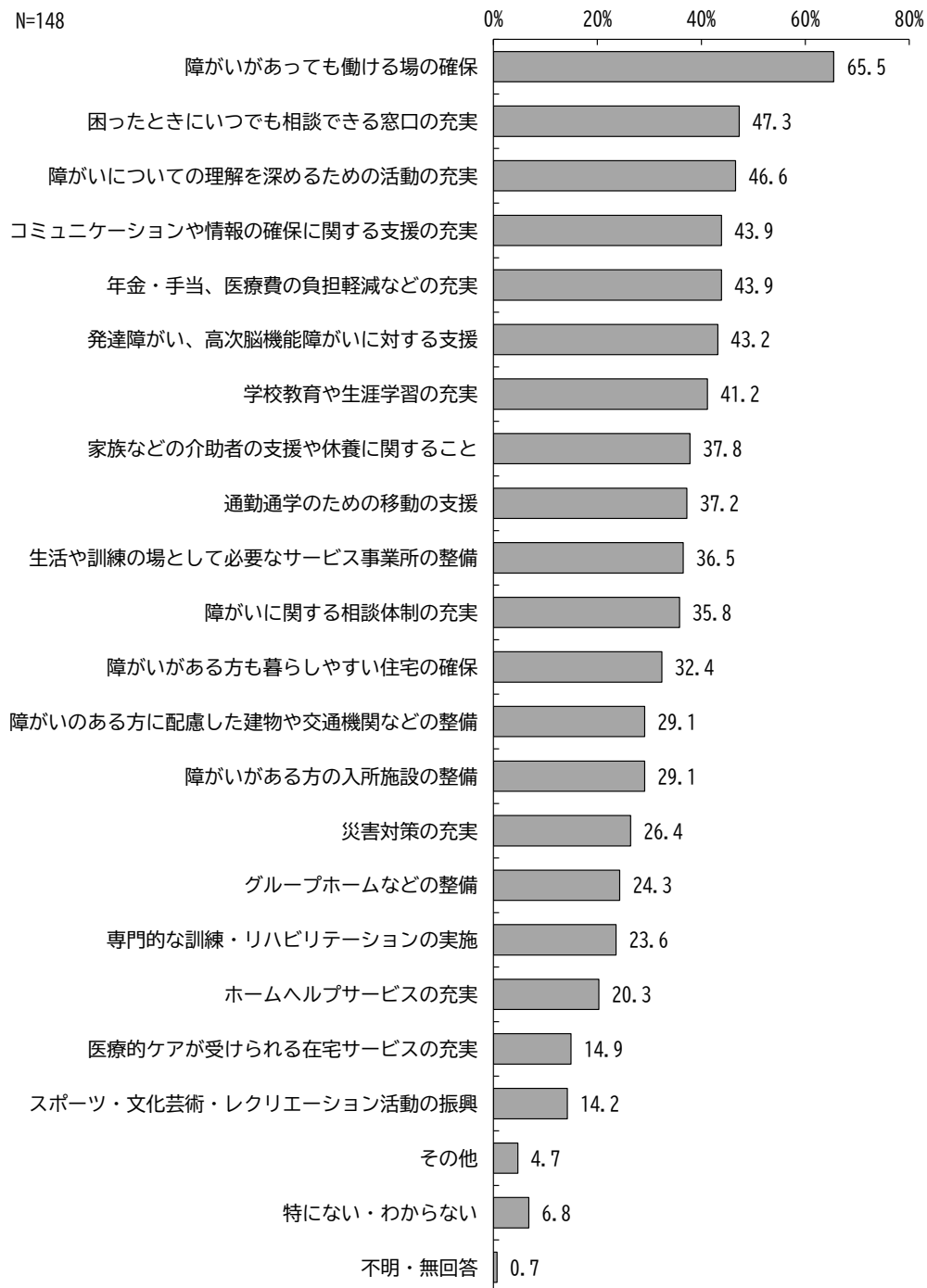


行政に対する意見について

問 38 あなたは障がいのある方に対する支援を充実していくために、行政などがどのような取り組みをしていくことが重要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

「障がいがあっても働ける場の確保」が65.5%と最も多く、次いで「困ったときにいつでも相談できる窓口の充実」が47.3%、「障がいについての理解を深めるための活動の充実」が46.6%となっています。

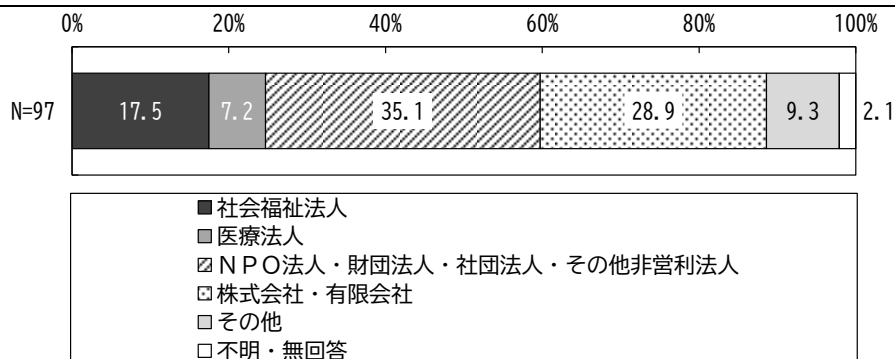


V 事業所アンケート調査の結果

貴事業所について

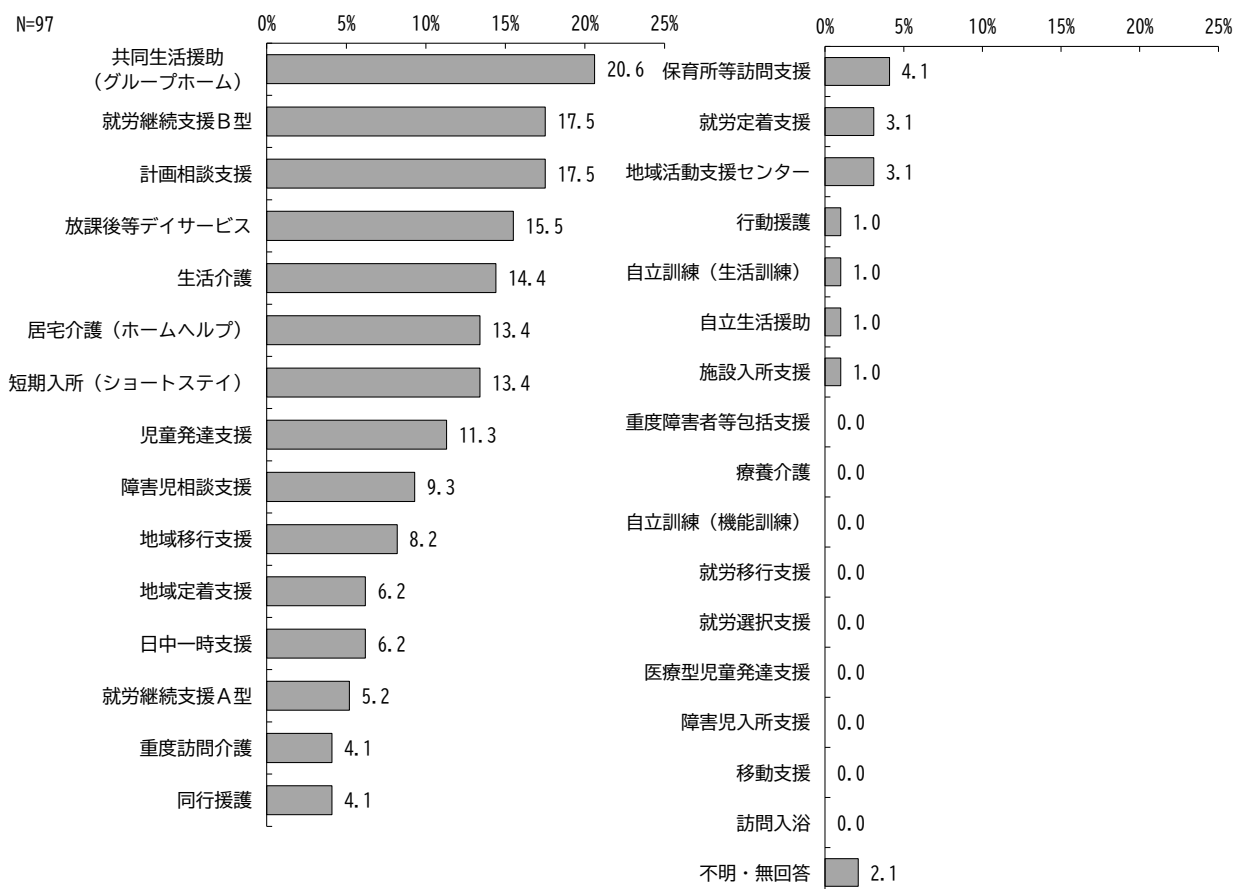
問1 貴事業所の運営形態はどれにあてはまりますか。(1つに○)

「NPO法人・財団法人・社団法人・その他非営利法人」が35.1%と最も多く、次いで「株式会社・有限会社」が28.9%、「社会福祉法人」が17.5%となっています。



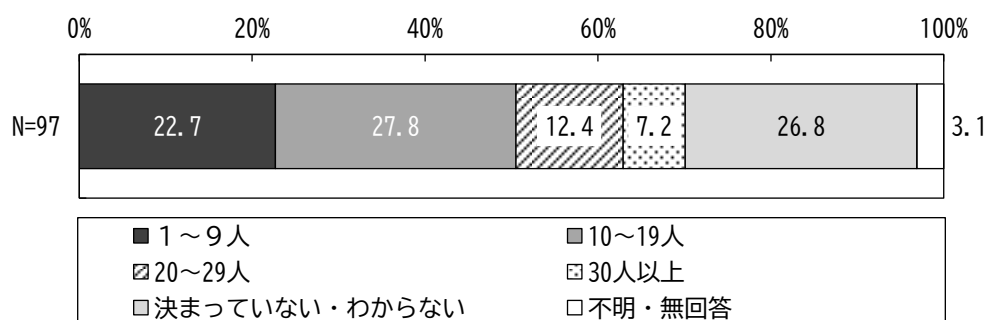
問2 主な実施事業（障害福祉サービス）は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「共同生活援助（グループホーム）」が20.6%と最も多く、次いで「就労継続支援B型」と「計画相談支援」がともに17.5%となっています。



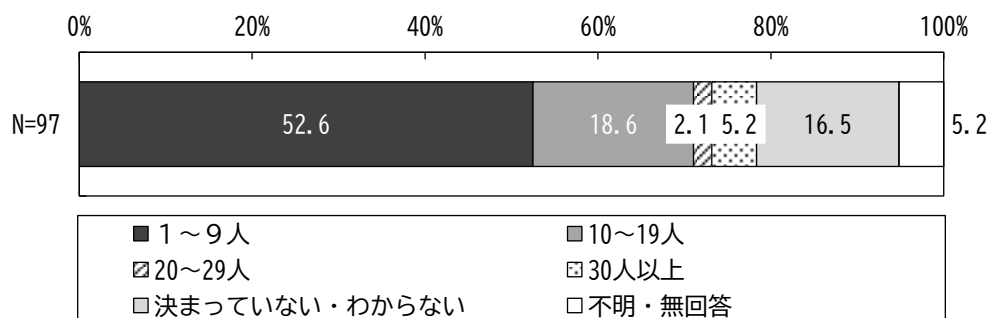
問3 現在の利用定員は何人ですか。(1つに○)

「10～19人」が27.8%と最も多く、次いで「決まっていない・わからない」が26.8%、「1～9人」が22.7%となっています。



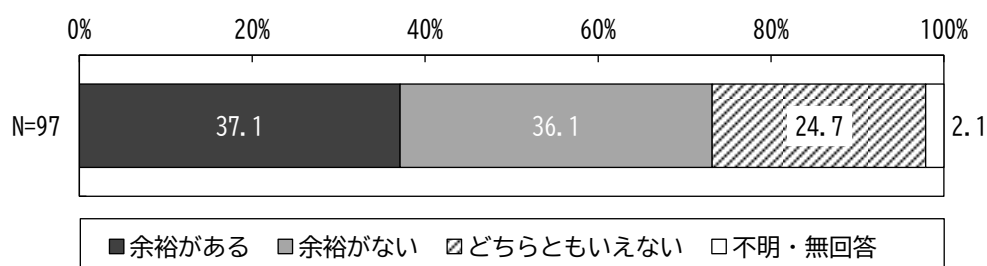
問4 現在の1日あたりの利用人数は何人ですか。(1つに○)

「1～9人」が52.6%と最も多く、次いで「10～19人」が18.6%、「決まっていない・わからない」が16.5%となっています。



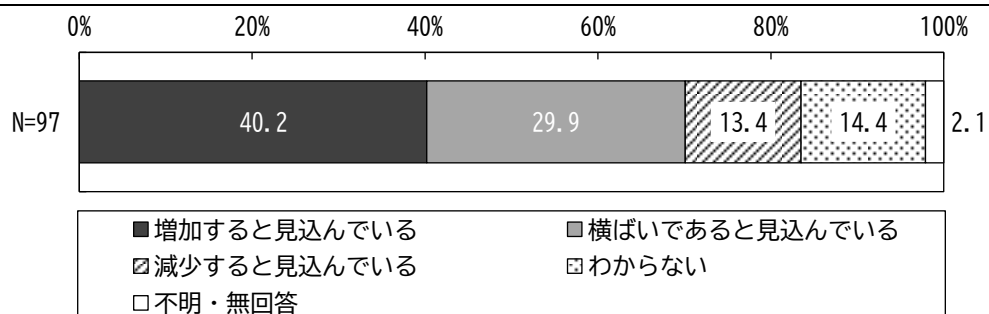
問5 現在の受け入れ人数には、余裕がありますか。(1つに○)

「余裕がある」が37.1%と最も多く、次いで「余裕がない」が36.1%、「どちらともいえない」が24.7%となっています。



問6 貴事業所では、今後サービス利用を希望する人数がどのように変化すると見込んでいますか。(1つに○)

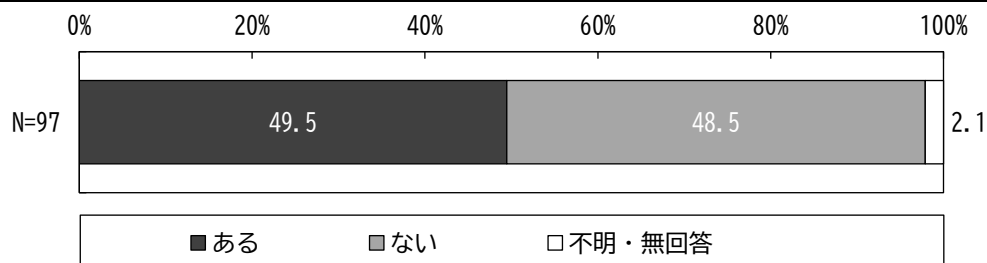
「増加すると見込んでいる」が40.2%と最も多く、次いで「横ばいである」と見込んでいる」が29.9%、「わからない」が14.4%となっています。



貴事業所のサービス提供の状況について

問7 貴事業所では、過去1年間に利用者からの依頼に対して、受け入れができなかったことはありますか。(1つに○)

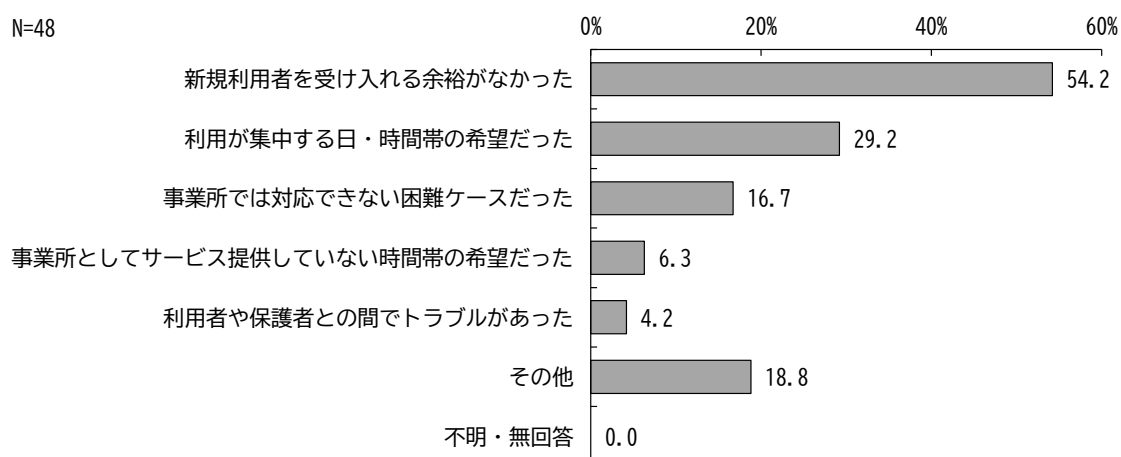
「ある」が49.5%、「ない」が48.5%となっています。



問7で「ある」を選んだ方

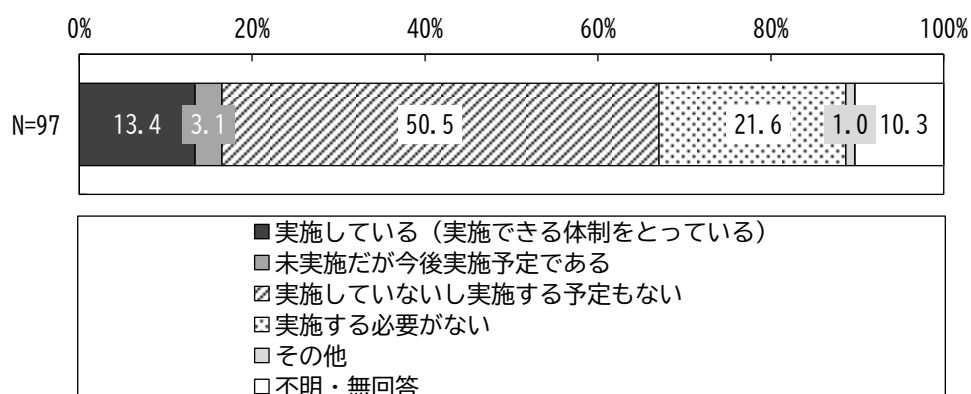
問8 利用者の受け入れができなかった理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「新規利用者を受け入れる余裕がなかった」が54.2%と最も多く、次いで「利用が集中する日・時間帯の希望だった」が29.2%、「その他」が18.8%となっています。



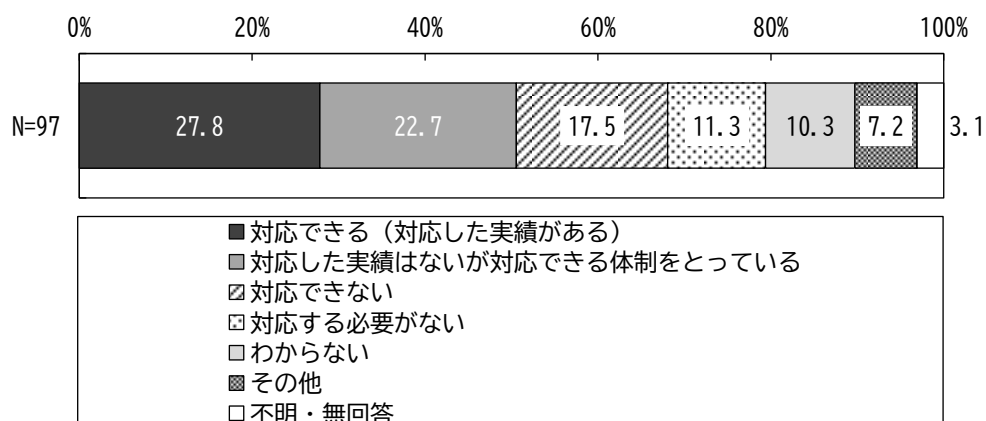
問9 医療的ケア（人工呼吸器、経管栄養、喀痰吸引など）を実施していますか。
（1つに○）

「実施していないし実施する予定もない」が50.5%と最も多く、次いで「実施する必要がある」が21.6%、「実施している（実施できる体制をとっている）」が13.4%となっています。



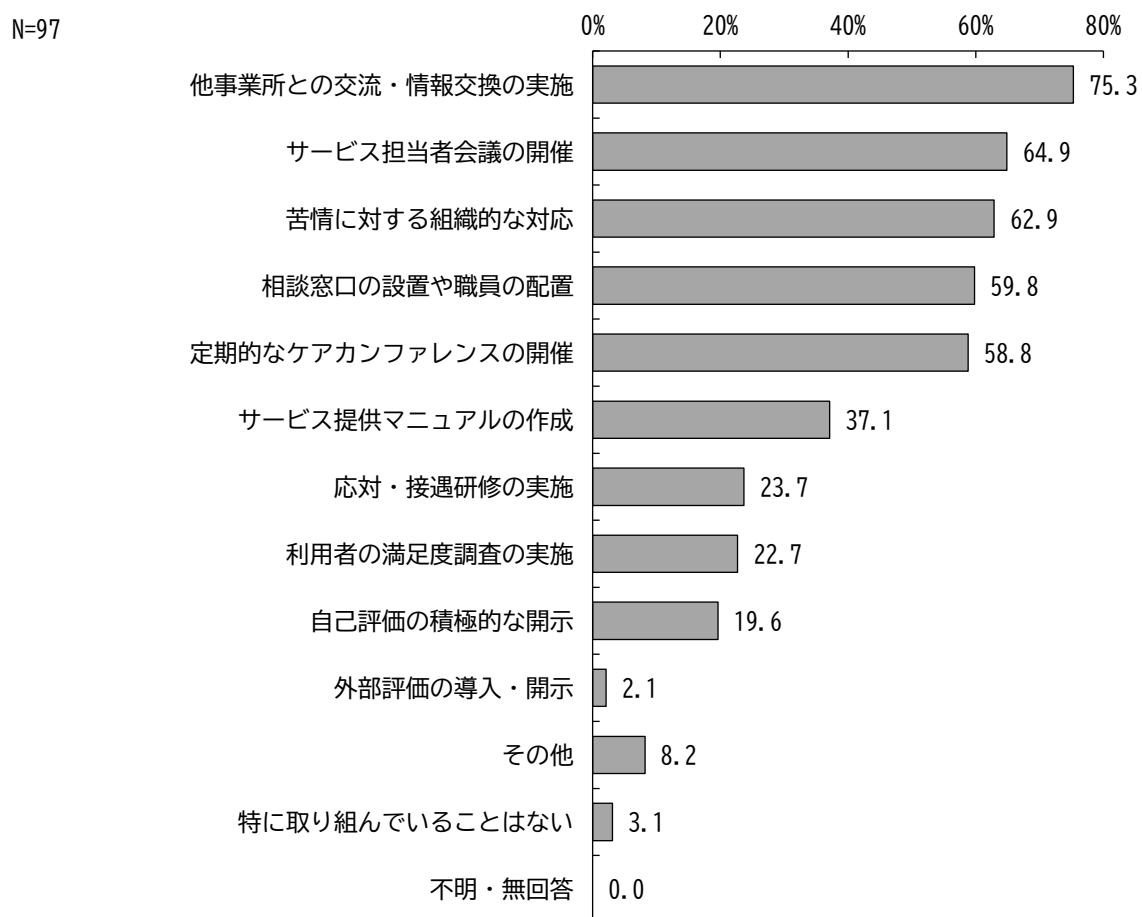
問10 強度行動障害（自傷、他害、パニックなど）に対応する体制がありますか。
（1つに○）

「対応できる（対応した実績がある）」が27.8%と最も多く、次いで「対応した実績はないが対応できる体制をとっている」が22.7%、「対応できない」が17.5%となっています。



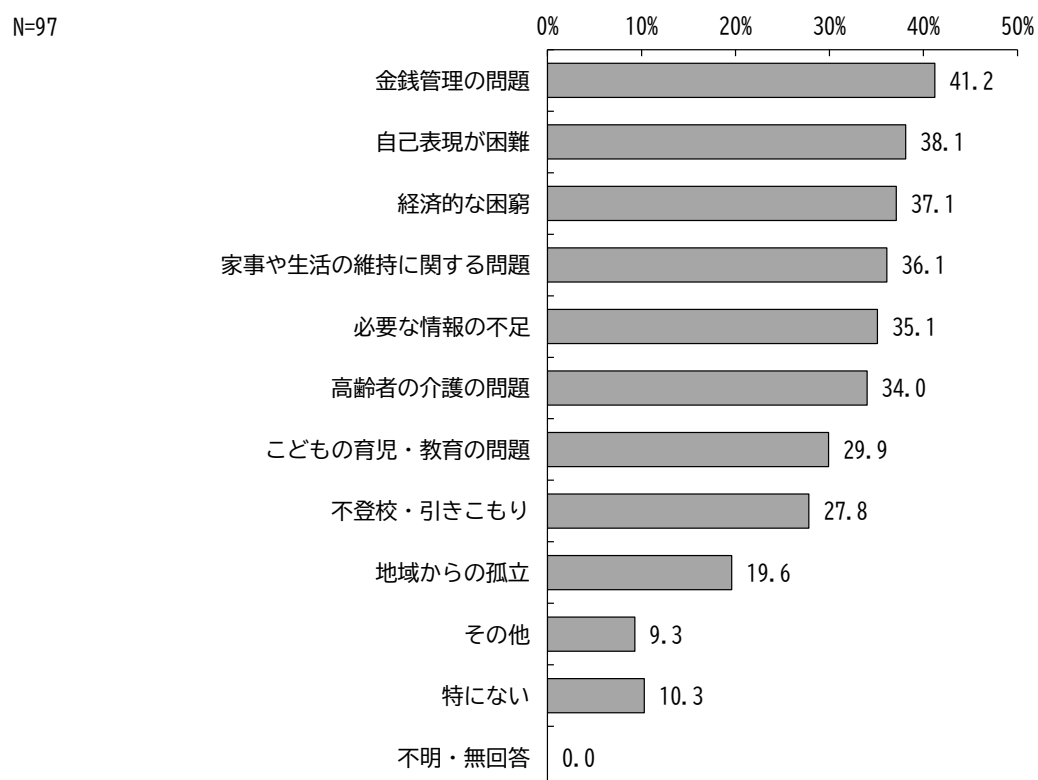
問 11 サービスの質の向上のために、どのようなことに取り組んでいますか。
(あてはまるものすべてに○)

「他事業所との交流・情報交換の実施」が75.3%と最も多く、次いで「サービス担当者会議の開催」が64.9%、「苦情に対する組織的な対応」が62.9%となっています。



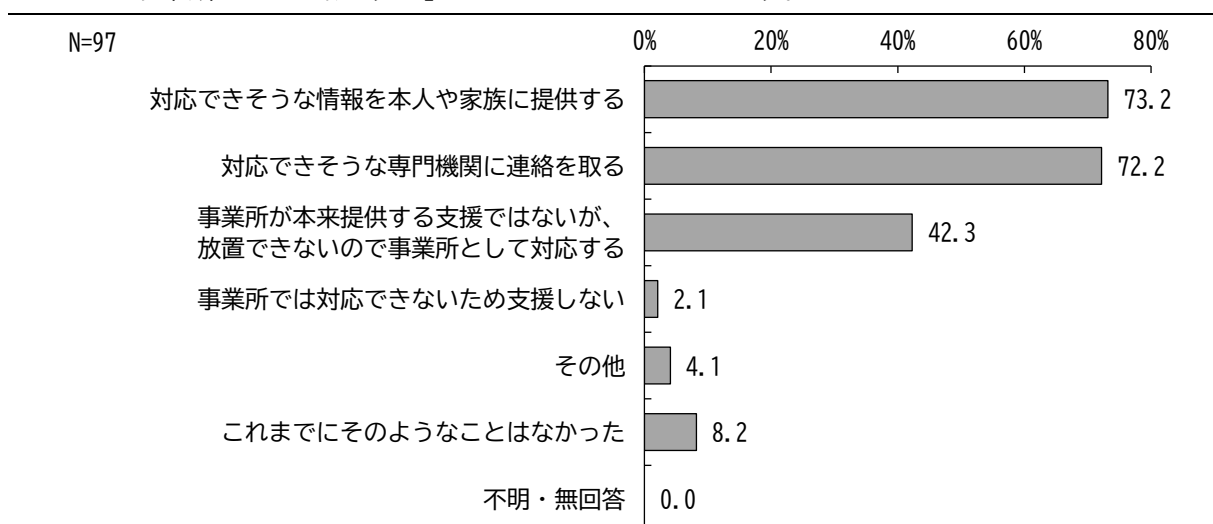
問 12 サービス利用者やその家族が、障害福祉に関すること以外で、次のような複合的な課題を抱えていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「金銭管理の問題」が 41.2%と最も多く、次いで「自己表現が困難」が 38.1%、「経済的な困窮」が 37.1%となっています。



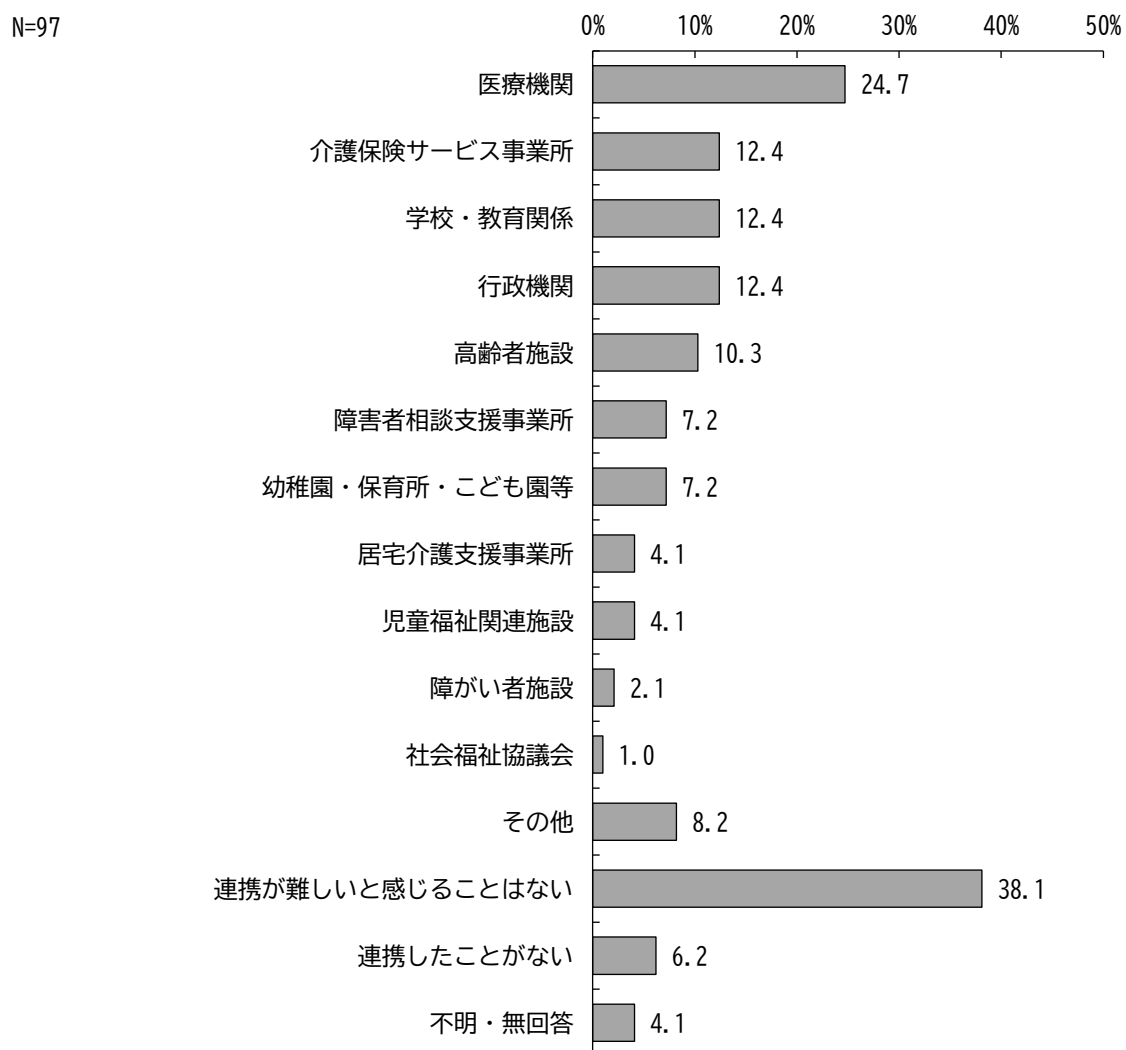
問 13 サービス利用者やその家族が、貴事業所の専門領域以外の課題を抱えていることに気づいた場合、主にどのような対応をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「対応できそうな情報を本人や家族に提供する」が73.2%と最も多く、次いで「対応できそうな専門機関に連絡を取る」が72.2%、「事業所が本来提供する支援ではないが、放置できないので事業所として対応する」が42.3%となっています。



問 14 複合的な課題を抱えた方への支援について、どの機関との連携が難しいと感じますか。(あてはまるものすべてに○)

「連携が難しいと感じることはない」が38.1%と最も多く、次いで「医療機関」が24.7%、「介護保険サービス事業所」と「学校・教育関係」、「行政機関」がそれぞれ12.4%となっています。

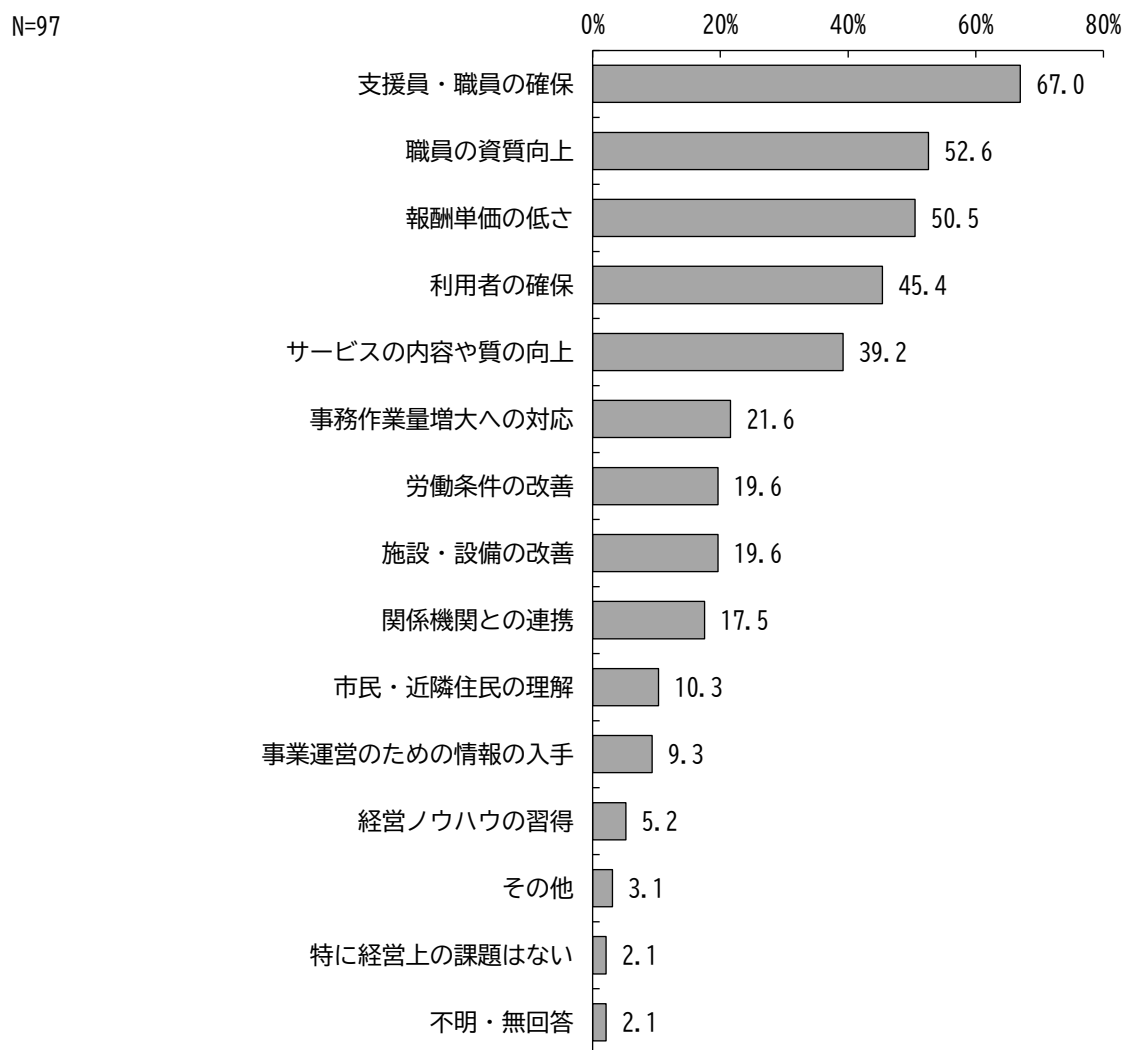


貴事業所の経営について

問 15 円滑な事業運営のために、改善したい経営上の課題は何ですか。

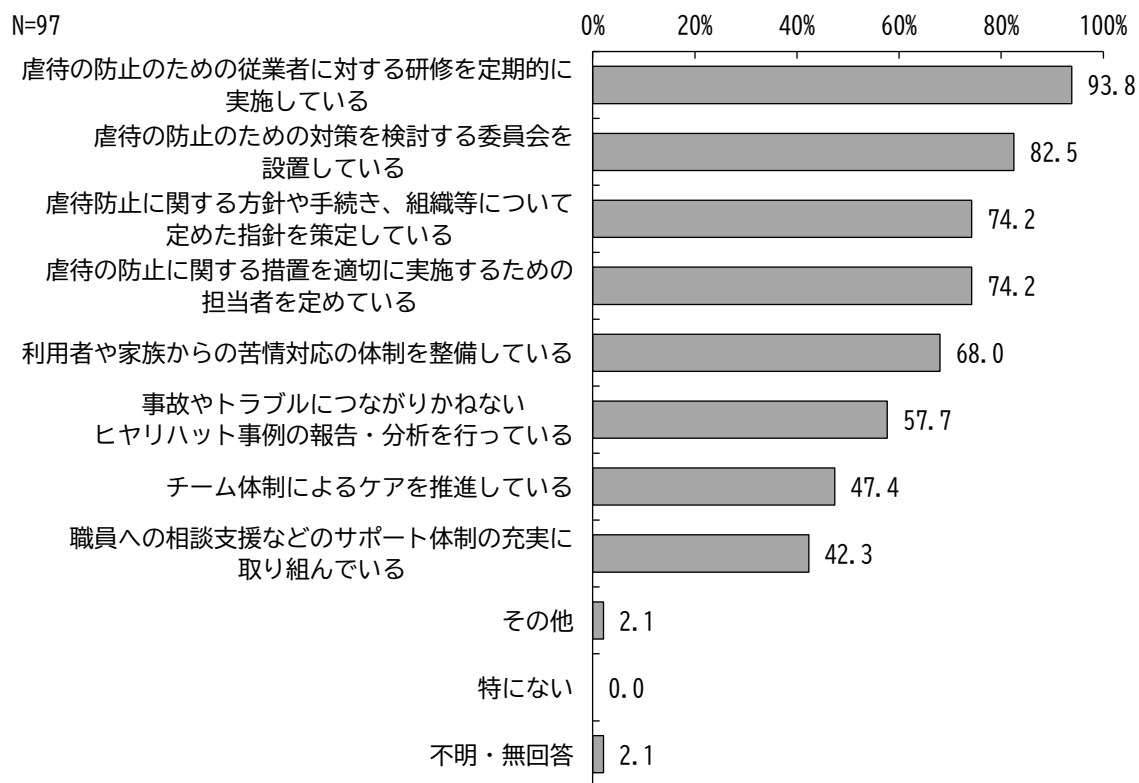
(あてはまるものすべてに○)

「支援員・職員の確保」が67.0%と最も多く、次いで「職員の資質向上」が52.6%、「報酬単価の低さ」が50.5%となっています。



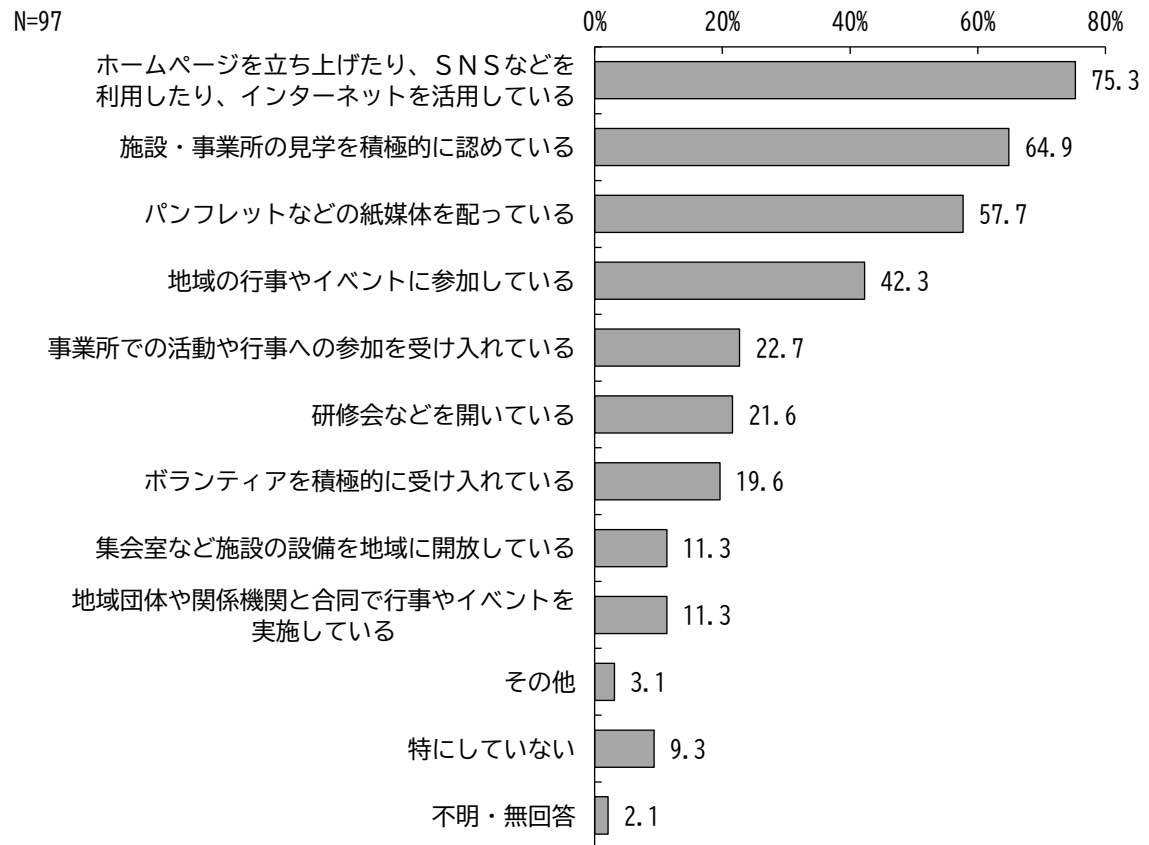
問 16 職員による利用者への虐待・ハラスメントの防止など、利用者の権利擁護について、取り組んでいることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「虐待の防止のための従業者に対する研修を定期的実施している」が93.8%と最も多く、次いで「虐待の防止のための対策を検討する委員会を設置している」が82.5%、「虐待防止に関する方針や手続き、組織等について定めた指針を策定している」「虐待の防止に関する措置を適切に実施するための担当者を定めている」が74.2%となっています。



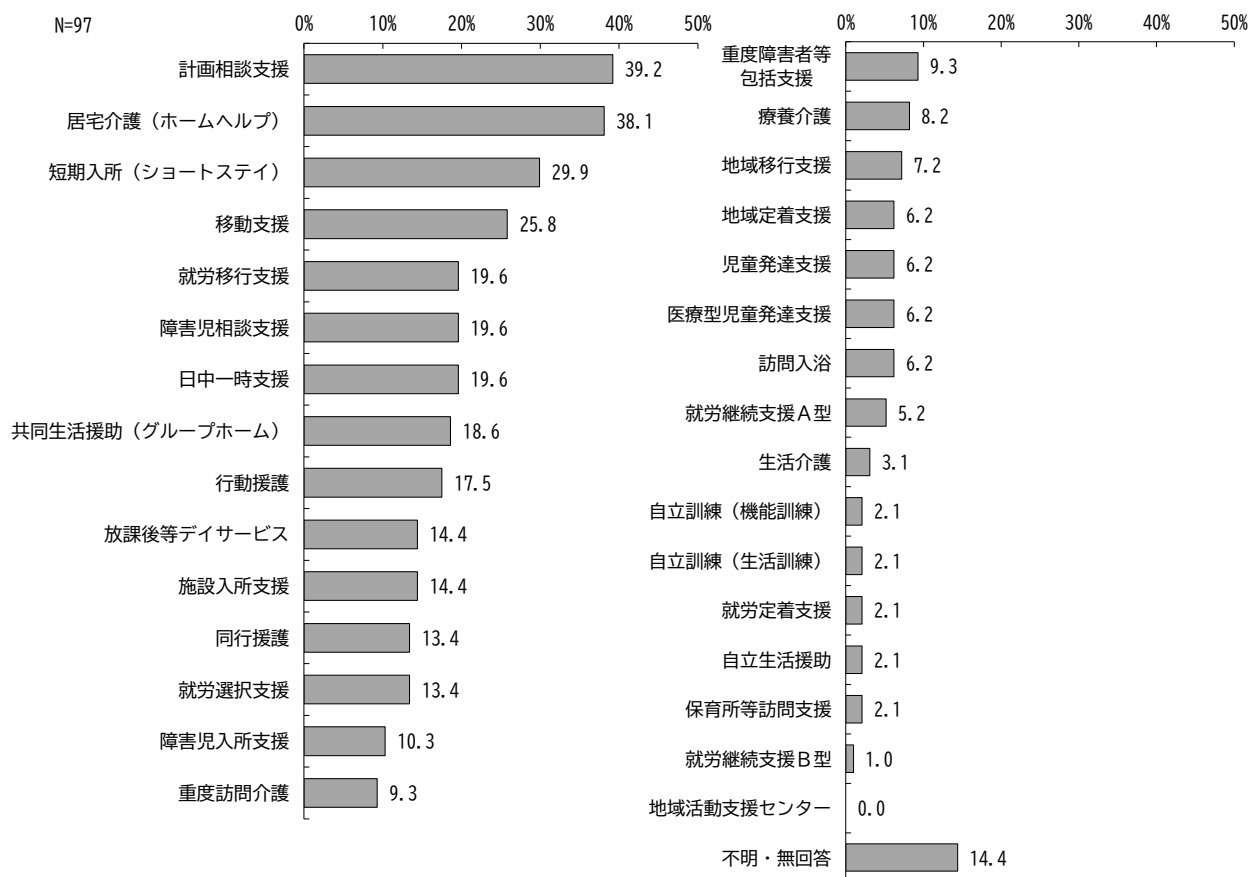
問 17 貴事業所ではどのように情報発信をして地域とつながりをもっていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「ホームページを立ち上げたり、SNSなどを利用したり、インターネットを活用している」が75.3%と最も多く、次いで「施設・事業所の見学を積極的に認めている」が64.9%、「パンフレットなどの紙媒体を配っている」が57.7%となっています。



問 18 三木市内で、特に提供が不足していると感じるサービスは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

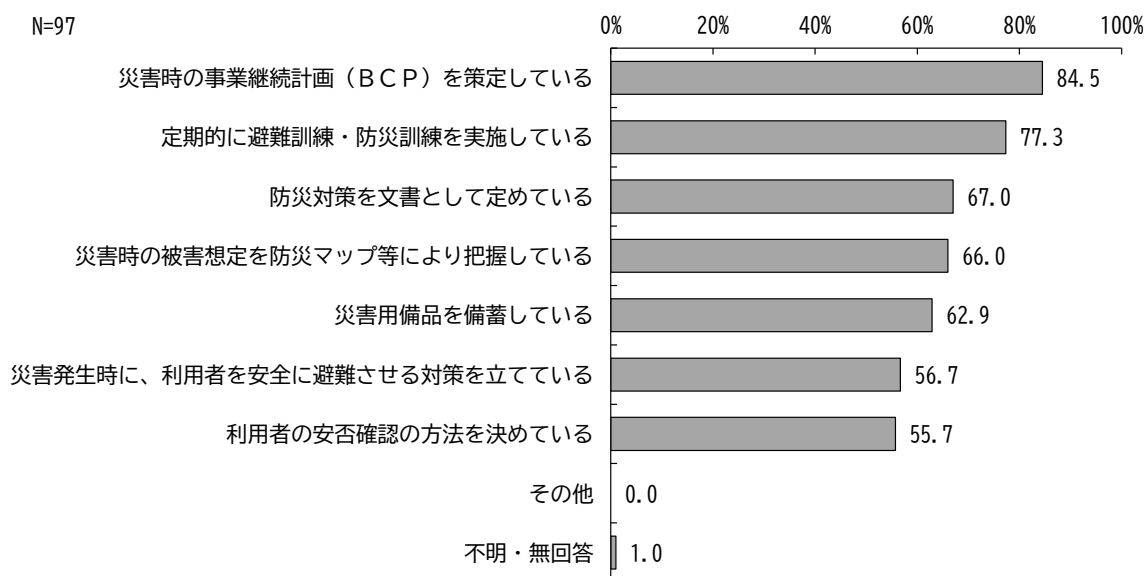
「計画相談支援」が 39.2%と最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」が 38.1%、「短期入所（ショートステイ）」が 29.9%となっています。



災害時の対応について

問 19 貴事業所では、防災対策を実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

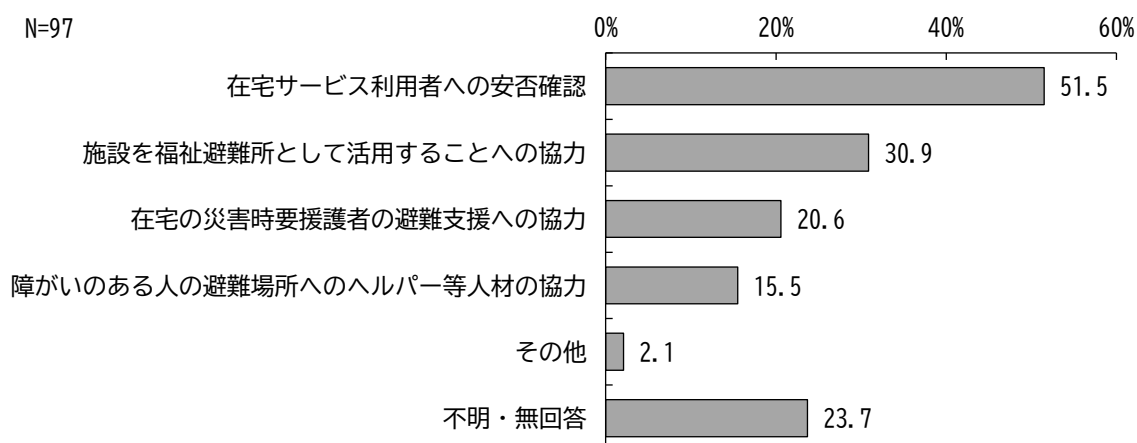
「災害時の事業継続計画（BCP）を策定している」が84.5%と最も多く、次いで「定期的に避難訓練・防災訓練を実施している」が77.3%、「防災対策を文書として定めている」が67.0%となっています。



問 20 災害時に障がいのある人への支援で協力できることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

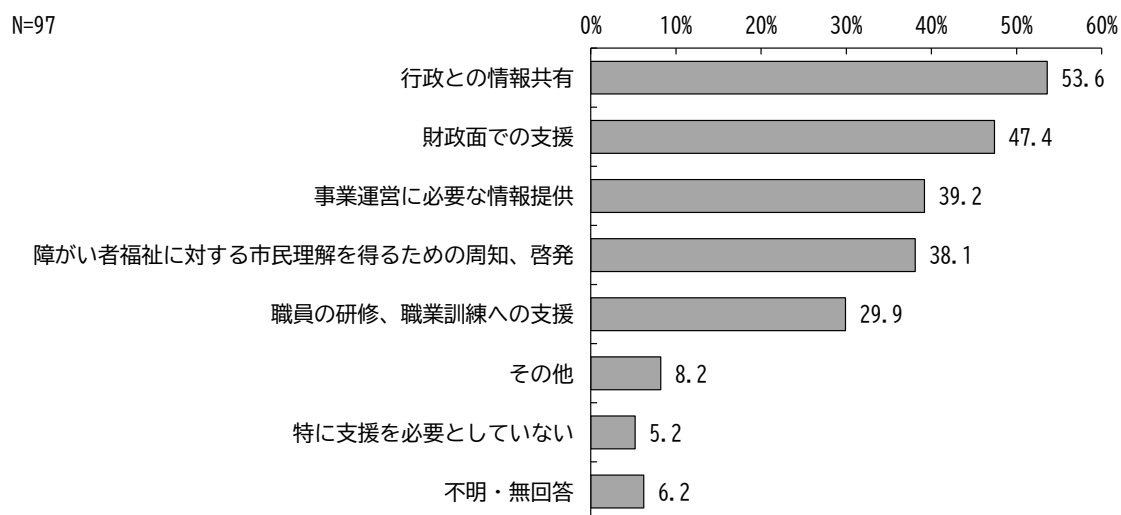
「在宅サービス利用者への安否確認」が51.5%と最も多く、次いで「施設を福祉避難所として活用することへの協力」が30.9%、「在宅の災害時要援護者の避難支援への協力」が20.6%となっています。



行政への要望について

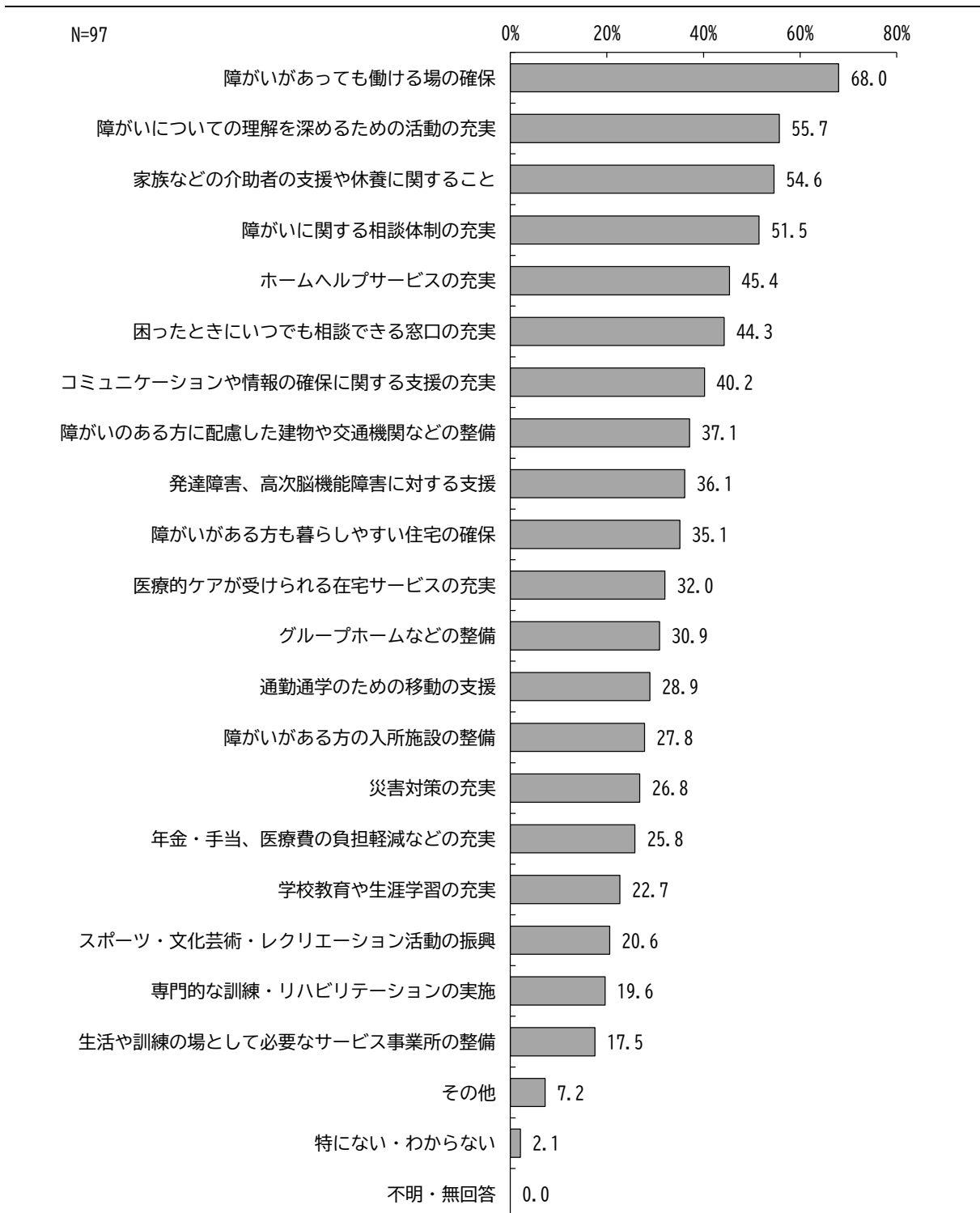
問 21 今後の事業運営にあたって、行政などの関係機関からの必要な支援がありますか。（あてはまるものすべてに○）

「行政との情報共有」が 53.6%と最も多く、次いで「財政面での支援」が 47.4%、「事業運営に必要な情報提供」が 39.2%となっています。



問 22 障がいのある方に対する支援を充実していくために、行政等がどのような取り組みをしていくことが重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

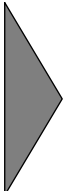
「障がいがあっても働ける場の確保」が68.0%と最も多く、次いで「障がいについての理解を深めるための活動の充実」が55.7%、「家族などの介助者の支援や休養に関すること」が54.6%となっています。



VI 調査結果からみた本市の課題について

1. 市民における障がい者への理解について

- ◆障がいのある方が入所施設や病院の中で生活するのではなく、自宅やグループホームなどの地域の住まいで暮らすことについての市民の考えは、「積極的に進める方がよい」が34.9%と最も多く、次いで「今よりは進める方がよい」が32.2%と、肯定的な回答が67.1%となっているものの、実際に障がいのある方と気軽に話したり、手助けをしたことがあると回答した方は38.6%にとどまっており、市民の障がい者への理解と行動に開きがあります。
- ◆障がいのある方に関わることに対し消極的な方や不安を抱いている方の意見は、「どのように接したらよいかわからない」や「援助の仕方がわからない」がそれぞれ最も多くなっています。
- ◆近年の障害福祉に関する重要な取り組みや制度についての設問では、バリアフリーや、ユニバーサルデザイン、三木市共に生きる手話言語条例については、「知らない」と回答した方が前回調査（令和2年）よりも減少したものの、共生社会や障害者差別解消法、要援護者、統合失調症、高次脳機能障害、発達障害については増加しています。
- ◆「合理的配慮」については、前回調査（令和2年）では「言葉も内容も知らない」と回答した方が56.3%となっていました、この度の調査では44.8%と大きく減少しています。
- ◆「障がい者」、「障がい児」、「事業者」それぞれのアンケート調査において、重要な取り組みと考える項目として「障がいについての理解を深めるための活動の充実」が上位となっています



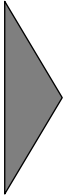
市民の障がい者への理解については、肯定的な市民が多数である一方で、障がい者との具体的な交流については浸透していない状況です。また障害福祉の基本的な考え方については、一定の理解が進んでいる項目もあれば、そうでない項目もあります。さらには、障がい者や障がい児及び事業者アンケートの結果からも「障がいについての理解の充実」が上位のニーズとなっているため、引き続き、市民の障がい者への理解促進を図るために、啓発や交流機会の拡大が重要な課題であると考えられます。

2. 障がい者等の意識について

- ◆困ったときに相談する相手は誰ですかという設問では、「家族や親せき」と答えている方が80.2%と最も多く、中でも身体は85.6%、次いで、精神76.5%、療育は64.2%となっており、いずれも最も多くなっています。
- ◆将来、どのように暮らしたいと思うかの設問では、「自宅で家族と一緒に暮らしたい」と答えている方が53.0%と最も多く、中でも身体は55.4%、次いで、精神49.1%、療育は36.5%となっており、いずれも最も多くなっています。
- ◆日ごろの生活で悩んでいることの設問では、「家族が高齢になって将来に不安を感じている」と答えている方が35.4%と最も多く、中でも精神は50.9%、次いで、療育43.1%、身体は32.5%

となっており、いずれも最も多くなっています。

- ◆「障がい者」、「障がい児」それぞれのアンケート調査において、重要な取り組みと考える項目として「障がいがあっても働ける場の確保」や「困ったときに相談できる窓口の充実」が上位となっています。
- ◆近年の障害福祉に関する重要な取り組みや制度についての設問では、前回調査（令和5年）に比べて成年後見制度や合理的配慮については、「知らない」方が減り、「内容も含め知っている」方や「言葉は知っている方」が増加しています。また、災害時要援護者制度、障害者差別解消法については、「内容も含め知っている」方や「言葉は知っている」方が減少しています。当事者の生活に密接にかかわる制度や取組について、当事者自身も十分に知識を持っていない状況が示されています。



普段の相談相手が家族であり、将来も「自宅で家族と一緒に暮らしたい」というニーズが高いことが示されています。しかしながら、「家族が高齢になって将来不安を感じている」方が多数いることがアンケート調査から示されています。障がい者や障がい児のニーズにもあるように、「障がいがあっても働ける場の確保」や「困ったときに相談できる窓口の充実」など、将来を見据え、「親なき後」について地域全体で包括的に障がい者を支援する体制を整えることが重要な課題であると考えられます。

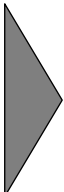
また、障害福祉に関する重要な制度や取組について、一定の理解が進んでいる項目もあるものの、十分な理解が進んでいない項目もあるため、利用可能な制度や、地域共生社会の実現に向けた基本的な理念等について、幅広く理解促進を進めていく必要があると考えられます。

3. 障がい福祉サービスの利用について

- ◆計画相談支援の利用について、特に知的障がいのある人では利用者の半数近くが三木市外の事業所を利用していると回答するなど、市外の事業者の利用が増加傾向となっています。三木市内で計画相談支援を受けにくい状況は以前より指摘されており、アンケート調査においても同様の傾向が示された形となっています。
- ◆障がい児相談支援についても同様に、市内の事業所利用が43.9%、市外の事業所利用が26.4%となっており、市外の事業所を利用する人が一定数いることが示されています。
- ◆事業者アンケートにおいて、本市で特に提供が不足しているサービスとして「計画相談支援」が39.2%と最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」が38.1%となっています。なお、「居宅介護（ホームヘルプ）」については、障がい者が将来利用したい障がい福祉サービスにおいて19.4%と、最も多くなっています。
- ◆「障がい者」、「事業所」それぞれのアンケート調査において、重要な取り組みと考える項目と

して「家族などの介助者の支援や休養に関すること」が上位となっています。なお、障がい児アンケートにおいては前回調査（令和5年）が16.1%であったことにに対し、この度の調査では37.8%となっており大幅に増加しています。

- ◆「こども発達支援センターにじいろ」については、障がいのある児童の6割が「利用したことがある」と回答しており、「施設を知らない」は14.2%となっています。本市における障がい児支援の中核的な機関として、利用と認知が広がっていることが示されています。
- ◆医療的ケアへの対応については「実施している」と回答した事業所の割合が減少しましたが、これは回答する事業所数が増加したことの影響があると考えられます。強度行動障害については「対応できる（対応した実績がある）」がやや増加しており、事業所における受け入れ態勢が広がりつつあることが示されています。



計画相談支援を利用できる環境が市内で十分に確保されていないことは、これまでも指摘されており、この度のアンケート調査でも同様のことが示されています。各種アンケート調査のニーズにおいても「いつでも相談できる窓口の充実」や「相談支援体制の充実」が上位であることを踏まえ、市内の計画相談支援事業所を確保し、障がい福祉サービスを利用しやすい環境づくりが求められています。また、「介助者の支援や休息」、「親なき後」を見据え、「居宅介護（ホームヘルプ）」のニーズが高まってきています。本サービスは、市内では不足している障害福祉サービスとなっているため、供給量を増やすための調査や研究が必要と考えられます。

「こども発達センターにじいろ」については、本市における障がい児支援の中核的な機関としての利用と理解が広がっています。引き続き、積極的に啓発を行い、更なる認知の増加をめざします。

三木市障がい者施策に関するアンケート調査
【結果報告書】

令和8年5月

三木市 健康福祉部 障がい福祉課

〒673-0492 兵庫県三木市上の丸町10番30号

TEL：0794-82-2000（内線2304） FAX：0794-89-2449